医療法人社団

筑波記念会

2022 年度年報

2022.4-2023.3

筑波記念病院
筑波総合クリニック
つくばトータルヘルスプラザ
つくばケアセンター
つくば訪問看護ステーション
大穂豊里地域包括支援センター

筑波記念病院
TSUKUBA MEMORIAL HOSPITAL

INDEX

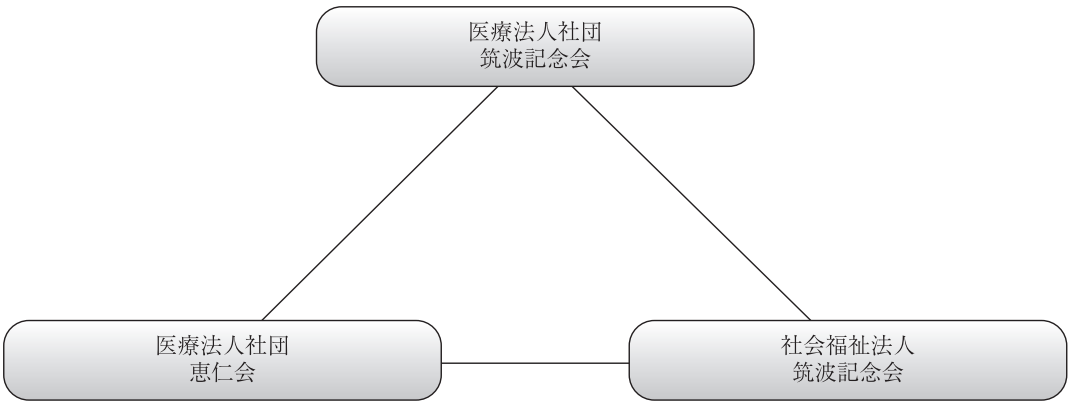
Fiscal year 2022

筑波記念グループ …… 2
組織図 …… 2
小關　迪　会長　を偲ぶ …… 3
医療法人社団 筑波記念会　概要 …… 4
基本理念・ビジョン・組織図 …… 4
筑波記念病院　組織図 …… 5
沿革 …… 6
施設概要 …… 8
筑波記念病院 …… 8
筑波総合クリニック …… 11
つくばトータルヘルスプラザ …… 11
介護老人保健施設　つくばケアセンター …… 12
診療部門 …… 14
血液内科 …… 14
呼吸器内科 …… 16
循環器内科 …… 18
消化器内科 …… 20
神経内科 …… 22
糖尿病・内分泌代謝内科 …… 24
眼科 …… 26
形成外科 …… 28
呼吸器外科 …… 30
耳鼻咽喉科 …… 32
消化器外科 …… 34
小児外科 …… 36
心臓血管外科 …… 38
整形外科 …… 40
脳神経外科 …… 42
婦人科 …… 44
救急科 …… 45
小児科 …… 46
皮膚科 …… 47
病理診断科 …… 48
放射線科 …… 50
麻酔科 …… 52
リハビリテーション科 …… 54
緩和ケア …… 56
精神科 …… 56
乳腺・甲状腺外科 …… 56
筑波記念病院　臨床研修医 …… 58
業績集 …… 60
論文 …… 60
書籍 …… 63
学会・講演・セミナー等 …… 63
診療支援部門 …… 70
看護部 …… 70
薬剤部 …… 74
放射線部 …… 76
リハビリテーション部 …… 78
臨床検査部 …… 84
臨床工学課 …… 86
栄養管理課 …… 88
医療相談室 …… 92
臨床心理 …… 94
地域医療連携部 …… 96
委　員　会 …… 100
病院運営管理会議 …… 100
医療安全管理委員会 …… 101
医療安全対策チーム …… 102
転倒転落対策 WG …… 104
医療放射線管理チーム …… 105
MRI 安全管理チーム …… 106
報告書確認対策チーム …… 106
感染対策管理員会 …… 107
感染対策チーム …… 109
労働安全衛生管理委員会 …… 111
働き方改革委員会 …… 113
防火防災管理委員会 …… 114
臨床研修運営管理委員会 …… 114
臨床研修運営チーム …… 115
医療従事者研修管理委員会 …… 117
地域医療研修運営チーム …… 118
診療管理委員会 …… 119
救急診療運営チーム …… 120
手術部運営チーム …… 121
ICU 運営チーム …… 122
シーティング運営チーム …… 123
病院機能改善管理委員会 …… 124
医療ガスチーム …… 125
がん化学療法検討委員会 …… 126
輸血運営チーム …… 126
診療録チーム …… 127
医療情報システム管理チーム …… 128
臨床検査運営チーム …… 129
栄養チーム …… 130
栄養サポートチーム（NST） …… 131
摂食嚥下ケアチーム …… 132
褥瘡対策チーム …… 133
急性期看護補助運営チーム …… 134
クリティカルパス・DPC チーム …… 135
緩和ケア委員会（緩和ケアチーム） …… 136
地域医療サービスチーム …… 137
企画広報運営チーム …… 138
倫理委員会 …… 139
薬事委員会 …… 140
筑波総合クリニック …… 142
つくばトータルヘルスプラザ …… 144
介護老人保健施設　つくばケアセンター …… 148
つくば訪問看護ステーション …… 149
大穂豊里地域包括支援センター …… 150
筑波記念病院 統計 …… 152
患者統計 …… 152
科別外来患者数 …… 152
救急車搬送患者記録 …… 153
ドクターヘリ搬送患者数 …… 154
平均在院日数（一般病床） …… 154
入院延べ患者数 …… 155
新入院患者数 …… 156
手術件数（入院・外来） …… 157
手術件数（入院のみ・時間帯別） …… 158
病床利用率 …… 158
主な指導料・管理料 …… 159
地域がん登録部位別件数 …… 160
院内・院外　研修・講演会一覧 …… 161

地域のしあわせを護りつづける

筑波記念グループは、「ここに来て本当に良かった」と感じていただけるような
医療・介護サービスの提供ができるよう今後も努力して参ります

筑波記念グループ　組織図



小關　迪　会長　を偲ぶ

2022 年 12 月 29 日、当会創設者である小關 迪 会長が逝去しました。小關 迪 会長は、筑波大学 循環器内科の初代医局長として立ち上げに関わった後、「地域住民がいつでも気兼ねなく 24 時間受診出来る病院を創りたい」と一念発起し、1982 年、地域において初めての 24 時間救急病院として筑波記念病院を開設しました。院内には創立前年に茨城新聞に掲載された記事が残っており、「救急医療体制に厚み」「“地域医療の貧困さ” に発奮」と見出しが付けられています。

それからおよそ 40 年間、当会は故人の指揮のもと、救急医療を絶え間なく行なっていく一方で、超急性期から急性期、亜急性期、慢性期、介護、予防医療までシームレスな医療・福祉の提供を目指してきました。1994 年に健康増進施設「つくばトータルヘルスプラザ」、1998 年には「介護老人保健施設つくばケアセンター」、さらに 2005 年には外来診療施設である「筑波総合クリニック」を設立しました。病院では 2 次救急医療指定に加え、365 日体制の総合リハビリテーションを整備し、救急医療とリハ医療を両輪としてきました。生前、故人が自身の半生を振り返り「破天荒の 45 年」と記しておりましたが、正に地域、そして頼っていただける患者さんのためにがむしゃらに創り上げてきた結果です。そして現在、筑波記念病院は病床数 487 床となり、県内民間病院初の地域医療支援病院として地域の医療機関や福祉・介護施設との連携を深め、地域完結型医療の提供を目指しています。

2023 年 3 月 18 日には、ホテルグランド東雲（つくば市）にて「故 小關 迪　お別れ会」を執り行いました。公私にわたってご縁のあった大変大勢の方がご来場くださいました。茨城県 大井川 和彦 知事、つくば市 五十嵐 立青 市長を始め、多くの方に弔事、弔電を賜り、献花やヒストリービデオで故人を偲んでいただきました。また、会場には写真や故人のお気に入りだったものを並べ、和やかな空気で思い出を語りあっていただきました。

当会では、毎年 12 月 29 日に納会を開催しています。365 日 24 時間稼働する救急病院ではありますが、その年を振り返り、締めくくる大切な節目です。奇しくも小關 迪 会長の命日となりました。きっと「しっかりしろ！」と私たちを叱咤激励してくれているものと思い、気持ちを引き締める日になりそうです。今後も「誠意を以って最善をつくす」との理念を掲げ、故人の残したものを地域の財産として、皆さまの生活の安心に繋がるよりよい医療・福祉サービスを提供できるようこれからも職務に邁進していきたいと思います。

医療法人社団　筑波記念会
理事長　小關　剛

医療法人社団 筑波記念会　概要

基　本　理　念

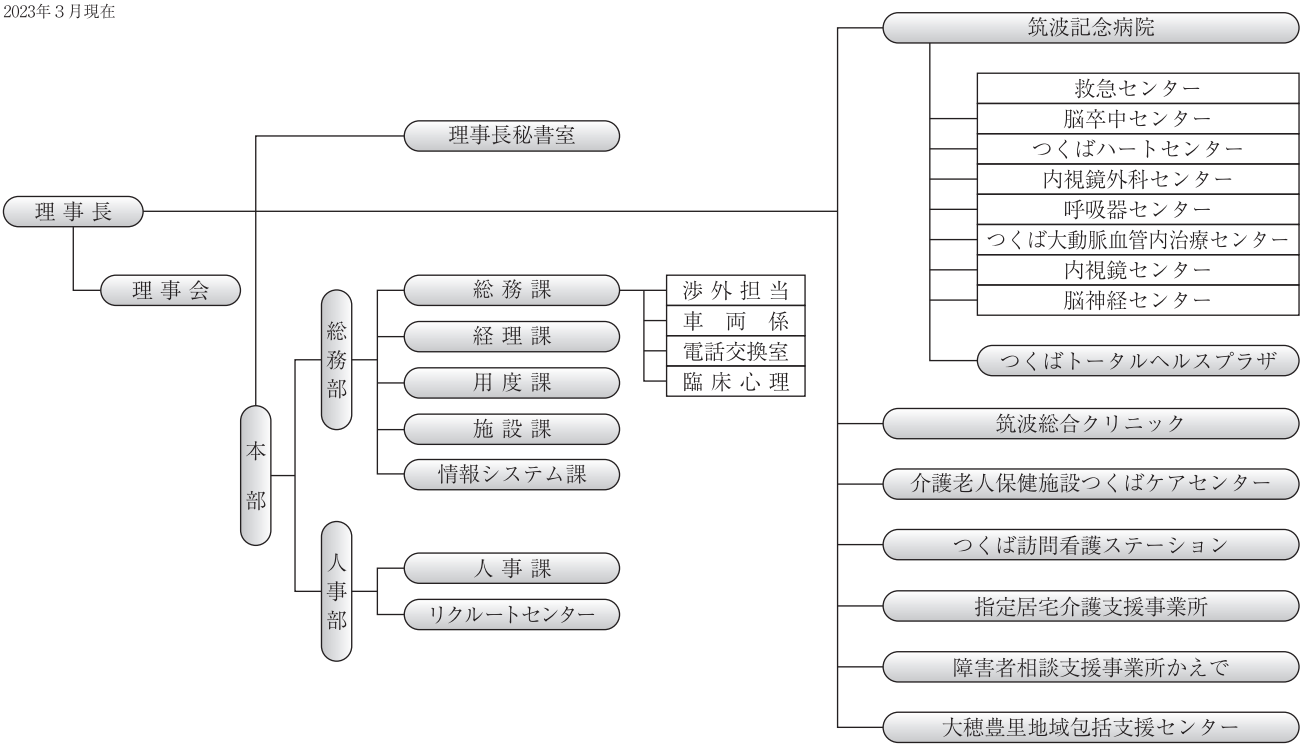
誠意を以って最善をつくす

ビジョン

最初に頼られる救急病院
いつでも気兼ねなく相談できる地域医療支援病院
地域を支える医療人を育成する臨床教育病院

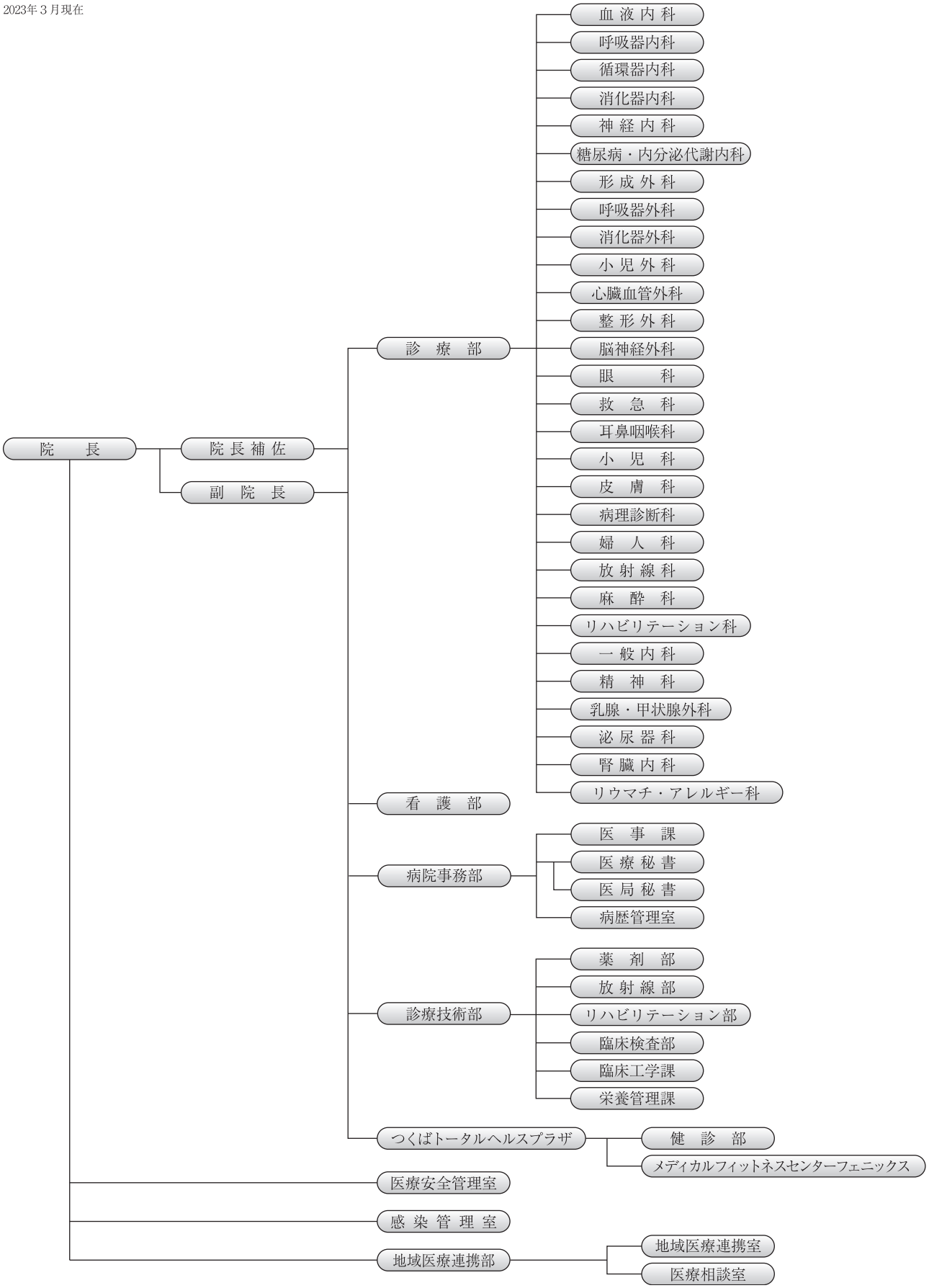
筑波記念会　組織図

2023年３月現在



筑波記念病院　組織図

2023年３月現在



沿　　革

1982	2	筑波記念病院開設
		保険医療機関指定
	4	生活保護法医療機関指定
	5	第二次救急医療機関指定
	6	労災保険医療機関指定
1983	2	筑波健康推進センター開設
		人間ドック及び健康診断実施
		日本体力医科学研究所開設
1984	8	結核指定医療機関指定
1985	10	託児所「アイビー保育園」開設
1986	1	医療法人社団筑波記念会認可
1987	12	筑波記念病院附属第一病院開設
1989	8	附属第一病院廃止、筑波記念病院に吸収合併
1992	2	中央管理棟完成
	3	在宅介護支援センター開設
	10	つくば訪問看護ステーション開設
1994	11	「つくばトータルヘルスプラザ」、メディカルフィットネスセンター「フェニックス」開設
1996	6	老人デイケア施設「ピンクハウス」開設
1997	7	ホームページ開設
1998	4	老人保健施設「つくばケアセンター（現２号棟）」開所
1999	4	指定居宅介護支援事業所開設
		クリティカルパス導入
	12	難病医療協力病院指定
2000	12	つくば市より事業委託 病後児保育「ピーターパン」開設
2001	3	病児家族宿泊施設「ファミリーハウス」開設
	8	日本医療機能評価機構　病院機能評価基準（一般病院Ｂ（200 床以上））認定取得
	9	茨城県地域リハ・ステーション指定
2002	4	臨床研修病院指定
	7	「つくばクリニック（眼科）」開設
	10	茨城県訪問リハビリテーション・ステーション指定
2003	6	地域医療連携室設置
	7	介護老人保健施設「つくばケアセンター」リニューアルオープン
	8	療養病棟「けやき」開設
	11	開放型病院指定
2004	6	セカンドオピニオン外来開始
	7	DPC（診断群分類・包括評価）開始
	9	回復期リハビリテーション病棟「ひのき」開設
2005	5	外来専門クリニック「筑波総合クリニック」開設
	9	「つくばケアセンター」内に訪問リハビリテーション事業所開設
2006	1	県南スポーツ医科学センター認定
		茨城県地域リハビリテーション研修推進支援センター指定
	9	日本医療機能評価機構　病院機能評価基準（審査体制区分：3）認定更新（ver.5）
2008	4	特定健康診査・特定保健指導機関登録
	5	高機能医療センター開設
2010	7	ドクターヘリ受入開始
2011	10	回復期リハビリテーション病棟リニューアル
	11	日本医療機能評価機構　病院機能評価基準（審査体制区分：3）認定更新（ver.6）
2012	3	「つくばトータルヘルスプラザ」リニューアル
	9	地域医療支援病院　承認
	10	メディカルフィットネスセンター「フェニックス」指定運動療法施設認定
		「つくばケアセンター」訪問リハビリテーション下妻出張所開設
2013	2	「つくばケアセンター」訪問リハビリテーション桜川出張所開設
	10	障害者相談支援事業所「かえで」開設
2014	4	筑波記念病院附属「アイビー保育園」新築移転
	5	「つくばケアセンター」訪問リハビリテーション土浦出張所開設
2015	9	筑波記念病院「Ｓ棟」竣工

2016	4	「つちうらハートクリニック」開設
	8	日本医療機能評価機構認定基準（機能種別版評価項目 3rdG：Ver.1.1）認定更新
		（主たる機能：一般病院 2、副機能：リハビリテーション病院）
2017	1	DMAT 指定医療機関指定
	11	筑波記念グループが誕生し、新たに医療法人恵仁会加わる
2018	10	社会福祉法人　筑波記念会が誕生し、新たに筑波記念グループに加わる
	11	茨城県女性が輝く優良企業認定制度に認定
2019	4	「大穂豊里包括支援センター」開設（つくば市委託）
	9	在宅療養後方支援病院　承認
	9	災害拠点病院　指定
2020	3	新型コロナウイルス感染症患者入院受入開始
	4	電子カルテシステム導入
2021	4	新型コロナウイルス感染症患者病床（重症病床）増床
	8	日本医療機能評価機構認定基準（機能種別版評価項目 3rdG：Ver.2.0）認定更新
		（主たる機能：一般病院 2、副機能：リハビリテーション病院）
2022	4	救急科・リハビリテーション科専門医研修プログラム受入開始
	12	当会創設者　小關 迪 会長　逝去（12 月 29 日）
2023	3	「故 小關 迪　お別れ会」開催

施　設　概　要

筑波記念病院

管理者：長澤　俊郎

〒 300-2622　茨城県つくば市要 1187-299　　TEL 029-864-1212　FAX 029-864-8135

病床数　487 床　　一般病床:387 床（ICU 8 床　急性期（7 対 1）327 床　回復期リハビリテーション病棟 52 床）
療養病床（医療保険適用）：100 床（療養病棟 51 床　地域包括ケア病棟 49 床）

標榜科目

内科、循環器内科、呼吸器内科、消化器内科、血液内科、神経内科、糖尿病・内分泌代謝内科、アレルギー科、リウマチ科、外科、脳神経外科、心臓血管外科、呼吸器外科、消化器外科、整形外科、形成外科、小児科、小児外科、婦人科、精神科、皮膚科、眼科、耳鼻咽喉科、泌尿器科、リハビリテーション科、放射線科、麻酔科、病理診断科、救急科、美容皮膚科

基準情報

地域医療支援病院	難病医療協力病院
DPC 対象病院	原子爆弾被爆者指定医療機関
日本医療機能評価機構 （主たる機能：一般病院 2、副機能：リハビリテーション病院）認定	自立支援医療機関（精神通院）
第二次救急指定病院	医療機関検診実施指定病院
臨床研修病院指定（基幹型）	DMAT 指定医療機関
労災保険二次健診等給付医療機関	茨城県肝がん・重度肝硬変治療研究促進事業指定医療機関
特定疾患（一般・小児）治療研究機関	災害拠点病院
生活保護法第 49 条規定医療機関	

施設基準等（基本診療料）

一般病棟入院基本料　急性期一般１（７対１）	感染防止対策加算１　地域連携加算　抗菌支援加算
療養病棟入院基本料２	患者サポート体制充実加算
救急医療管理加算 1，2	後発医薬品使用体制加算１
超急性期脳卒中加算	病棟薬剤業務実施加算１
診療録管理体制加算２	データ提出加算２ィ
医師事務作業補助体制加算２チ（100 対 1）	入退院支援加算１ィロ
急性期看護補助体制加算３（50 対 1）	認知症ケア加算１
看護職員夜間配置加算１ロ（12 対 1 加算 2）	せん妄ハイリスク患者ケア加算
療養環境加算	地域医療体制確保加算
療養病棟療養環境加算１	特定集中治療室管理料３　早期栄養介入管理加算
無菌治療室管理加算１	回復期リハビリテーション病棟入院料１
栄養サポートチーム加算	地域包括ケア病棟入院料２（療養病棟）
医療安全対策加算１	

施設基準等（特掲診療料）

遠隔モニタリング加算（心臓ペースメーカー指導管理料）	心大血管疾患リハビリテーション料（Ⅰ）
院内トリアージ実施料	脳血管疾患等リハビリテーション料（Ⅰ）
救急搬送看護体制加算	運動器リハビリテーション料（Ⅰ）
開放型病院共同指導料	呼吸器リハビリテーション料（Ⅰ）
がん治療連携指導料	がん患者リハビリテーション料
薬剤管理指導料	集団コミュニケーション療法料
医療機器安全管理料１	椎間板内酵素注入療法
在宅療養後方支援病院	経皮的冠動脈形成術（特殊カテーテルによるもの）
在宅植込型補助人工心臓（非拍動流型）指導管理料	ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術（リードレスペースメーカー）
持続血糖測定器加算及び皮下連続式グルコース測定	両心室ペースメーカー移植術及び両心室ペースメーカー交換術（経静脈電極の場合）
検体検査管理加算（Ⅰ），（Ⅱ）	植込型除細動器移植術、植込型除細動器交換術及び経静脈電極抜去術
ヘッドアップティルト試験	両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術及び両室ペーシング機能付き植込型除細動器交換術（経静脈電極の場合）
画像診断管理加算１，２	大動脈バルーンパンピング法（ＩＡＢＰ法）
ＣＴ撮影（64列以上のマルチスライスＣＴ）	補助人工心臓
ＭＲＩ撮影（3テスラ以上）	早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術
冠動脈ＣＴ撮影加算	輸血管理料２
心臓ＭＲＩ撮影加算	貯血式自己血輸血管理体制加算
乳房ＭＲＩ撮影加算	人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算
頭部ＭＲＩ撮影加算	胃瘻造設時嚥下機能評価加算
全身ＭＲＩ撮影加算	麻酔管理料（Ⅰ），（Ⅱ）
外来化学療法加算２	病理診断管理加算１
無菌製剤処理料	

諸指定

日本外科学会外科専門医制度修練施設	下肢静脈瘤に対する血管内治療実施基準による実施施設
日本整形外科学会専門医研修施設	三学会構成心臓血管外科専門医認定機構認定基幹施設
日本眼科学会認定専門医制度研修施設	浅大腿動脈ステントグラフト実施施設
日本脳神経外科学会専門研修プログラム連携施設	日本ステントグラフト実施基準管理委員会胸部ステントグラフト実施施設
日本医学放射線学会認定放射線科専門医修練機関	日本ステントグラフト実施基準管理委員会腹部ステントグラフト実施施設
日本麻酔科学会認定麻酔科認定病院	日本心血管インターベンション治療学会認定研修施設
日本リハビリテーション医学会研修施設	日本脈管学会認定研修指定施設
日本消化器内視鏡学会専門医制度指導施設	日本超音波医学会認定超音波専門医研修施設
日本消化器病学会専門医制度認定施設	日本乳癌学会認定医・専門医制度関連施設
日本循環器学会認定循環器専門医研修施設	マンモグラフィー検診施設画像認定施設
呼吸器内科領域専門研修施設群（連携施設）	日本認知症学会認定教育施設
日本血液学会認定専門研修認定施設	日本医療薬学会認定日本医療薬学会がん専門薬剤師研修施設
日本神経学会准教育施設	日本医療薬学会認定日本医療薬学会薬物療法専門薬剤師研修施設
日本消化器外科学会専門医修練施設	日本医療薬学会認定薬剤師制度研修施設
心臓血管麻酔専門医認定施設	一般財団法人日本作業療法士協会　作業療法士臨床実習指導施設
日本脳卒中学会一次脳卒中センター	臨床栄養師研修施設
日本脳卒中学会専門医認定制度研修教育施設	日本臨床栄養代謝学会 NST 稼働施設
日本不整脈心電学会認定不整脈専門医研修施設	茨城県地域リハ・ステーション
日本がん治療認定医機構認定研修施設	茨城県地域リハビリテーション研修支援センター
日本大腸肛門病学会認定施設	茨城県地域リハビリテーション推進拠点
呼吸器外科専門医合同委員会認定専門研修連携施設	茨城県肝疾患専門医療機関
経皮的カテーテル心筋冷凍焼灼術	

筑波総合クリニック

管理者：飯田　啓治

〒300-2622　茨城県つくば市要65　　TEL 029-877-1221　FAX 029-877-1191

標榜科目

内科、循環器内科、呼吸器内科、消化器内科、神経内科、血液内科、アレルギー科、リウマチ科、外科、脳神経外科、心臓血管外科、呼吸器外科、消化器外科、整形外科、形成外科、小児科、婦人科、皮膚科、眼科、耳鼻咽喉科、泌尿器科、精神科、放射線科

つくばトータルヘルスプラザ

施設長：中原　朗

〒300-2622　茨城県つくば市要1187-299　　TEL 029-864-3588　FAX 029-864-8585

諸指定

厚生労働大臣認定健康増進施設	日本脳ドック学会認定脳ドック施設
全国健康保険協会生活習慣病予防健診実施機関	厚生労働省指定運動療法施設
日本総合健診医学会認定優良総合健診施設	日本総合健診医学会及び日本人間ドック学会認定人間ドック健診専門医研修施設
健康評価施設査定機構認定人間ドック・総合健診・特定健診・特定保健指導施設	日本人間ドック学会機能評価認定施設

介護老人保健施設 つくばケアセンター

管理者：神山　幸一

〒300-2622　茨城県つくば市要 76　　TEL 029-877-1313　FAX 029-877-1334

つくばケアセンター　訪問リハビリテーション

〒300-2622　茨城県つくば市要 76（介護老人保健施設 つくばケアセンター内）

TEL 029-877-1313　FAX 029-877-1334

つくばケアセンター　訪問リハビリテーション　下妻出張所

〒304-0051　茨城県下妻市小島 695　ブリランテ下妻 105

つくばケアセンター　訪問リハビリテーション　桜川出張所

〒300-4414　茨城県桜川市真壁町椎尾 1632-1

つくばケアセンター　訪問リハビリテーション　土浦出張所

〒300-0812　茨城県土浦市下高津 1-19-33

サービスの種類

介護保健施設サービス（入所）
介護予防短期入所療養介護・短期入所療養介護（ショートステイ）
介護予防通所リハビリテーション・通所リハビリテーション（デイケア）
介護予防訪問リハビリテーション・訪問リハビリテーション

定員等

入所定員	100 名（介護予防短期入所療養介護・短期入所療養介護も含む） 療養室　　個室　12 室、4 床室　22 室
通所定員	40 名（介護予防通所リハビリテーションも含む）

基準情報

生活保護法等指定介護機関
全国老人保健施設協会実地研修指定施設

施設基準等

入所

介護保健施設サービス費（Ⅰ）	再入所時栄養連携加算
サービス提供体制強化加算（Ⅰ）	かかりつけ医連携薬剤調整加算
夜勤職員配置加算	所定疾患施設療養費
短期集中リハビリテーション実施加算	認知症行動・心理症状緊急対応加算
認知症短期集中リハビリテーション実施加算	認知症情報提供加算
療養食加算	入所前後訪問指導加算
経口維持加算	地域連携診療計画情報提供加算
初期加算	褥瘡マネジメント加算Ⅰ～Ⅲ
口腔衛生管理加算	排泄支援加算Ⅰ～Ⅳ
外泊時費用	施行的退所時指導加算
ターミナルケア加算	退所時情報提供加算
入退所前連携加算Ⅰ、Ⅱ	緊急時治療管理

訪問看護指示加算	在宅復帰・在宅療養支援機能加算
介護職員処遇改善加算（Ⅲ）	介護職員特定処遇改善加算（Ⅰ）

短期入所療養介護

介護老人保健施設短期入所療養介護費（Ⅰ）	送迎加算
介護老人保健施設介護予防短期入所療養介護費（Ⅰ）	重度療養管理加算
個別リハビリテーション実施加算	在宅復帰・在宅療養支援機能加算（Ⅰ）
療養食加算緊急	緊急短期入所受入加算
サービス提供体制強化加算（Ⅰ）	緊急時治療管理
夜勤職員配置加算	認知症行動・心理症状緊急対応加算
介護職員処遇改善加算（Ⅲ）	介護職員特定処遇改善加算（Ⅰ）

通所リハビリテーション

通常規模型リハビリテーション費	サービス提供体制強化加算（Ⅰ）
6時間以上8時間未満の前後延長サービス	介護予防通所リハビリテーション費
リハビリテーション提供体制加算	理学療法士等体制強化加算
入浴介助加算（Ⅰ）、（Ⅱ）	重度療養管理加算
リハビリテーションマネジメント加算（A）イ（B）イ	中重度者ケア体制加算
短期集中個別リハビリテーション実施加算	移行支援加算
認知症短期集中リハビリテーション実施加算	運動器機能向上加算
生活行為向上リハビリテーション実施加算	選択的サービス複数実施加算
栄養改善加算	事業所評価加算
口腔機能向上加算	介護職員処遇改善加算（Ⅲ）
介護職員特定処遇改善加算（Ⅰ）	

訪問リハビリテーション

訪問リハビリテーション費	サービス提供体制強化加算（Ⅰ）
介護予防訪問リハビリテーション費	移行支援加算
短期集中リハビリテーション実施加算	リハビリテーションマネジメント加算（A）イ～（B）ロ
事業所評価加算	訪問リハ計画診療未実施減算

協力医療機関

筑波記念病院
筑波総合クリニック
おおさわ歯科医院

血　液　内　科

【総括】

1．2022 年度の実績報告告

2022 年度は前年度に続き、新型コロナ入院病棟の設置に伴う病棟再編の影響でクリーンルームを含め他科との混合病床となりベッドコントロールに苦慮したため、血液内科としての入院実績はやや低迷した。

一方で、外来化学療法は引き続き増加傾向であり、初めて年間のべ 1,200 件を上回った。

疾患の内訳としては悪性リンパ腫が最も多く、次いで急性白血病、多発性骨髄腫と続く。初回の化学療法は入院で行うことが多く、いずれのプロトコルも 1 コースが 21 ～ 28 日で設定されていることもあり、平均在院日数が長くなる傾向がある。

学術としては病院として臨床研修に注力していることもあり、当科でも初期及び後期研修医に指導を行いながら日本内科学会、日本血液学会それぞれの総会、地方会での学会発表を行った。

2．2023 年度の課題・目標

平均在院日数の短縮においては、安全面を担保したうえでの早期退院、外来での血球減少推移のフォローなどを検討する。外来通院困難な症例に対する短期での化学療法入院も行っていくが、DPC 算定との擦り合わせが必要である。

外来化学療法についても引き続き拡大を目指すが、現状外来化学療法室の病床数が限られており、曜日や時間帯による変動を最小化したい。

［文責：一色雄裕］

【人事】

氏　　名	役　　職	勤　務
長澤　俊郎	筑波記念病院　管理者	常(HP)
佐藤　祐二	副院長（感染・輸血・化学療法統括）	常(HP)
一色　雄裕	血液内科診療部長	常(HP)
鈴木　幸恵		常(HP)
渡邉　真威		常(HP)
飯村　百萌		常(HP)
小松　恒彦		非(HP)
田岡　謙一		非(HP)

【科別 MDC 件数】

MDC	MDC 名	症　例　数	平均在院日数
130030	非ホジキンリンパ腫	149	18.7
130010	急性白血病	112	23.5
130040	多発性骨髄腫、免疫系悪性新生物	51	21.7
040080	肺炎等	20	13.4
130060	骨髄異形成症候群	20	29.3
040081	誤嚥性肺炎	19	25.7
130080	再生不良性貧血	18	18.5
110310	腎臓又は尿路の感染症	15	13.1
050130	心不全	11	12.1
180030	その他の感染症（真菌を除く。）	11	24.9

【外来患者数（筑波記念病院・筑波総合クリニック）】

4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
969	854	918	1,003	1,027	893	921	1,032	1,093	1,067	819	884	11,480

呼　吸　器　内　科

【総括】

1．2022 年度の実績報告（診療統計の解説、治療成績、教育・研究）

呼吸器内科は開設８年目となった。川島海医師、乾年秀医師、石川宏明医師、渡邊裕子医師、坂本透医師の５名に加え、後半の６ヶ月間は筑波大学から柴垣厚仁医師が派遣され、計６名体制で病院・クリニックの診療に当たった。また、松野洋輔医師が非常勤としてクリニック診療に従事した。

病院新入院患者数は 475 名であった。内訳は、肺癌 114 名、COVID-19 112 名、間質性肺疾患 64 名、細菌性肺炎 35 名、誤嚥性肺炎 21 名、COPD19 名、気胸・縦隔気腫 10 名、膿胸 10 名、肺化膿症７名、喘息７名、気管支拡張症５名、胸水・胸膜炎４名、非結核性抗酸菌症４名、結核３名、気管支・細気管支炎２名、インフルエンザ１名､その他 56 名であった。平均在院日数は 14.5 日であった。気管支鏡検査は年間 95 件（前年比 1.5 倍）に達した。また、病院・クリニックの外来受診者数は 6,722 名（前年比 477 名増）であった。

教育活動としては、初期研修医８名、内科専攻医１名を受入れ、呼吸器疾患の診断や治療に必要な基礎知識や診療技術の指導を行った。

研究活動としては、呼吸器学会および呼吸器内視鏡学会の関東地方会において計２演題の発表を行った。さらに、英文の症例報告と研究報告を２編発表した。

2．2023 年度の課題・目標

2023 年４月にはコンベックス走査式超音波気管支鏡が導入される。これにより、肺門・縦隔のリンパ節病変の病理学的診断が可能となり、肺癌の正確な病期判定や、サルコイドーシスの診断に威力を発揮することが期待される。さらに、縦隔鏡検査の必要性が減少することにより、医療費削減につながる。

本院は 2023 年１月より日本呼吸器内視鏡学会の関連認定施設として認定された。症例を選択し、年間 120 件以上の気管支鏡検査・局麻下胸腔鏡検査の実施を目指したい。

［文責：坂本　透］

【人事】

氏　　名	役　　職	勤　務
坂本　　透	呼吸器内科診療部長、呼吸器センター長	常(HP)
渡邉　裕子		常(HP)
石川　宏明		常(HP)
乾　　年秀		常(HP)
川島　　海		常(HP)

【科別 MDC 件数】

MDC	MDC 名	症　例　数	平均在院日数
180030	その他の感染症（真菌を除く。）	130	11.6
040040	肺の悪性腫瘍	120	11
040110	間質性肺炎	59	19
040080	肺炎等	39	16
040081	誤嚥性肺炎	23	25
110310	腎臓又は尿路の感染症	17	17
040150	肺・縦隔の感染、膿瘍形成	15	20
040120	慢性閉塞性肺疾患	12	19
050130	心不全	10	12
040100	喘息	6	22

【外来件数】

4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
452	532	521	511	544	522	478	580	745	697	546	594	6,722

【入院患者数（転科した患者を含む）】

4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
40	30	43	46	50	33	43	32	35	48	43	51	494

循 環 器 内 科

【総括】

1．2022 年度の実績報告

2022 年度も筑波大学から新たな派遣はなく、つくばハートセンターにも増減はなかった。年度半ばで木村弥生医師が退職したことにより、更なるマンパワー低下を来した。COVID-19 の流行による患者数の増減が続いたことは致し方ない。

手術件数、内容に大きな増減はなかった。特筆すべき新手術導入もなかった。稀少疾患については主として筑波大学への紹介を行った。虚血部門は安定した手技で診療の本幹を支えた。不整脈部門は人的逼迫に加え需要増加があり、かなりの症例を筑波大学に紹介依頼した。

本年度も心臓血管外科には大変お世話になった。安全性の担保としても心臓外科の存在は重要であり、患者さまに安心安全な医療を提供できたと自負する。生理検査部門には心エコー、ホルター解析など複雑なお願いにも快く対応いただき感謝している。臨床工学部門には、カテ室の管理、手技の助手、ペースメーカーなど植込み型デバイスの管理を含め、今年度も大いにお世話になった。リハビリテーション部には、新型コロナ感染の最前線で身を挺してリハビリを継続していただき、感謝の言葉もない。多職種の協調介入によって循環器診療が成り立っている。学会発表は今年も虚血部門のみである。

2．2023 年度の課題・目標

人的には 1 人減での対応になる。働き方改革が間近に迫り、喫緊に対策を構築する必要がある。質を担保しながら、法律を遵守していけるよう努力する所存である。タスクシフトとしては心不全療養士など専門職の育成が急務である。対策を講じなければ短期間の内に破綻すると推測される。

［文責：井川昌幸］

【人事】

氏　名	役　職	勤　務
榎本　強志	院長補佐（総合診療統括）	常（HP）
井川　昌幸	循環器内科診療部長	常（HP）
我妻　賢司	つくばハートセンター　センター長	常（HP）
新居　秀郎	循環器内科診療科長、集中治療部科長	常（HP）
内田　靖人	循環器内科診療医長	常（HP）
竹井　義純		常（HP）
木村　弥生		常（HP）
沼田るり子		常（HP）
青沼　和隆		非（HP）
一戸　貴子		非（HP）

【手術件数】

分　類	件　数
経皮的冠動脈ステント留置術	155
経皮的カテーテル心筋焼灼術	64
経皮的冠動脈形成術	46
ペースメーカー移植術・交換術	45
除細動器移植術・交換術	3
その他	9
総手術件数	322

【科別 MDC 件数】

MDC	MDC 名	症　例　数	平均在院日数
050050	狭心症、慢性虚血性心疾患	265.0	5.4
050130	心不全	178.0	23.5
050070	頻脈性不整脈	101.0	8.4
050030	急性心筋梗塞（続発性合併症を含む。）、再発性心筋梗塞	42.0	14.4
050210	徐脈性不整脈	27.0	13.4

【外来件数】

4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
2,217	1,911	1,974	2,011	1,965	1,866	2,002	1,815	2,119	1,920	1,785	2,020	23,605

消 化 器 内 科

【総括】

1．2022 年度の実績報告（人診療統計の解説、治療成績、教育・研究）

2022 年３月新里悠輔医師が退職し筑波大学附属病院助教に就任した。４月より江南ちあき医師が赴任、また当院内科専攻医２年の佐浦勲医師が消化器内科専攻となった。筑波大学消化器内科より内科専攻医２年の宇野広隆医師、湯原美貴子医師、東京医科大学茨城医療センターから専攻医３年中川俊一郎医師が研修のため赴任された。

①2022年度の当科入院のべ患者数は17,078名、新入院患者数1,253名、外来受診者数25,474名であった。新入院患者数は過去最高となり、コロナ禍前の水準に戻りつつある。また外来化学療法のべ患者数は、これまでの800人台から1,052人となり増加傾向である。

②EUS件数は2021年から増加傾向で過去最高の84件となった。ERCPも2021年から280件台と増加傾向にある。ESDは116件と初めて100件を超え過去最高となった。

③学会発表に関しては研修医・専修医の発表を5件行った。また江南医師が第102 回日本消化器内視鏡学会関東支部例会研修医セッションにおいて座長を務めた。

④論文執筆では池澤和人医師が英文誌（Nutrition & Dietetics Nutr Diet）に筆頭著者で1論文、共同著者で1論文（Jpn J Clin Oncol）発表した。

⑤丹下医師が消化器病専門医、消化器内視鏡専門医を取得した。また添田医師が日本消化器病学会評議員に就任した。

2．2023 年度の課題・目標

①以前からの目標であるESD100件を達成、ERCP年間目標300件は280件と達成間近である。また紹介患者も1,148件と増加、年間総数1,200例以上の目標達成間近である。

②消化器研修病院としての役割が認められるようになり、消化器内科専攻医が増加し教育体制を考慮する必要がみられるようになった。

［文責：添田敦子］

【人事】

氏　名	役　職	勤　務
池澤　和人	副院長（医療安全管理統括、内科診療統括、地域医療連携管理統括）	常(HP)
添田　敦子	消化器内科診療部長	常(HP)
越智　大介	消化器内科診療医長、内視鏡センター長	常(HP)
江南ちあき		常(HP)
丹下　善隆		常(HP)
根本　絵美		常(HP)
杉山　弘明		非(HP)
山本　祥之		非(HP)
遠藤　壮登		非(HP)

【外来患者数（筑波記念病院・筑波総合クリニック）】

4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
1,978	1,865	2,295	2,212	2,359	2,298	2,103	2,072	2,291	1,942	1,953	2,106	25,474

【科別 MDC 件数】

MDC	MDC 名	症　例　数	平均在院日数
060340	胆管（肝内外）結石、胆管炎	164	10.1
060020	胃の悪性腫瘍	125	11.0
060102	穿孔又は膿瘍を伴わない憩室性疾患	74	8.8
060035	結腸（虫垂を含む。）の悪性腫瘍	67	14.8
06007x	膵臓、脾臓の腫瘍	54	13.6
060130	食道、胃、十二指腸、他腸の炎症（その他良性疾患）	53	8.5
060140	胃十二指腸潰瘍、胃憩室症、幽門狭窄（穿孔を伴わないもの）	42	9.6
060040	直腸肛門（直腸Ｓ状部から肛門）の悪性腫瘍	39	10.0
060190	虚血性腸炎	36	8.5
040081	誤嚥性肺炎	34	24.0

【手術件数】

名　　称	件　数
内視鏡的大腸ポリープ・粘膜切除術	817
内視鏡的胆道ステント留置術	151
内視鏡的消化管止血術	69
胃 ESD	68
内視鏡的胆道結石除去術	59
内視鏡的乳頭切開術	52
食道・胃静脈瘤結紮術・硬化療法	37
結腸内視鏡的止血術	33
大腸 ESD	27
下部消化管ステント留置術	21
胃瘻造設術	18
内視鏡的胃・十二指腸ポリープ・粘膜切除術	14
内視鏡的食道・胃内異物摘出術	14
胃、十二指腸ステント留置術	12
内視鏡的膵管ステント留置術	11
食道 ESD	9
食道狭窄拡張術・ステント留置術	4
内視鏡的胆管ドレナージ	3
食道狭窄拡張術	1
内視鏡的胃、十二指腸狭窄拡張術	1
その他の手術	3
総計	1,424

【内視鏡検査数】

上部消化管内視鏡	総数	3,149
検査のみ		2,902
治療内視鏡	食道 ESD	9
	胃 ESD	68
	胃 EMR	14
	食道・胃静脈瘤硬化療法・結紮術	37
	止血術	69
	胃瘻造設・交換	18
	異物摘出術	14
	胃、十二指腸ステント留置術	12
	食道拡張術・ステント留置術	5
	胃・十二指腸狭窄拡張術	1

下部消化管内視鏡	総数	1,933
検査のみ		1,032
	バルーン内視鏡	3
治療内視鏡	ESD	27
	EMR	817
	ステント留置術	21
	止血術	33

ERCP	総数	286
検査のみ	胆管・膵管造影	10
治療内視鏡	砕石除去術	59
	乳頭切開術	52
	胆道ステント留置術	151
	膵管ステント留置術	11

EUS	総数	84
	EUS-FNA	23

全内視鏡総数	5,391

神　経　内　科

【総括】

1．2022 年度の実績報告（診療統計の解説、治療成績、教育・研究）

今年度は清水眸医師が軽井沢病院に移動したため、常勤４人体制（玉岡晃・脳神経センター長、星野幸子・診療医長、柳葉久実医師、武田勇人医師）で診療、教育、研究に当たった。

１）病棟

入院患者数は112名で、前年度より25.8%増加した。入院患者の疾患は脳梗塞25名、運動ニューロン疾患20名、パーキンソン病17名、大脳基底核等の神経変性疾患９名、脳脊髄の感染・炎症性疾患６名、重症筋無力症６名、てんかん６名、誤嚥性肺炎６名、一過性脳虚血発作5名であった。コンサルテーションでは、主に脳波読影の他、てんかんや不随意運動の診療依頼などに対応した。他院からの転入院依頼は、看護部、地域医療機関連携室、リハビリテーション部と随時相談して対処した。

２）外来診療

神経内科専門外来（年間5,604人、月平均467人）において、神経変性疾患、脳血管障害、てんかん、末梢神経・筋疾患を始めとする神経内科疾患全般の診療を行なった。外来患者数は前年度の年間4,834人、月平均403人から16%の増加であった。また、発熱外来も週2コマ担当し、COVID-19流行に対応した。

３）学術、教育活動

第63回日本神経学会学術大会、第672回日本内科学会関東地方会、第244回日本神経学会関東・甲信越地方会、第676回や第678回日本内科学会関東地方会などで研究発表を行ない、第6回日本脳神経外科認知症学会学術総会、第41回日本認知症学会学術集会／第27回日本老年精神医学会、日本老年精神医学会第８回心理士講習会などにて教育講演やシンポジストとしての発表を行なった。その他、多くの研究会などで座長やオープニングやクロージングのリマークを行い、神経疾患の啓発に努めた。また、日本神経学会準教育施設として、初期研修医や後期研修医の臨床指導を随時行い、医学生の教育を積極的に行った。この中から、初期研修医としてローテートしてきた林竜一郎医師が後期研修先として神経内科を選択し、筑波大学神経内科に入局した。

2．2023 年度の課題・目標

4月からの半年間三橋泉医師が加わり、8月より柳葉久実医師が復帰するため、外来患者、入院患者ともに更に数を増やしていく。入院患者では平均在日数の減少に努める。外来患者では、紹介患者、逆紹介患者の数の増加を推進する。

［文責：玉岡　晃］

【人事】

氏　　名	役　　職	勤　務
玉岡　　晃	脳神経センター　センター長	常(HP)
星野　幸子	神経内科診療医長	常(HP)
武田　勇人		常(HP)
柳葉　久実		常(HP)

【科別 MDC 件数】

MDC	MDC 名	症　例　数	平均在院日数
010060	脳梗塞	25	24.3
010155	運動ニューロン疾患等	20	29.8
010160	パーキンソン病	17	28.1
110310	腎臓又は尿路の感染症	12	20.2
010170	基底核等の変性疾患	9	16.9
010080	脳脊髄の感染を伴う炎症	6	32.3
010130	重症筋無力症	6	14.5
010230	てんかん	6	9.7
040081	誤嚥性肺炎	6	25.7
010061	一過性脳虚血発作	5	5.2

【外来患者数（筑波記念病院・筑波総合クリニック）】

4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
469	380	453	472	481	481	440	437	619	479	410	483	5,604

糖尿病・内分泌代謝内科

【人事】

氏　　名	役　　職	勤　務
片山　暁子		常(HP)

【科別 MDC 件数】

MDC	MDC 名	症　例　数	平均在院日数
10007x	２型糖尿病（糖尿病性ケトアシドーシスを除く。）	21	15.5
100040	糖尿病性ケトアシドーシス、非ケトン昏睡	5	7.8
100180	副腎皮質機能亢進症、非機能性副腎皮質腫瘍	3	3.7
050130	心不全	2	40.0
10006x	１型糖尿病（糖尿病性ケトアシドーシスを除く。）	2	5.5
180030	その他の感染症（真菌を除く。）	2	30.5
010060	脳梗塞	1	28.0
020110	白内障、水晶体の疾患	1	16.0
040081	誤嚥性肺炎	1	31.0
050070	頻脈性不整脈	1	9.0
10008x	その他の糖尿病（糖尿病性ケトアシドーシスを除く。）	1	6.0
100140	甲状腺機能亢進症	1	16.0
100210	低血糖症	1	65.0
100220	原発性副甲状腺機能亢進症、副甲状腺腫瘍	1	21.0
100391	低カリウム血症	1	5
100393	その他の体液・電解質・酸塩基平衡障害	1	13
11012x	上部尿路疾患	1	3

【外来患者数（筑波記念病院・筑波総合クリニック）】

4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
1,005	912	1,088	1,094	1,064	1,051	1,028	975	1,088	1,087	1,010	1,078	12,480

眼　　科

【総括】

1．2022 年度の実績報告（診療統計の解説、治療成績、教育・研究）

①クリニック外来に関して

外来患者数は昨年度とほぼ同等であった。

COVID-19の受診控えの影響は少なくなってきたのではないかと考えられた。

現在、新規患者の予約は一般外来のみで受け付けており、地域医療連携室を通していただければ診療の予約はスムーズである。

②手術に関して

11月下旬から12月上旬にかけて、院内のCOVID-19流行に伴い、手術を制限した。また、手術前の新型コロナウイルスPCR検査において無症状のコロナウイルス陽性患者が散見され、手術が延期となった方が一定数存在する。

それにもかかわらず白内障の手術件数は二人体制で手術を行っているので着実に件数を伸ばしている。地域の先生方にも数多くの御紹介をいただいており、今後も御紹介いただきたいと考えている。

斜視、眼瞼手術に関しては引き続き森田医師が担当している。

2．2023 年度の課題・目標

外来に関しては飽和状態になっており、急患を受けると更に待ち時間が長くなる傾向にある。手術患者は以前からなるべく紹介元に逆紹介しているが、状態が落ち着いている患者も地域の先生方になるべく紹介したいと考えている。

また、紹介状持参の方も当日直接受診されるのではなく、なるべく事前にお電話いただき、外来予約を取っていただきたいと考える。受診を急がれる方は御希望に添えるよう調整している。

多焦点眼内レンズに関して、日進月歩でレンズが進化しており、レンズの欠点が軽減されるようなものも開発されてきている。新しいレンズを採用して、御希望がある患者に適応があれば使用したいと考える。

また、保険診療、選定療養含め、患者に最適なレンズをご提案したい。

［文責：長井恭子］

【人事】

氏　名	役　職	勤　務
長井　恭子	眼科診療科長	常(HP)
萩原　希望		常(HP)
佐藤　由香		非(HP)
品川　樹美		非(HP)

【手術件数】

分　類	件　数
白内障手術	321
斜視手術	99
眼瞼下垂症手術	19
眼瞼内反症手術	9
眼球、眼筋のその他の手術	6
眼瞼手術その他	3
翼状片手術	3
眼窩・涙腺手術	1
水晶体・硝子体手術	1
緑内障手術	1
合計	463

【科別 MDC 件数】

MDC	MDC 名	症　例　数	平均在院日数
020110	白内障、水晶体の疾患	166	4.2
020150	斜視（外傷性・癒着性を除く。）	72	2.1
020320	眼瞼、涙器、眼窩の疾患	6	2.7
020230	眼瞼下垂	5	2.6
020210	網膜血管閉塞症	1	7.0
020220	緑内障	1	36

【外来患者数（筑波記念病院・筑波総合クリニック）】

4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
1,020	975	1,075	968	844	936	993	982	990	903	876	1,076	11,638

形　成　外　科

【人事】

氏　　名	役　職	勤　務
荒木祐太郎		常(HP) ※ 2022年 4月～ 2022年 6月
小曽根琢真		常(HP) ※ 2022年 7月～ 2022年 9月
大村　　嶺		常(HP) ※ 2022 年 10 月～ 2022 年 12 月
平岡　由愛		常(HP) ※ 2023年 1月～ 2023年 3月
伊藤　謹民		非(HP)

【手術件数】

分　　類	件　数
皮膚、皮下腫瘍摘出術	39
創傷処理	14
植皮術	11
皮膚切開術	11
眼瞼下垂症手術	10
デブリードマン	9
筋・健の手術	8
リンパ節摘出術	4
眼窩・涙腺手術	4
外耳手術	3
皮膚悪性腫瘍切除術	3
顔面骨手術	2
顔面神経麻痺形成手術	2
四肢切断術・断端形成	2
皮膚、皮下、粘膜下血管腫摘出術	2
皮弁作成術	2
頭蓋骨腫瘍摘出術	1
鼻骨骨折修復術	1
瘢痕拘縮形成手術	1
合計	129

【科別 MDC 件数】

MDC	MDC 名	症　例　数	平均在院日数
070010	骨軟部の良性腫瘍（脊椎脊髄を除く。）	23	3.9
080250	褥瘡潰瘍	14	34.9
080007	皮膚の良性新生物	6	4.0
080010	膿皮症	6	10.0
180060	その他の新生物	6	2.7
020230	眼瞼下垂	5	2.0
160660	皮下軟部損傷・挫滅損傷、開放創	5	32.2
080006	皮膚の悪性腫瘍（黒色腫以外）	4	6.3
130030	非ホジキンリンパ腫	3	2.0
160200	顔面損傷（口腔、咽頭損傷を含む。）	3	4.0

【外来患者数（筑波記念病院・筑波総合クリニック）】

4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
415	374	347	422	432	402	411	359	351	401	356	433	4,703

呼　吸　器　外　科

【総括】

1．2022 年度の実績報告（診療統計の解説、治療成績、教育・研究）

①2022年度の筑波記念病院・筑波総合クリニックを合わせた外来患者総数は2,228人で、前年度の2,301人と比較しやや減少した。

②新入院患者数は137人で、前年度の119人よりやや増加した。平均在院日数は14.0日で前年度の10.3日より3.7日延長した。新型コロナウイルスの院内感染で、在院日数が増加した例を複数認めた。また多発外傷や急性膿胸等の感染症患者に長期入院が多かった。

③入院手術件数は74件で、前年度60件より増加した。肺癌手術は29件で前年度より４件増加した。手術関連死亡はない。

④初期研修医4名が各々１ヶ月、外科専攻医1名が3ヶ月当科にて研修を行った。

⑤学術活動として日本呼吸器外科学会学術集会での発表が1例あった。

2．2023 年度の課題・目標

2022年度は新型コロナウイルス感染症の診療への影響は減少傾向で、新入院患者数と手術件数は前年度より増加した。住民検診受診者数も回復傾向にあり2023年度も患者数・手術件数の増加が期待できるが、肺癌患者では検診受診間隔が長期となった影響で進行肺癌での発見の増加が懸念される。当科としては2022年度に引き続きTHP肺がんCT検診料金の値下げキャンペーンとその際の要精査時に速やかな呼吸器外科受診を提案する。また地域の病院・診療所からの紹介患者数増加を図るため、より積極的な受け入れと早急かつ詳細な返信に加え、WEBでの情報発信等を行なっていきたい。診療では患者を中心とした考えのもと安全性・根治性・低侵襲性の３要素のバランスが取れた手術を引き続き推進しながら、より積極的に手術適応を模索していく。コロナ禍でも当科診療が着実に行われていた実績を広く認知していただき、さらに手術症例を増加させることで地域医療に一層の貢献をしていきたい。

［文責：吉田　進］

【人事】

氏　　名	役　　職	勤　務
吉田　　進	呼吸器外科診療部長	常(HP)
木村　正樹	総合外科診療部長	常(HP)

【手術件数】

分　　類	件　数
胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術	24
胸腔鏡下肺切除術	22
リンパ節摘出術	13
胸腔鏡下胸腔手術	10
肺悪性腫瘍手術	5
胸壁腫瘍摘出術	2
気管支瘻閉鎖術	1
胸腔鏡下縦隔悪性腫瘍手術	1
肺切除術	1
合計	79

【科別 MDC 件数】

MDC	MDC 名	症　例　数	平均在院日数
040040	肺の悪性腫瘍	48	12.4
040200	気胸	38	10.2
160450	肺・胸部気管・気管支損傷	9	17.0
040150	肺・縦隔の感染、膿瘍形成	7	21.4
160650	コンパートメント症候群	7	7.1
040081	誤嚥性肺炎	4	14.8
040170	抗酸菌関連疾患（肺結核以外）	3	3.7
180060	その他の新生物	3	5.7
010170	基底核等の変性疾患	2	45.5
040010	縦隔悪性腫瘍、縦隔・胸膜の悪性腫瘍	2	17.5

【外来患者数（筑波記念病院・筑波総合クリニック）】

4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
157	163	202	182	119	229	181	193	225	189	178	210	2,228

耳　鼻　咽　喉　科

【総括】

1．2022 年度の実績報告

①病棟診療

2022年度の入院患者数（転科加療を含む）は146例、入院手術症例は54例であった。2021年度はそれぞれ159例、50例であったので入院患者数は8.2％減少、入院手術症例はほぼ同程度であった。

これらの平均在院日数は6.0日であり、前年度の6.8日と比して短縮していた。

②外来診療

筑波総合クリニック・筑波記念病院合わせての外来患者数は9,961例と前年度の9,367例と比して6.3％の増加であった。2022年度の紹介患者数は396例であり前年度の323例と比して約22.6％の増加であった。2022年10月から毎週木曜日に筑波大から外来医師を派遣していただいており、外来待ち時間の短縮・増患につながっていると考える。

一方、外来手術症例数は82例（前年度100例）と昨年度に比して減少している。

外来患者数・紹介患者数増加に見合った手術数増加がないのは、紹介患者内で急性難聴や顔面神経麻痺などの症例が多いためと考えられる。

2．2023 年度の課題・目標

①入院患者数180例・入院手術症例数70例を目標に増患したい。

②引き続き金曜日以外は２診体制で診療を続け、外来待ち時間短縮・増患に努めたい。

③引き続き医療事故がないように安全に医療を提供する。

［文責：及川慶子］

【人事】

氏　　名	役　　職	勤　務
及川　慶子	耳鼻咽喉科診療科長	常(HP)
中森　暁子		常(HP)

【手術件数】

分　　類	件　数
口蓋扁桃手術	18
喉頭・声帯ポリープ切除術	11
内視鏡下鼻・副鼻腔手術	9
リンパ節摘出術	7
内視鏡下鼻中隔・鼻腔手術	7
中耳手術	6
扁桃周囲膿瘍切開術	6
鼻腔粘膜焼灼術	4
外耳手術	2
アデノイド切除術	1
その他の頚部の手術	1
上咽頭腫瘍摘出術	1
輪状甲状靱帯切開術	1
合計	74

【科別 MDC 件数】

MDC	MDC 名	症　例　数	平均在院日数
030390	顔面神経障害	31	7.0
030240	扁桃周囲膿瘍、急性扁桃炎、急性咽頭喉頭炎	26	7.7
030400	前庭機能障害	19	4.9
030428	突発性難聴	14	7.6
030280	声帯ポリープ、結節	9	3.8
030270	上気道炎	5	4.2
030380	鼻出血	4	4.8
030425	聴覚の障害（その他）	3	6.7
030430	滲出性中耳炎、耳管炎、耳管閉塞	3	2.0
080020	帯状疱疹	3	7.0

【外来患者数（筑波記念病院・筑波総合クリニック）】

4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
816	781	918	804	818	850	822	782	875	668	770	1,057	9,961

消　化　器　外　科

【総括】

1．実績報告

新型コロナウイルス感染から３年経ちクラスターも発生したが徐々に収束の気配は感じられる。常勤医４人、専攻医１人、研修医１人、非常勤医３人、特定機能行為の資格看護師１人の体制で診療している。総手術件数は506件、腹腔鏡下手術は282件と右肩上がりである。特に胆摘術は100例を超え、ヘルニアは94例、膵頭十二指腸切除（膵全摘含む）は15例と顕著で、胃癌、大腸癌ともに年々増加傾向である。新たに導入した腹腔鏡手術は、総胆管結石手術、噴門側胃切除、膵体尾部切除で、今後も増加が見込まれる（別表）。緊急手術数は147件で救急車の応需件数の増加とともに増加し、重症例は救命科医のサポートを受けICU治療にあたっている。

診療部長の上田和光は主に上腹部外科（肝胆膵高度技能指導医、胃、食道）が専門。診療科長・低侵襲外科治療センター長の岩崎喜実は主に下腹部・骨盤外科（結腸、直腸、肛門、ヘルニア）が専門で、日本内視鏡外科技術認定医（大腸部門）も取得しており腹腔鏡手術のみならず、ロボット手術も視野に入れ臨床に取り組んでいる。菅野優貴の専門である腹腔鏡下ヘルニア手術 (TAPP) はほとんどが翌日退院し患者満足度も高い。難度の高い胆石症も腹腔鏡で完遂できる技量を持ち、後進の指導にも積極的である。永井健も腹腔鏡手術の経験数が増え、緊急手術も積極的対応しており、研修医や後進の直接的指導にも定評がある。茨城県南地域の中核病院を担うべく24時間、365日救急体制を敷き、臨床、学会発表、研修医への指導を積極的に行っている。

2．2023年度の課題・目標

症例数（腹腔鏡手術）の更なる増加と、ロボット手術導入に向けての準備。

［文責：上田和光］

【人事】

氏　　名	役　　職	勤　務
上田　和光	消化器外科診療部長	常(HP)
岩崎　喜実	消化器外科診療科長、低侵襲外科治療センター長	常(HP)
永井　　健		常(HP)
菅野　優貴		常(HP)
河野　　豪	専攻医	常(HP)

【科別 MDC 件数】

MDC	MDC 名	症　例　数	平均在院日数
060160	鼠径ヘルニア	86	3.6
060150	虫垂炎	61	6.1
060035	結腸（虫垂を含む。）の悪性腫瘍	60	16.6
060210	ヘルニアの記載のない腸閉塞	55	15.6
060330	胆嚢疾患（胆嚢結石など）	53	6.1
060020	胃の悪性腫瘍	43	17.1
060335	胆嚢炎等	42	9.0
060241	痔核	14	4.1
060370	腹膜炎、腹腔内膿瘍（女性器臓器を除く。）	13	18.2
060040	直腸肛門（直腸Ｓ状部から肛門）の悪性腫瘍	12	22.8

【手術件数】

臓器		疾患		術式		Lap
食道	2	食道裂肛ヘルニア	2	根治術	2	0
胃	43	癌	37	DG	19	10
		GIST	5	Prx	7	3
		その他	1	TG	9	0
				部分切除	5	4
				その他	3	0
十二指腸	17	悪性腫瘍	8	SSpPD	6	0
		良性疾患（大動脈十二指腸瘻含む）	9	十二指腸部分切除	2	0
				その他	9	3
小腸	42	小腸腫瘍	5	小腸切除	29	2
		良性疾患	37	その他	13	1
大腸	86	結腸癌	60	結腸切除	71	53
		直腸肛門癌	9	直腸切除	7	7
		良性疾患	17	人工肛門造設	4	4
				経肛門的切除	1	0
				その他	3	0
肛門	18	痔核、痔瘻、肛囲膿瘍	16	ALTA、痔核切除、シートン	16	
		直腸脱	1	腹腔鏡下直腸固定術	1	1
		その他	1	その他	1	
虫垂	57	虫垂炎	57	虫垂切除	54	52
				回盲部切除	3	0
肝臓	11	原発性肝癌	4	部分切除	10	3
		転移性肝癌	4	開窓術	1	1
		良性肝腫瘍	2			
		巨大肝嚢胞	1			
胆嚢	108	胆嚢癌	4	拡大胆摘	1	0
				全層胆摘	3	1
		胆嚢結石、ポリープ、腺筋症、他	97	胆摘	97	75
		総胆管結石（原発性含む）	7	総胆管切開切石、胆管十二指腸吻合	7	2
胆管	6	遠位胆管癌	5	SSpPD	5	0
		総胆管拡張症	1	分流手術	1	0
膵臓	9	膵癌	7	SSpPD	3	0
		NET	1	DP	3	1
		腫瘤形成性膵炎	1	膵全摘	1	0
				その他	2	0
ヘルニア	94	鼠経	82	TAPP	59	59
		他部位	12	メッシュ閉鎖	33	0
				その他	2	0
脾臓	2	脾悪性リンパ腫	1	脾摘	2	0
		外傷性脾損傷	1			
その他	11	その他	11	その他	11	0
計	506					282

【外来患者数（筑波記念病院・筑波総合クリニック）】

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
466	499	525	539	524	541	504	474	593	582	490	542	6,279

小　児　外　科

【総括】

1．2022 年度の実績報告（診療統計の解説、治療成績、教育・研究）

今年度も外来患者数、手術件数とも増加した。

外来患者数は前年度比 2.3 倍、手術件数は 2.5 倍となった。

手術件数は昨年度末に予測した数字に近く、筑波大学で行っていた小児泌尿器科疾患手術を本院で行うようになったこと、近隣の大学病院からの紹介などが増加の要因と考えられる。

昨年度と同様に尿道下裂症例が手術の半数以上を占めており関東地区では有数の手術数を維持している。

学会活動として筑波大学小児外科の発表に関して指導など行った。

2．2023 年度の課題・目標

2023 年 4 月から 2 名の泌尿器科専門医・指導医がスタッフに加わることとなった。両名とも小児泌尿器科の診療経験を有している。成人泌尿器科に関しては大学泌尿器科医局でのトレーニングが終了しており、加えてロボット手術施行に必要な資格を有している。

院内発生の成人泌尿器科疾患などへの対応がスムーズになると予想され、その面でも病院への貢献ができると考えている。

小児泌尿器科疾患患者増加のため他府県を含めた大学病院、大病院などとの連携を深めるように努力を続けたい。

［文責：上岡克彦］

【人事】

氏　　名	役　　職	勤　務
上岡　克彦	小児外科診療部長	常(HP)

【科別 MDC 件数】

MDC	MDC 名	症　例　数	平均在院日数
140580	先天性下部尿路疾患	39	3.2
11013x	下部尿路疾患	6	4.7
11022x	男性生殖器疾患	2	2.0
140590	停留精巣	2	1.5
11012x	上部尿路疾患	1	5.0
120190	女性生殖系の炎症性疾患（その他）	1	2.0
120240	腟及び外陰の非炎症性障害	1	6
14056x	先天性水腎症、先天性上部尿路疾患	1	3

【外来患者数（筑波記念病院・筑波総合クリニック）】

4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
39	43	44	55	53	66	56	62	60	53	49	80	660

心　臓　血　管　外　科

【総括】

1．2022 年度の実績報告（診療統計の解説、治療成績、教育・研究）

総手術数は横ばい～やや減少であった。内訳は冠動脈バイパス術が微増、弁置換 / 弁形成で減少、大動脈瘤切除、ステントグラフト内挿術で減少、下肢静脈瘤は大幅に増加であった。動脈瘤切除には胸部、腹部の真性瘤、大動脈解離が含まれる。解離の症例の受け入れは様々な理由で減少した。ステントグラフト内挿術は減少したが、これについては長期成績を鑑み意識的に適応をより厳格にしたことも影響している。複雑な症例が例年より多かったためか、やや合併症が増えており原因を考察し今後は少しでも合併症を減らせるよう努めていきたい。コロナが収束傾向となり下肢静脈瘤症例数はコロナ前に戻ってきた印象であった。常時３人程度の外科専攻医がおりいずれも心臓血管外科志望のため、偏りなく症例を経験できるよう努めた。また学会発表、論文執筆も積極的に取り組み、第 75 回日本胸部外科学会定期学術総会では倉橋が JATS Presentation Awards、西が Excellent Poster Award に選出され発表を行った。

2．2023 年度の課題・目標

当科はこれまで８- ９人体制で診療を行ってきたが、６月からは西（診療科長、心臓血管外科修練指導者）と山﨑（外科専攻医）の２名体制となった。院外医師の協力をえて、診療を維持している。これまで当科で診療していた睡眠時無呼吸や左心耳マネジメントについては診療継続が困難であるが、診療の柱となる心臓（虚血性心疾患、弁膜症（MICS））、大動脈（大動脈解離、大動脈瘤、ステントグラフト治療）、末梢血管（閉塞性動脈硬化症、急性動脈閉塞、四肢の動脈瘤、下肢静脈瘤）については引き続き継続して診療を行っていく。一刻も早くマンパワーを補充し、より強固なチームを再構築し、地域の皆様から信頼されるチームを目指したいと考えている。

［文責：西　智史］

【人事】

氏　　名	役　　職	勤　務
末松　義弘	副院長（ICU 管理統括、外科診療統括）	常(HP)
吉本　明浩	心臓血管外科診療部長	常(HP)
西　　智史	心臓血管外科診療科長、大動脈血管内治療センター　センター長	常(HP)
井上　堯文		常(HP)
倉橋　果南		常(HP)
高橋　秀臣		常(HP)
入方　祐樹		常(HP)
大塚　俊哉		非(HP)
藤吉　俊毅		非(HP)
松本　龍門		非(HP)
中野　　優		非(HP)
木下　友希		非(HP)
前川　浩毅		非(HP)

【手術件数】

分　　類	件　数
下肢静脈瘤手術	96
ステントグラフト内挿術	41
大動脈瘤切除術	38
冠動脈、大動脈バイパス移植術	21
弁置換・形成術	20
肺静脈隔離術	17
四肢血管のその他の手術	16
胸腔鏡下左心耳切除術	13
胸腔手術その他	12
血管移植、バイパス移植術	11
動脈塞栓・血栓摘出術	11
不整脈手術	4
血管結紮術	3
除細動器移植術・交換術	2
ダメージコントロール手術	1
開胸手術その他	1
合計	307

【科別 MDC 件数】

MDC	MDC 名	症　例　数	平均在院日数
050180	静脈・リンパ管疾患	90	2.8
050163	非破裂性大動脈瘤、腸骨動脈瘤	57	16.2
050161	大動脈解離	50	23.9
050050	狭心症、慢性虚血性心疾患	38	15.4
050080	弁膜症（連合弁膜症を含む。）	35	16.1
050070	頻脈性不整脈	26	8.7
050170	閉塞性動脈疾患	26	17.9
050130	心不全	20	16.8
050210	徐脈性不整脈	20	3.2
050162	破裂性大動脈瘤	12	21.2

【外来患者数（筑波記念病院・筑波総合クリニック）】

4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
429	423	443	451	494	495	489	429	456	443	361	488	5,401

整　形　外　科

【総括】

1．2022 年度の実績報告

筑波総合クリニックの外来患者数は、２年連続で増加した（平均外来患者数が 95 → 99 → 104 人／日）。これまで同様に医師１人あたり６人／日の新患枠を設け、夜間・休日に救急外来を受診された患者、他院からの紹介患者、他科からのコンサルテーション患者に加えて、かかりつけで急性発症の患者は予約外でも受診できるように対応してきたが、電子カルテ化の影響で、数年前の 120 人／日の水準に到達するのは難しい。

手術に関しては、これまで同様に筑波大学整形外科の三島准教授（股関節）・金森講師（膝関節）が週に２- ３日非常勤医師として外来及び手術に来てくださり、関節を専門とする常勤医が複数人勤務していたこともあり、人工関節全置換術（股関節及び膝関節）が 326 件／年（昨年度 346 件）、膝関節の鏡視下手術が 140 件／年（昨年度 116 件）と昨年度同様に県内トップレベルの手術件数を維持した。COVID-19 の影響が少なくなったことで、他院からの紹介患者が増え、待機手術が予定通りに行えているためだと考える。脊椎の手術件数も昨年度と同水準の結果となった。脊椎専門医が３人から２人に減少したが、整形外科としての常勤医が増え、専門医以外の常勤医が脊椎外傷症例等の対応をしてくれたため、それほど影響はなかった。

2．2023 年度の課題・目標

入院が長期化する高齢者の脊椎椎体骨折・化膿性脊椎炎の患者数は相変わらず多い。高齢者の脊椎椎体骨折に関しては、手術を必要としない患者の大半を昨年度からリハビリ科で診ていただける体制となり、非常に助かっている。

また、高齢者の敗血症に続発する化膿性脊椎炎は外科的治療の対象とはならず、専ら内科的治療が必要となるため、2021 年度から併診として対応する形をとらせてもらっている。これらの対応の変化により、整形外科の入院患者が数年前のように 90 人を越えることはほとんどなくなり、当科の医師・病棟スタッフにかかる負担が低減された印象がある。

評判・口コミにより当院での手術を希望されて来院される患者が増えている。関節を専門とする常勤医が多数勤務していることもあり、関節の手術は例年同様に県内トップレベルの件数を維持した上で、さらなる増加を期待したい。脊椎に関しては、専門医の高齢化によりさらなる手術件数の増加は難しいが、同水準の手術件数は維持したいと考えている。

手術の増加に伴い、手術を必要としない、もしくは手術を希望しない患者は抱え過ぎず、整形外科開業医への紹介を検討したい。

［文責：相野谷武士］

【人事】

氏　名	役　職	勤　務
相野谷武士	副院長（業務改善管理統括）、整形外科診療部長	常(HP)
箱岩　篤生	整形外科診療科長	常(HP)
新井　規仁		常(HP)
安永　将太		常(HP)
岡本　千尋		常(HP)
村上　浩平		常(HP)

【手術件数】

名　称	件　数
人工股関節置換術（人工骨頭挿入術）	326
脊椎（頚椎、胸椎、腰椎）手術	316
四肢骨のその他の手術	206
四肢骨折接合術	155
抜釘術等	84
関節鏡下半月板切除術	70
靱帯断裂形成手術	51
脱臼非観血的整復術	22
筋・健の手術	21
関節鏡下関節滑膜切除術	16
関節内骨折手術	13
脊柱、骨盤のその他の手術	11
手・足のその他の手術	9
関節のその他の手術	8
顎関節脱臼非観血的整復術	6
関節滑膜切除術	3
四肢切断術・断端形成	2
その他の手術	10
合計	1,329

【科別 MDC 件数】

MDC	MDC 名	症　例　数	平均在院日数
070230	膝関節症（変形性を含む。）	169	21.3
07040x	股関節骨頭壊死、股関節症（変形性を含む。）	145	21.9
160620	肘、膝の外傷（スポーツ障害等を含む。）	109	11.6
160800	股関節・大腿近位の骨折	97	25.4
160690	胸椎、腰椎以下骨折損傷（胸・腰髄損傷を含む。）	76	19.0
070343	脊柱管狭窄（脊椎症を含む。）　腰部骨盤、不安定椎	65	26.3
070341	脊柱管狭窄（脊椎症を含む。）　頸部	28	23.7
160760	前腕の骨折	25	11.3
160700	鎖骨・肩甲骨の骨折	22	7.4
160820	膝関節周辺の骨折・脱臼	20	15.0

【外来患者数（筑波記念病院・筑波総合クリニック）】

4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
2,063	1,975	2,392	2,196	2,287	2,206	2,149	1,868	2,253	1,929	1,831	2,444	25,593

脳　神　経　外　科

【総括】

1．2022 年度の実績報告（診療統計の解説、治療成績、教育・研究）

2022 年度の手術件数は 163 件、新規入院患者数は 454 人であった。今年度より診療部長が相山に変わり、実働スタッフも 1 名少ない体制だったが、手術件数を減らすことなく、新体制でも微増となった。

新体制になり、療養病棟を含め、長期入院の症例を積極的に転院調整し、急性期病棟でも速やかな退院･転棟･転院などを MSW や地域連携と協力し、平均の入院日数を減らせた。現在当科では脳神経外科専門医 3 名と脳神経外科後期研修医 1 名、神経内科医 1 名の 5 人体制で、入院診療と手術を継続している。外来は脳神経外科の他、もの忘れ外来と脳ドックも継続して行っている。

脳卒中の外科学会技術指導医 1 名により、脳血管障害を中心とする外科手術は、若手への指導も含め高いレベルを維持している。筑波大学脳卒中科との連携により、急性期再開通療法を含む脳血管内手術も高いレベルで維持できている。

谷中脳卒中センター長が筑波大学脳神経外科病院教授を引き続き兼任し、院内のみならず筑波大学脳神経外科グループ全体の教育を行っている。手術を含む脳卒中治療の指導に加え、脳神経外科専門医取得に必須である学会発表や論文作成の指導も継続して行っている。

2．2023 年度の課題・目標

2023 年度からはスタッフの復職（佐浦南先生）による人員増加があり、診療体制の若干の改善が見込める。外来診療のスリム化を行い、紹介を中心とした新患対応をできるようにする。一方で救急にも対応できるようにスタッフの人員配置を考える。引き続き脳卒中学会準拠の 1 次脳卒中センターとして、脳卒中診療については筑波大学脳卒中科と連携をとり、24 時間対応できる診療体制を整える。救急から大学へ転院しても引き続き当院で急性期病棟、回復期病棟、療養病棟、地域包括ケア病棟を利用して大学での急性期治療後、急性期転入院を受け入れ、治療を継続していきたい。脳以外に脊椎疾患の症例も増やし、救急のみならず定時での検査や手術入院を増やしていきたい。筑波大学脳神経外科の後期研修医や若手脳神経外科医の教育も引き続き継続し、現状を維持していきたい。

［文責：相山　仁］

【科別 MDC 件数】

MDC	MDC 名	症　例　数	平均在院日数
010060	脳梗塞	191	21.1
010040	非外傷性頭蓋内血腫（非外傷性硬膜下血腫以外）	83	22.9
160100	頭蓋・頭蓋内損傷	76	10.4
010020	くも膜下出血、破裂脳動脈瘤	23	25.7
010050	非外傷性硬膜下血腫	17	8.8
010030	未破裂脳動脈瘤	16	8.5
010010	脳腫瘍	15	22.7
010200	水頭症	15	18.4
010230	てんかん	10	11.7
010061	一過性脳虚血発作	9	5.4

【人事】

氏　　名	役　　職	勤　務
相山　　仁	脳神経外科診療部長	常(HP)
谷中　清之	脳卒中センター長	常(HP)
佐浦　　南		常(HP)
花井　　翔		常(HP)
鯨岡　裕司		非(HP)

【手術件数】

分　　類	件　数
脊椎固定術、椎弓切除術、椎弓形成術（椎弓形成）	6
穿頭脳室ドレナージ術	6
穿頭術（トレパナチオン）	1
減圧開頭術（その他）	1
脳膿瘍排膿術	1
頭蓋内微小血管減圧術	5
頭蓋内血腫除去術（開頭）（硬膜下）	2
慢性硬膜下血腫洗浄・除去術（穿頭）	62
頭蓋内血腫除去術（開頭）（脳内）	3
脳膿瘍全摘術	1
頭蓋内腫瘍摘出術（その他）	12
脳動静脈奇形摘出術（単純）	4
水頭症手術（脳室穿破術（神経内視鏡手術による））	1
水頭症手術（シャント手術）	8
髄液シャント抜去術	2
水頭症手術（シャント再建術）（頭側及び腹側のもの）	1
水頭症手術（シャント再建術）（腹側のもの）	1
脳動脈瘤被包術（１箇所）	1
脳動脈瘤流入血管クリッピング（開頭）（１箇所）	1
脳動脈瘤頸部クリッピング（１箇所）	18
脳動脈瘤頸部クリッピング（２箇所以上）	2
経皮的脳血栓回収術	9
髄液漏閉鎖術	1
脊髄ドレナージ術	2
脊髄腫瘍摘出術（髄外）	1
末梢神経遮断（挫滅又は切断）術（腓腹神経）	1
気管切開術	5
動脈血栓内膜摘出術（内頸動脈）	3
血管塞栓術（頭部、胸腔、腹腔内血管等）（止血術）	1
血管塞栓術（頭部、胸腔、腹腔内血管等）（その他）	1
合計	163

【外来患者数（筑波記念病院・筑波総合クリニック）】

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
1,185	1,061	1,240	1,146	1,151	1,221	1,185	1,061	1,188	1,113	1,012	1,320	13,883

婦　人　科

【総括】

1．2022 年度の実績報告（診療統計の解説、治療成績、教育・研究）

外来患者数・手術件数ともに前年度より、やや減となった。外来に関してはここ数年、現在アクティブな病態がない年１回程度のフォローアップ症例や無症状の検診希望者の累積による､診療枠の目詰まりが顕著になり、前年度末より、そのような症例を THP や市町村健診に極力誘導する取り組みを開始した。

取り組み開始から１年余を経過して、最近になって、ようやく有症状の新規症例が比較的速やかに受診できるようになっている印象を受けるようになった。

新規症例は診察に時間がかかることもあり、健診ドックに誘導したリピーターと同数の診療を同じ時間枠内でこなすことは難しく、当面の受診者数としては、ここ数年の実績を下回る状況が続くのではないかと考えている。

2．2023 年度の課題・目標

上記取り組みにより、外来の新陳代謝が図られて、予約が少しでも取りやすくなることで、患者さんの利便と、徐々に手術件数の増加に繋がればと考えている。

［文責：佐藤有希］

【人事】

氏　　名	役　　職	勤　務
佐藤　有希	婦人科診療部長	常(HP)
小關　　剛	筑波記念会　理事長	常(HP)
秋山　　梓		非(HP)

【手術件数】

分　　類	件　数
子宮全摘術	34
子宮付属器手術	21
子宮頚部（腟部）切除術	11
子宮筋腫摘出（核出）術	3
腟閉鎖術	1
子宮内膜掻爬術	1
総計	71

【科別 MDC 件数】

MDC	MDC 名	症　例　数	平均在院日数
120060	子宮の良性腫瘍	30	7.1
12002x	子宮頸・体部の悪性腫瘍	13	3.0
120070	卵巣の良性腫瘍	12	8.5
120250	生殖・月経周期に関連する病態	4	3.3
120100	子宮内膜症	3	9.0
120110	子宮・子宮附属器の炎症性疾患	3	24.0
120120	卵巣・卵管・広間膜の非炎症性疾患	3	4.7
060030	小腸の悪性腫瘍、腹膜の悪性腫瘍	1	22
120010	卵巣・子宮附属器の悪性腫瘍	1	6
120090	生殖器脱出症	1	5
120140	流産	1	2
140600	女性性器の先天性異常	1	7

【外来患者数（筑波記念病院・筑波総合クリニック）】

4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
722	651	790	731	713	683	719	725	753	639	669	722	8,517

救　急　科

【総括】

1．2022 年度の実績報告（診療統計の解説、治療成績、教育・研究）

2022 年度は救急科指導医 1 名、専門医 2 名と 7 名の非常勤医師で運営した。各診療科やコメディカルによる日当直の救急医療への多大なる協力もあり、救急車受け入れ数は年間 5,057 例となり、県内第三位となった。二次救急医療機関では県内第一位の受け入れ数である。また、救急搬送患者のうち、重症で ICU 入院が必要な症例、特に救急科担当時間内の緊急の介入を要さない症例は救急科が担当科となり、年間延べ 1,921 例（新規 277 例）の入院を受け持った。また、救命救急士が 3 名体制となり、年間 184 例の自院救急車による院外搬送を行った。

また、集中治療科として、ICU の管理も行なった。敗血症や心肺停止蘇生後患者等の重症疾患は転科、もしくは併診にて ICU で入院担当した。専門各科とともに診療する機会が増え、院内の救急・集中治療体制が充実した。

教育では初期研修医、後期研修医を受け入れた。救急・集中治療診療の国際標準化を目標にした。常に救急科専門医と共に診療できる環境を構築し、しっかりとした指導のもと、救急患者、重症患者の診療に必要な基礎教育を行なった。救急科専門医指定施設かつ、集中治療専門医研修施設となり、救急科専門医、集中治療専門医ともに当院で育成することができる環境を整えた。

研究では国際学会で注目を浴びる発表を複数行った。また、英文雑誌に論文を多数発表した。量、質ともに救急集中治療分野の臨床研究では国内トップクラスの業績である。

2．2023 年度の課題・目標

救急車の受け入れ数の維持

救急・集中治療医療の質の担保・時間外格差の是正

ICU、HCU の包括的管理

院外、病院前救急の充実

学術活動の維持

［文責：阿部智一］

【人事】

氏　　名	役　　職	勤　務
阿部　智一	救急科診療部長、集中治療科部長、救急センター長、臨床研修センター長	常（HP）
入山　大希	救急センター ICU・ホスピタリスト部門診療医長	常（HP）
小森　大輝	救急センター ER 部門診療医長	常（HP）
内田　雅俊		非（HP）
戒能多佳子		非（HP）
児玉　泰介		非（HP）
渡辺　　悠		非（HP）
間所　俊介		非（HP）
栗原　　貫		非（HP）
溝渕　大騎		非（HP）

小　児　科

【総括】

1．2022 年度の実績報告

2022 年度における小児科外来患者数は年度合計 8,160 件（前年比 +959 件）、月平均 680 件であった。近年、少子高齢化、出生数の著しい減少による小児人口の減少、生活状況の改善や予防接種の普及などによって小児の感染症が減少するなど、小児期の疾病構造が大きく変化をしている。このため、当院小児科が取り扱う疾患対象もしだいに変化をしている。その中で、当院小児科の特徴としてあげられることとしては、「小児発達外来」（宮本信也医師担当）を中心に、発達に問題を抱える子どもたちの受診の増加、小児の外来リハビリ体制の充実がある。当院には、茨城県南、県西地区には数少ない、小児期の発達の問題に、療育を含めて対応できる体制があるため、筑波大学附属病院をはじめ、地域の主要な医療施設からも多くの患者紹介を受けている。

発達診療の他に、一般小児医療としての小児感染症、アレルギー性疾患（気管支喘息等）、小児神経疾患（てんかん等）、予防接種専門外来などにも、引き続き注力をしている。

2．2023 年度の課題・目標

上記のような状況を踏まえ、新しい年度においても、小児医療全般に対応できるよう、内容の充実をはかっていく。また、当院における発達関連の診療実績を基に、対外的に当院の診療体制についての広報を行い、受け入れ患者の増加をはかっていく。

［文責：右田琢生］

【人事】

氏　　名	役　　職	勤　務
右田　琢生	小児科診療部長	常(HP)
岩松　雅子	小児科診療医長	常(HP)

【外来患者数（筑波記念病院・筑波総合クリニック）】

4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
579	539	642	702	759	647	713	730	740	582	688	839	8,160

皮　膚　科

【人事】

氏　　名	役　　職	勤　務
照沼　　篤	皮膚科診療部長	常(HP)

【外来患者数（筑波記念病院・筑波総合クリニック）】

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
347	368	435	366	426	357	352	290	303	308	313	363	4,228

病　理　診　断　科

【総括】

1．2022 年度の実績報告

2022 年度は筑波記念病院・筑波総合クリニックを合わせて病理組織診 3,951 件、細胞診 11,840 件、術中迅速組織診 11 件、病理解剖 4 件が行われた。CPC（剖検症例検討会）は COVID-19 の pandemic outbreak の影響で開催が制限されたが、2 年間の出向中に代わって短期赴任されていた大和万里子病理医のもと 6 症例（A20-05, 06, A21-04, A22-01, 02, 03）について開催され、活発な意見交換がなされた。

2．2023 年度の課題・目標

●病理組織診、細胞診、術中迅速組織診、および病理解剖の各々について診断件数・精度の維持と効率化に尽力する。

●日々更新される知見や新しい分類、診断基準、および様々な疾患の grade 分類の改訂に迅速に対応し、再診の治療選択に支障のない診断を心がける。

●臨床医とのコミュニケーションをさらに密に行い、診療面からも信頼性・実用性の高い病理診断に努める。

●診療情報の厳重な管理の元、重要診断結果についてリスク管理リストの作成・担当医への通知等を再検討し、受診者に不利益が及ぶことのないよう最大限の対策を講じる。

●近年検査項目増加の著しい分子生物学的検索に対応するため、組織固定や検体保存法に細心かつ最深の注意を払い、将来的な需要にも万全の備えで望む。

［文責：臺　勇一］

【人事】

氏　　名	役　　職	勤　務
臺　　勇一	病理科診療部長	常(HP)

【業務実績】

筑波記念病院

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	月平均	前年度合計	前年度月平均
病理	241	254	324	291	256	276	279	297	263	276	273	310	3340	278.3	3,275	272.9
迅速病理	1	1	2	0	1	0	3	2	0	1	0	0	11	0.9	15	1.3
剖検	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	2	0.2	4	0.3
細胞診	310	428	695	708	714	776	708	672	668	581	606	571	7437	619.8	6,996	583

筑波総合クリニック

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	月平均	前年度合計	前年度月平均
病理	56	54	53	51	56	53	41	56	51	42	44	54	611	50.9	608	50.7
細胞診	376	325	432	402	370	358	350	377	410	328	322	353	4,403	366.9	4,750	395.8

筑波記念病院・筑波総合クリニック

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	月平均	前年度合計	前年度月平均
病理	297	308	377	342	312	329	320	353	314	318	317	364	3,951	329.3	3,883	323.6
迅速病理	1	1	2	0	1	0	3	2	0	1	0	0	11	0.9	15	1.3
剖検	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	2	0.2	4	0.3
細胞診	686	753	1,127	1,110	1,084	1,134	1,058	1,049	1,078	909	928	924	11,840	986.7	11,746	978.8

放　射　線　科

【総括】

1．2022 年度の実績報告（診療統計の解説、治療成績、教育・研究）

2021 年度は常勤の放射線診断専門医 4 名、非常勤診断専門医 1 名，非常勤専攻医 1 名の体制で CT、MR、核医学、単純写真の読影診断業務と超音波および IVR（画像下治療）を行った。年間の CT、MRI および核医学検査の検査総数は 16,380 件であった。血管内・外の IVR は 19 件、CT ガイド下生検 12 件が行われた。専門医による年間の読影率は 98.3%、翌日までの読影レポート完成率は 99.8% と上昇し目標値を保つことができた。地域連携関連病院・医院の先生方からのご依頼による CT、MRI、超音波、核医学の検査数は 370 件から 590 件と増加し、昨年度の目標の 1 つであった紹介率上昇が達成できた。初期研修医 7 名がそれぞれ 1-2 か月間の研修を行った。画像診断の基本である単純写真の読影、救急診療で頻度の高い疾患の CT, MRI の読影を中心に，各研修医の進路の希望に基づいて，超音波検査や造影検査の研修などを加えたプログラムで行った。

2．2023 年度の課題・目標

6 月に病院に 2 台目の CT が設置予定である。救急からのアプローチが容易であり、スタッフの動線も考えて旧 CT 室の横に新たな CT 室を設け、待ち時間の軽減と救急患者の検査を優先して行えるような体制を整える。地域関連病院からの検査数は Covid 感染の収束により増加が見られたが、これを継続していくために、電子媒体での結果の送付など、セキュリティに配慮しながら連携施設の利便性を図っていきたい。

［文責：鯨岡結賀］

【人事】

氏　　名	役　　職	勤　務
鯨岡　結賀	副院長（病院機能改善管理統括／医用画像管理統括）、放射線科診療部長	常(HP)
髙橋　信幸	放射線科診療科長	常(HP)
岩田　　賢	放射線科診療医長	常(HP)
渋谷　陽子		常(HP)
楊川　哲代		非(HP)
井上　　慶		非(HP)

【読影数】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
CT	948	957	953	1,008	1,003	883	1,075	844	1,059	1,073	984	1,031	11,818
MRI	344	300	327	339	350	332	355	317	359	356	337	355	4,071
RI	47	46	38	41	39	35	35	51	43	37	40	20	472
血管造影	3	0	0	2	1	0	2	0	2	6	0	3	19
合計	1,342	1,303	1,318	1,390	1,393	1,250	1,467	1,212	1,463	1,472	1,361	1,409	16,380

血管内・外 IVR　19 件（うち時間外３件）

CT ガイド下生検　12 件

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
専門医による読影率(%)	96.9	97.5	98.4	98.3	98.9	98.6	98.3	98.6	98.1	98.9	97.8	99.7	98.3
翌診療日までのレポート完成率(%)	99.6	99.8	99.8	99.3	99.9	99.8	99.8	99.8	99.9	99.9	99.9	99.6	99.8

【紹介検査数】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
2021 年度	35	32	33	31	22	14	37	37	46	28	23	32	370
2022 年度	21	35	55	53	40	65	61	51	53	39	70	47	590

麻　酔　科

【総括】

1．2022 年度の実績報告（診療統計の解説、治療成績、教育・研究）

①常勤医師５名、非常勤医師１名と、外部の非常勤医師の協力を得ながら、24時間365日、緊急手術に対応できるよう毎日オンコール体制をとっている。

②入院診療

1）麻酔管理：全ての全身麻酔管理と、一部の局所麻酔管理を行っている。全身状態の悪い患者では、末梢神経ブロックや脊髄くも膜下麻酔のみによる麻酔管理を行うこともある。前年度より全手術件数は433件増加し、全身麻酔件数では347件増加した（詳細は別項参照）。

2）手術部運営：手術部全体の運営に関与し、全ての手術が効率的かかつ安全に行われるよう努力している。

3）術後鎮痛：硬膜外麻酔、末梢神経ブロック、経静脈的自己調節鎮痛法などを用い、積極的に術後鎮痛を行っている。

4）ペインクリニック：入院患者のコンサルトを行っている。特に脳脊髄液漏出症（低髄液圧症）に対する持続硬膜外生理食塩水注入は、脳神経外科と協力して行い良好な治療成績を得ている。

5）緩和ケアチーム：週1回の回診に1名参加している。

③外来診療

1）麻酔科術前外来：手術安全の向上を目的に行っており、全身麻酔症例の53.5％となっている（詳細は別項参照）。

2）ペインクリニック外来：クリニックからの紹介患者および、入院患者と退院後の患者に対して行っている。

2．2023 年度の課題・目標

①常勤医師の確保と合わせ、嘱託および非常勤医師と協力し、24時間365日すべての全身麻酔に対応する体制を維持しながら、医師の働き方改革に対応していく。

②入院診療：安全性を確保しながら、手術症例数の増加に寄与していく。

③外来診療：４月から正式に開設したペインクリニック外来を軌道に乗せる。

［文責：田島啓一］

【人事】

氏　　名	役　　職	勤　務
田島　啓一	副院長（手術部門管理統括）、麻酔科診療部長	常(HP)
髙瀬　　肇	麻酔科診療科長	常(HP)
富田　絵美	麻酔科診療医長	常(HP)
新里恵美菜		常(HP)
堀北　　奨		常(HP)
大曽根順平		非(HP)
箱岩　沙織		非(HP)
泉　　直樹		非(HP)
島田　憲佑		非(HP)

【麻酔科外来件数】

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
58	90	95	97	81	71	93	102	65	82	79	90	1,003

【麻酔科管理料件数】

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
114	131	139	121	130	119	125	133	116	109	111	126	1,474

【麻酔手技内訳（ＯＲ分）】

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
全身麻酔	2021年度	126	103	134	137	141	138	123	133	140	119	112	136	1,542
	2022年度	134	157	169	164	162	159	151	156	156	152	157	172	1,889
腰椎麻酔	2021年度	1	2	1	1	6	3	2	1	3	4	6	2	32
	2022年度	1	1	2	0	0	0	4	0	0	1	1	0	10
その他	2021年度	42	46	49	54	31	44	49	50	45	33	34	56	533
	2022年度	48	58	69	62	39	59	81	67	46	39	39	34	641
計	2021年度	169	151	184	192	178	185	174	184	188	156	152	194	2,107
	2022年度	183	216	240	226	201	218	236	223	202	192	197	206	2,540

リハビリテーション科

【総括】

1．2022 年度の実績報告（診療統計の解説、治療成績、教育・研究）

2022 年度もコロナは断続的に影響した。コロナで制約を余儀なくされていた面会、外出練習、家屋調査などはコロナ軽症化につれて規制緩和していった。

①人事においては、常勤医は指導医２名は継続したが他の１名が上半期で退職した。帝京大学リハ科の専攻医２名、筑波大リハ科の専攻医１名に加えて、当院リハ科の専攻医１名が 11 月まで在席し、ほぼ常時５名体制で経過した。兼任の小児科医も継続した。非常勤医師は入れ替わりつつ、火、木、金の３枠で協力を得た。

②入院においては、コロナの影響（表の網掛け）を受けて波はありつつも、リハ科医師ののべ人員数の増加もあって、総患者数は増加した。また回復期リハ病棟、地域包括ケア病棟、療養病棟とも利用率は向上した。地域包括ケア病棟での急性期からの受け入れも軌道に乗り、地域包括ケアシステムへも貢献できるようになってきた。

③外来は専門外来も含めて件数は増加傾向であった。

④教育面では、筑波大学生実習、初期研修２年目医師の選択科目研修は継続した。新たに当院が基幹施設のリハ科専門研修も開始した。２名の専攻医がそれぞれのスケジュールで研修する予定である。

⑤講座・研修会、社会活動はコロナ渦で停滞し、個人活動が多かった。

2．2023 年度の課題・目標

①回復期リハ病棟、地域包括ケア病棟の稼働率100％のベッドコントロールを継続する。

②回復期リハ病棟、地域包括ケア病棟での成果指標を継続する。

③急性期への対応の拡充により地域包括ケアシステムに貢献する

④訪問リハ、通所リハの質を維持する。

⑤専門外来の件数をさらに拡大する。

⑥茨城県地域リハ支援体制の中核として活動する。

［文責：伊佐地　隆］

【外来患者数（筑波記念病院）】

		4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
リハビリテーション科	2020	475	589	883	923	939	1,072	1,041	993	1,017	1,005	939	512	10,388
	2021	1,049	959	1,234	1,017	1,129	1,081	1,298	1,270	1,108	1,048	1,002	1,138	13,333
	2022	1,157	1,114	1,342	1,224	1,350	1,416	1,408	1,297	1,282	1,153	1,265	1,398	15,406

【専門外来患者数（筑波記念病院）】

義肢装具・車いす外来

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
2020	2	9	25	28	26	32	27	22	40	16	13	5	245
2021	25	18	42	41	30	18	18	25	32	24	23	37	333
2022	26	27	37	41	35	43	37	51	41	33	47	42	460

ボツリヌス治療外来

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
2020	1	3	3	8	2	3	2	2	2	7	2	3	38
2021	6	3	5	6	5	2	6	0	6	6	3	5	53
2022	2	4	5	3	3	4	2	4	5	4	5	5	46

【人事】

氏　　名	役　　職	勤　務
伊佐地　隆	副院長（リハビリテーション診療統括）	常(HP)
安岡　利一	地域リハビリテーション部長	常(HP)
川原田晴通		常(HP)
海老原一彰		非(HP)
大黒　春夏		非(HP)
和田　絢子		非(HP)
德田　　彩		非(HP)

【回復期リハ病棟実績】

（1 病棟 52 床）

		2020	2021	2022
入院患者数	人	277	315	314
1ヶ月あたり	人／月	23.1	26.3	26.2
退院患者数	人	278	266	250
1ヶ月あたり	人／月	23.2	22.2	20.8
病床稼働率	%	92.6	92.8	92.9
平均年齢	歳	73.4	70.7	72.3
疾患別患者数（%）	脳血管	33.0	42.0	45.0
	運動器	64.9	54.9	49.8
	廃　用	2.1	3.1	5.2
平均在院日数　日	全体	60.5	62.0	67.4
	脳血管	100.9	89.9	92.4
	（上限 180 日）	110.0	95.6	96.9
	（上限 150 日）	81.8	73.6	76.6
	運動器	39.6	42.4	46.5
	廃　用	70.2	31.0	51.4
リハ起算日から転入までの平均日数	日	26.5	29.2	32.8
看護必要度Ａ項目が１点以上の割合	%	3.6	7.0	1.6
重症患者割合	%	37.9	34.9	42.7
重症患者Ｂ項目４点以上の改善者割合	%	84.0	67.4	60.4
個別リハ提供単位数	単位／人／日	7.8	8.6	8.6
在宅復帰率	%	94.6	93.6	91.2
実績指数		52.3	49.1	52.8

【入院件数（筑波記念病院）】

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
新入院患者数	2020	6	14	12	7	3	6	9	13	8	9	5	0	92
	2021	5	13	14	6	5	23	7	5	8	13	16	15	130
	2022	9	10	18	13	14	8	14	8	15	8	8	13	138
入院延べ患者数	2020	619	813	1,139	1,180	994	875	969	885	1,010	1,048	918	802	11,252
	2021	815	1,095	1,319	1,389	1,280	1,295	1,443	1,267	1,386	1,746	1,569	1,681	16,285
	2022	1,569	1,795	1,738	1,832	1,865	1,811	1,805	1,424	1,347	1,430	1,140	1,219	18,975

【病床利用率（回復期リハ病棟 52 床）（地域包括ケア病棟 49 床）】

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
回復期リハ	2020	89.9%	80.5%	96.0%	99.8%	100.6%	100.3%	100.4%	98.8%	101.0%	100.6%	98.1%	62.6%	94.0%
	2021	55.7%	80.0%	100.4%	100.8%	97.2%	98.5%	98.9%	100.5%	101.2%	99.6%	97.5%	99.9%	94.2%
	2022	99.2%	100.0%	100.5%	93.1%	99.1%	97.4%	97.3%	81.3%	87.1%	100.8%	90.0%	100.6%	95.5%
地域包括ケア	2020	50.5%	41.9%	56.9%	74.3%	71.2%	71.6%	69.0%	71.3%	77.2%	72.9%	85.1%	40.6%	65.2%
	2021	44.7%	74.6%	83.9%	82.8%	79.1%	89.3%	92.8%	86.9%	96.5%	95.1%	95.9%	91.0%	84.4%
	2022	85.0%	86.2%	95.2%	92.2%	85.6%	95.9%	85.2%	69.5%	64.8%	88.3%	91.3%	81.3%	85.0%
療養病棟	2020	87.6%	84.4%	76.6%	82.1%	85.5%	89.2%	94.0%	84.8%	88.9%	86.3%	89.3%	80.5%	85.8%
	2021	79.2%	82.0%	77.3%	78.2%	91.5%	96.5%	95.9%	91.6%	99.2%	99.1%	100.0%	99.1%	90.8%
	2022	87.3%	90.8%	96.4%	95.5%	86.2%	76.1%	88.8%	88.6%	82.7%	92.0%	97.5%	92.6%	95.5%

緩　和　ケ　ア

【人事】

氏　　名	役　　職	勤　務
長岡　広香		非（HP）
川島　夏希		非（HP）

精　神　科

【人事】

氏　　名	役　　職	勤　務
吉井與志彦	もの忘れ診療センター長	常（HP）
山里　道彦		非（HP）
佐藤　晋爾		非（HP）

乳 腺 ・ 甲 状 腺 外 科

【人事】

氏　　名	役　　職	勤　務
岩淵　　裕		非（HP）
佐藤　璃子		非（HP）

筑波記念病院　臨床研修医

初期臨床研修医

年次	氏　名	管理病院	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
2	阿久津　開	筑波記念病院	救急	整形	精神（ホスピタル坂東）	救急（日医）	放射線	地域医療（つくば在宅）	小児（JAとりで）	整形	救急（水戸済生会）	救急（水戸済生会）	整形	代内
2	岡口　和也	筑波記念病院	放射線	精神（ホスピタル坂東）	小児（こども病院）	地域医療（つくば在宅）	産婦（JAとりで）	呼外	心外	心外	麻酔	消外（東医茨城）	呼外（東医茨城）	消外
2	小形　雄大	筑波記念病院	麻酔	放射線	地域医療（つくば在宅）	小児（JAとりで）	産婦（水戸済生会）	神内	神内	麻酔	精神（ホスピタル坂東）	腎内（東医茨城）	皮膚（東医茨城）	リハビリ
2	齋藤　祥愛	筑波記念病院	消内	総診（筑大）	放射線	皮膚（東医茨城）	呼内	代内	小児（こども病院）	産婦（JAとりで）	地域医療（つくば在宅）	血内	精神（ホスピタル坂東）	麻酔
2	髙木　亮輔	筑波記念病院	地域医療（つくば在宅）	消内（東医茨城）	代内	精神（ホスピタル坂東）	小児（こども病院）	リハビリ	産婦（JAとりで）	神内	放射線	消内	消内	呼内
2	椿山　正哉	筑波記念病院	消外	消外	形成	放射線	精神（ホスピタル坂東）	小児（こども病院）	産婦（水戸済生会）	地域医療（小豆畑）	整形	救急	脳外	消内
2	林　竜一郎	筑波記念病院	産婦（水戸済生会）	地域医療（つくば在宅）	神内（筑大）	精神（筑大）	神内	精神（ホスピタル坂東）	放射線	小児（JAとりで）	リハビリ	皮膚（東医茨城）	代内	血内
2	築地　　音	筑波大学附属病院									呼内	血内	血内	神内
2	佐藤　和徳	筑波大学附属病院	神内	消内	消内									
2	中橋　優太	筑波大学附属病院		神内	神内									
2	阿部　晃子	筑波大学附属病院					消内	消内						
2	濱崎　純一	筑波大学附属病院				整形	整形	整形						
2	鶴田　昭仁	筑波大学附属病院										整形	整形	整形
2	前川　真穂	筑波大学附属病院								放射線				
1	柳元　　誠	筑波記念病院	呼内	血内	消内	消内	循内	循内	救急	救急	救急	消外	麻酔	呼外
1	並木　智宏	筑波記念病院	循内	循内	呼内	消内	消内	麻酔	呼外	消外	血内	救急	救急	救急
1	村山　直之	筑波記念病院	消内	消内	血内	救急	救急	救急	循内	循内	消外	呼内	呼外	小児（こども病院）
1	志賀　美保	筑波記念病院	循内	循内	麻酔	救急	救急	救急	血内	血内	消内	消内	消外	脳外
1	塙　　史帆	筑波記念病院	救急	救急	救急	血内	消外	呼内	整形	消内	消内	麻酔	循内	循内
1	甲斐世理奈	筑波記念病院	血内	血内	循内	循内	麻酔	消外	救急	救急	救急	心外	消内	消内
1	関本茉莉子	筑波記念病院	救急	救急	救急	消外	循内	循内	消内	消内	小児（こども病院）	小児（こども病院）	産婦（水戸済生会）	産婦（水戸済生会）
1	芳賀　　圭	筑波大学附属病院	神内	呼内	循内	循内	血内	血内						
1	鶴田　沙織	東京大学病院	血内	心外	消外	神内	脳外	消内	消内	形成	循内	循内	救急	救急

専攻医

年次	氏名	管理病院	在籍期間	診療科
6	加藤　佑介	筑波記念病院	2021 年 10 月 1 日～在籍中	一般内科
6	水草　真実	筑波記念病院	2021 年 10 月 1 日～在籍中	整形外科
5	渋谷　泰弘	筑波記念病院	2022 年 10 月 1 日～ 2023 年 3 月 31 日	循環器内科、呼吸器内科
5	中川俊一郎	東京医科大学茨城医療センター	2022 年 10 月 1 日～ 2023 年 3 月 31 日	消化器内科
5	鍜治田倫英	筑波大学附属病院	2022 年 4 月 1 日～在籍中	脳神経外科
5	前川　浩毅	東京医科大学病院	2022 年 1 月 1 日～ 2022 年 6 月 30 日	心臓血管外科
5	入方　祐樹	東京医科大学病院	2022 年 7 月 1 日～ 2022 年 12 月 31 日	心臓血管外科
5	宮本　颯真	聖路加国際病院	2022 年 9 月 1 日～ 2022 年 9 月 30 日	救急科
5	内田　健太	帝京大学医学部付属病院	2023 年 1 月 1 日～ 2023 年 3 月 31 日	リハビリテーション科
4	佐浦　　勲	筑波記念病院	2023 年 4 月 1 日～在籍中	消化器内科
4	山﨑　幸紀	筑波記念病院	2022 年 11 月 1 日～在籍中	心臓血管外科、呼吸器外科
4	山田亮太郎	筑波記念病院	2022 年 4 月 1 日～ 2023 年 3 月 31 日	消化器外科、心臓血管外科
4	河野　　豪	東京大学医学部附属病院	2021 年 10 月 1 日～在籍中	呼吸器外科、心臓血管外科、消化器外科
4	宇野　広隆	筑波大学附属病院	2022 年 4 月 1 日～ 2023 年 3 月 31 日	消化器内科
4	湯原美貴子	筑波大学附属病院	2022 年 4 月 1 日～ 2023 年 3 月 31 日	消化器内科
4	宝田亜矢子	筑波大学附属病院	2022 年 4 月 1 日～在籍中	血液内科
4	内田　絢子	筑波大学附属病院	2022 年 4 月 1 日～ 2022 年 9 月 30 日	整形外科
4	村上　真慧	筑波大学附属病院	2022 年 4 月 1 日～ 2023 年 3 月 31 日	リハビリテーション科
4	目﨑　直実	帝京大学医学部附属病院	2021 年 4 月 1 日～在籍中	リハビリテーション科
4	若林　宏樹	帝京大学医学部附属病院	2022 年 4 月 1 日～ 2022 年 12 月 31 日	リハビリテーション科
3	松本　佳奈	筑波記念病院	2022 年 10 月 1 日～在籍中	心臓血管外科
3	日浦とき雄	筑波記念病院	2021 年 9 月 1 日～ 2023 年 3 月 31 日	救急科
3	柴垣　厚仁	筑波大学附属病院	2022 年 10 月 1 日～ 2023 年 3 月 31 日	呼吸器内科
3	遠山晋一郎	筑波記念病院	2022 年 4 月 1 日～ 2022 年 11 月 30 日	リハビリテーション科

業　績　集

【論　文】

呼吸器内科

著　　者	論文タイトル	誌　　名	巻(号)	ページ	発行年月
Hiroko Watanabe, Hiroaki Ishikawa, Toshihide Inui, Kai Kawashima, Tomohiro Namiki, Tohru Sakamoto	The Macklin effect in tension pneumomediastinum in a patient with interstitial pneumonia	Respirol Case Rep.	10（11）	e01045	2022.9
Fumi Mochizuki, Naoya Tanabe, Hiroaki Iijima, Takafumi Shimada, Yusuke Shiraishi, Tomoki Maetani, Hajime Yamazaki, Kaoruko Shimizu, Masaru Suzuki, Shotaro Chubachi, Hiroichi Ishikawa, Takashi Naito, Hironori Masuko, Tohru Sakamoto, Izuru Masuda, Susumu Sato, Nobuyuki Hizawa, Toyohiro Hirai	Early chronic obstructive pulmonary disease: Associations of two spirometry criteria with clinical features	Respir Med.	204	107011	2022.11

神経内科

著　　者	論文タイトル	誌　　名	巻(号)	ページ	発行年月
Shioya A, Takuma H, Ohkoshi N, Hirano K, Ishihara T, Ishii K, Tamaoka A	Dentatorubropallidoluysian Atrophy with Prominent Autonomic Dysfunction	Intern Med.	doi: 10.2169/internalmedicine.9616-22. Online ahead of print.		2022
Taniguchi K, Yamamoto F, Amano A, Tamaoka A, Sanjo N, Yokota T, Kametani F, Araki W	Amyloid-β oligomers interact with NMDA receptors containing GluN2B subunits and metabotropic glutamate receptor 1 in primary cortical neurons: Relevance to the synapse pathology of Alzheimer's disease	Neurosci Res.	180	90-98	2022
Ogawa Y, Shimojo N, Ishii A, Tamaoka A, Kawano S, Inoue Y	Reduced CSF orexin levels in rats and patients with systemic inflammation: a preliminary study	BMC Res Notes	15（1）	221	2022
Ichimura Y, Konishi R, Shobo M, Inoue S, Okune M, Maeda A, Tanaka R, Kubota N, Matsumoto I, Ishii A, Tamaoka A, Shimbo A, Mori M, Morio T, Kishi T, Miyamae T, Tanboon J, Inoue M, Nishino I, Fujimoto M, Nomura T, Okiyama N	Reliability of antinuclear matrix protein 2 antibody assays in idiopathic inflammatory myopathies is dependent on target protein properties	J Dermatol.	49（4）	441-447	2022
Takahashi Y, Date H, Oi H, Adachi T , Imanishi N, Kimura E, Takizawa H, Kosugi S, Matsumoto N, Kosaki K, Matsubara Y, IRUD Consortium; Mizusawa H	Six years' accomplishment of the Initiative on Rare and Undiagnosed Diseases: nationwide project in Japan to discover causes, mechanisms, and cures	J Hum Genet.	doi: 10.1038/s10038-022-01025-0. Online ahead of print.		2022

消化器外科

著　　者	論文タイトル	誌　　名	巻(号)	ページ	発行年月
岩崎喜実	直腸膣瘻を伴った骨盤内びまん性大細胞型B細胞リンパ腫の1例	日本外科系連合学会誌	76 (5)	387-92	2022.8

心臓血管外科

著　　者	論文タイトル	誌　　名	巻(号)	ページ	発行年月
Yu Nakano, Satoshi Nishi, Yoshiki Yamazaki, Akihiro Yoshimoto, Yoshihiro Suematsu	Successful hybrid repair for ruptured abdominal aortic aneurysm caused by type IIIa sendoleak resulting from a disconnected contralateral limb	Journal of Vascular Surgery Cases, Innovations and Techniques		417-420	2022.8
山﨑幸紀、中野優、高橋秀臣、倉橋果南、西智史、吉本明浩、末松義弘	心房細動と出血リスクを有するエホバの証人信者に対して施行した低侵襲外科的左心耳マネジメントの2症例	心臓	Vol55 No.2	172-179	2023.2

救急科

著　　者	論文タイトル	誌　　名	巻(号)	ページ	発行年月
Akira Komori; Hirotake Mori; Toshio Naito	The impact of the COVID-19 pandemic on other infections differs by their route of transmission: A retrospective, observational study in Japan.	Journal of Infection and Chemotherapy	28	1700-03	2022
Hirotake Mori; Akira Komori; Toshio Naito	Low excess mortality rate during the COVID-19 pandemic waves in Japan	日本病院総合診療医学会雑誌			2022
Takayuki Otani, Toru Hifumi, Akihiko Inoue, Toshikazu Abe, Tetsuya Sakamoto, Yasuhiro Kuroda	Transient return of spontaneous circulation related to favourable outcomes in out-of-hospital cardiac arrest patients resuscitated with extracorporeal cardiopulmonary resuscitation: A secondary analysis of the SAVE-J II study.	Resuscitation plus	12	100300	2022.12
Nozomi Takahashi, Taro Imaeda, Taka-Aki Nakada, Takehiko Oami, Toshikazu Abe, Yasuo Yamao, Satoshi Nakagawa, Hiroshi Ogura, Nobuaki Shime, Asako Matsushima, Kiyohide Fushimi	Short- versus long-course antibiotic therapy for sepsis: a post hoc analysis of the nationwide cohort study.	Journal of intensive care	10 (1)	49	2022.1
Satoshi Gando, Atsushi Shiraishi, Takeshi Wada, Kazuma Yamakawa, Seitaro Fujishima, Daizoh Saitoh, Shigeki Kushimoto, Hiroshi Ogura, Toshikazu Abe, Toshihiko Mayumi, Junichi Sasaki, Joji Kotani, Naoshi Takeyama, Ryosuke Tsuruta, Kiyotsugu Takuma, Shin-Ichiro Shiraishi, Yasukazu Shiino, Taka-Aki Nakada, Kohji Okamoto, Yuichiro Sakamoto, Akiyoshi Hagiwara, Satoshi Fujimi, Yutaka Umemura, Yasuhiro Otomo	Effects of tranexamic acid on coagulofibrinolytic markers during the early stage of severe trauma: A propensity score-matched analysis.	Medicine	101 (32)	e29711	2022.8

Takehiko Oami, Taro Imaeda, Taka-Aki Nakada, Toshikazu Abe, Nozomi Takahashi, Yasuo Yamao, Satoshi Nakagawa, Hiroshi Ogura, Nobuaki Shime, Yutaka Umemura, Asako Matsushima, Kiyohide Fushimi	Temporal trends of medical cost and cost-effectiveness in sepsis patients: a Japanese nationwide medical claims database.	Journal of intensive care	10 (1)	33	2022.7
Takeshi Wada, Kazuma Yamakawa, Daijiro Kabata, Toshikazu Abe, Hiroshi Ogura, Atsushi Shiraishi, Daizoh Saitoh, Shigeki Kushimoto, Seitaro Fujishima, Toshihiko Mayumi, Toru Hifumi, Yasukazu Shiino, Taka-Aki Nakada, Takehiko Tarui, Yasuhiro Otomo, Kohji Okamoto, Yutaka Umemura, Joji Kotani, Yuichiro Sakamoto, Junichi Sasaki, Shin-Ichiro Shiraishi, Kiyotsugu Takuma, Ryosuke Tsuruta, Akiyoshi Hagiwara, Tomohiko Masuno, Naoshi Takeyama, Norio Yamashita, Hiroto Ikeda, Masashi Ueyama, Satoshi Fujimi, Satoshi Gando	Age-related differences in the survival benefit of the administration of antithrombin, recombinant human thrombomodulin, or their combination in sepsis.	Scientific reports	12 (1)	9304	2022.6
Tadahiro Goto, Daisuke Kudo, Ryo Uchimido, Mineji Hayakawa, Kazuma Yamakawa, Toshikazu Abe, Atsushi Shiraishi, Shigeki Kushimoto	Web-based application for predicting the potential target phenotype for recombinant human thrombomodulin therapy in patients with sepsis: analysis of three multicentre registries.	Critical care	26 (1)	145	2022.05
Takeshi Wada, Kazuma Yamakawa, Daijiro Kabata, Toshikazu Abe, Seitaro Fujishima, Shigeki Kushimoto, Toshihiko Mayumi, Hiroshi Ogura, Daizoh Saitoh, Atsushi Shiraishi, Yasuhiro Otomo, Satoshi Gando	Sepsis-related coagulopathy treatment based on the disseminated intravascular coagulation diagnostic criteria: a post-hoc analysis of a prospective multicenter observational study.	Journal of intensive care	11 (1)	8	2023.03
Akira Komori, Hiroki Iriyama, Toshikazu Abe	Impact of defibrillation with automated external defibrillator by bystander before defibrillation by emergency medical system personnel on neurological outcome of out-of-hospital cardiac arrest with non-cardiac etiology.	Resuscitation plus	13	100363	2023.03
Takehiko Oami, Taro Imaeda, Taka-Aki Nakada, Toshikazu Abe, Nozomi Takahashi, Yasuo Yamao, Satoshi Nakagawa, Hiroshi Ogura, Nobuaki Shime, Yutaka Umemura, Asako Matsushima, Kiyohide Fushimi	Mortality analysis among sepsis patients in and out of intensive care units using the Japanese nationwide medical claims database: a study by the Japan Sepsis Alliance study group.	Journal of intensive care	11 (1)	2	2023.01

Toshikazu Abe, Yutaka Umemura, Hiroshi Ogura, Shigeki Kushimoto, Seitaro Fujishima, Daizoh Saitoh, Satoshi Gando	Early versus delayed vasopressor administration in patients with septic shock.	Acute medicine & surgery	10（1）	e852	2023
Akira Komori, Hiroki Iriyama, Takako Kainoh, Makoto Aoki, Toshikazu Abe	Association between intra-abdominal injured organs and abdominal compartment syndrome in patients with severe blunt trauma: A propensity score matched study using nationwide trauma registry in Japan.	PloS one	18（5	e0286124	2023
Makoto Aoki, Toshikazu Abe, Shuichi Hagiwara, Daizoh Saitoh	Variation in the utilization of angioembolization for splenic injury in hospitals: a nationwide cross-sectional study in Japan.	Acute medicine & surgery	10（1）	e837	2023
Hirotaka Ando, Takeshi Goto, Keisuke Ito, Dai Ikebe, Shogo Tanno, Shohei Matsukubo, Hirohumi Koide, Toshikazu Abe	Rapid airway stenosis due to ruptured occipital artery in a patient with neurofibromatosis type I.	Acute medicine & surgery	10（1）	e832	2023

【書籍】

神経内科

著　者	書　籍　名	監修・編集	担当項目	出版社	ページ	発行年月
玉岡　晃	治療薬マニュアル 2023	高久史磨、矢崎義雄監修、北原光夫、上野文昭、越前宏俊編集	抗てんかん薬、パーキンソン病／症候群治療薬、脳循環代謝改善薬、筋弛緩薬、自律神経作用薬、抗めまい薬、片頭痛治療薬、その他の神経系用薬	医学書院（東京）	293-464	2023
玉岡　晃	Pocket Drugs 2023	福井次矢監修、小松康宏、渡邉裕司、編集	認知症治療薬	医学書院（東京）	104-107	2022
玉岡　晃	アルツハイマー病治療の新たなストラテジー	橋本　衛、岩田　淳編集	アルツハイマー病の新規治療ー臨床的意義：疾患就職薬の開発と現在（BACE 阻害薬などを含めて）	先端医学社（東京）	108-112	2022

小児外科

著　者	書　籍　名	監修・編集	担当項目	出版社	ページ	発行年月
上岡克彦	今日の治療指針　2023 年版	福井次矢他	その他の尿路性器先天異常	医学書院	1206	2023.1.1

【学会・講演・セミナー等】

呼吸器内科

発　表　者	演　題　名	学会・会合名	開催地	開催年月
並木智宏	特発性間質性肺炎治療中に緊張性縦隔気腫をきたした 1 例	第 252 回日本呼吸器学会関東地方会	東京	2022.11
柴垣厚仁	黄色の気管支肺胞洗浄液を伴った特発性 acute fibrinous and organizing pneumonia の一例	第 184 回日本呼吸器内視鏡学会関東支部会	東京	2023.3

循環器内科

発　表　者	演　題　名	学会・会合名	開催地	開催年月
Kenji Wagatsuma	LIVE Case 10-11: Coronary,	The 20th Gwangju International Interventional Cardiology Symposium 2022 (GICS2022)	Online (Gwangju, Korea)	2022.6
沼田るり子、内田靖人、新居秀郎、我妻賢司、小關　迪	石灰化結節とステントリコイルによる再狭窄をくりかえし二重のステントをロータブレーターでステントアブレーションを行った一例.	第 30 回日本心血管インターベンション治療学会学術集会	横浜	2022.7
井川昌幸	左心耳血栓をめぐる諸問題　～左心耳閉鎖 / 切離の有用性と抗凝固薬離脱の考え方～	第 10 回日本心血管脳卒中学会学術集会シンポジウム	WEB	2023.3.29

消化器内科

発　表　者	演　題　名	学会・会合名	開催地	開催年月
小形雄大、添田敦子、佐浦勲、重田早紀子、安部計雄、根本絵美、丹下善隆、新里悠輔、越智大介、大和万里子、花野舞、池澤和人	顔面の膿瘍病変に対してデブリードマン・植皮を行った壊疽性膿皮症合併潰瘍性大腸炎の 1 例	第 369 回日本消化器病学会総会	東京（Web）	2022.5
佐浦勲、丹下善隆、添田敦子、重田早紀子、安部計雄、根本絵美、新里悠輔、越智大介、岩﨑喜実、池澤和人	急性リンパ性白血病の化学療法中に生じた膵液漏に対し内視鏡的経乳頭的アプローチと外科的ドレナージにより早期軽快を得た一例	第 101 回日本消化器内視鏡学会関東支部例会	東京（ハイブリッド）	2022.6
椿山正哉、添田敦子、小島丈心、佐浦勲、重田早紀子、安部計雄、根本絵美、丹下善隆、新里悠輔、越智大介、岩﨑喜実、池澤和人	下行結腸癌切除後の機能的端々吻合部に形成した便塊により糞便性イレウスを生じた 1 例	第 101 回日本消化器内視鏡学会関東支部例会	東京（ハイブリッド）	2022.6
湯原美貴子、添田敦子、宇野広隆、佐浦勲、根本絵美、丹下義隆、江南ちあき、越智大介、臺勇一、池澤和人	低用量経口避妊薬により生じた脂肪肝を伴う薬物性肝障害の 1 例	第 370 回日本消化器病学会関東支部例会	東京（Web）	2022.7
宇野広隆、越智大介、佐浦勲、湯原美貴子、根本絵美、丹下善隆、江南ちあき、添田敦子、池澤和人	塩酸ミノサイクリン注入による硬化療法が有効であった感染性肝嚢胞	第 372 回日本消化器病学会関東支部例会	東京（現地）	2022.12
江南ちあき	研修医セッション座長	第 102 回日本消化器内視鏡学会関東支部例会	東京（現地）	2022.12
添田敦子	当院における肝炎ウイルス検査陽性者フォローアップについて	第 16 回茨城・埼玉肝疾患研究会	東京（現地）	2022.10.15

神経内科

発　表　者	演　題　名	学会・会合名	開催地	開催年月
三橋　泉、冨所康志、古田泰久、大崎芳典、鈴木浩明、石井一弘、玉岡　晃、斉木臣二	多発単神経障害で発症した ABCA1 遺伝子の新規複合ヘテロ遺伝子変異を伴うタンジール病の 49 歳女性例	第 244 回日本神経学会関東・甲信越地方会	東京	2023.3.4
棟居 佳子、小野文子、揚山直英、八神健一、石井一弘、玉岡 晃、保富康宏、下澤律浩	神経セロイド・リポフスチン症 2 型カニクイザルに対する行動解析の検討	第２７回日本ライソゾーム病研究会	東京	2022.11.4

星野幸子、大内翔悟、清水眸、冨所康志、柳葉久実、井口研子、石井一弘、沖山奈緒子、西野一三、玉岡晃	甲状腺乳頭癌を合併した抗 SRP 抗体陽性免疫介在性壊死性筋症について	第３３回茨城神経疾患カンファレンス	つくば	2022.6.29
星野幸子、大内翔悟、清水眸、冨所康志、柳葉久実、井口研子、石井一弘、沖山奈緒子、西野一三、玉岡晃	甲状腺乳頭癌を合併した抗 SRP 抗体陽性免疫介在性壊死性筋症の 64 歳男性例	第 678 回日本内科学会関東地方会	東京	2022.6.11
白岩伸子、鮎澤聡、玉岡晃、大越教夫	片頭痛患者における呉茱萸湯使用群の臨床的特徴	第 63 回日本神経学会学術大会	東京	2022.5.21
辻浩史、冨所康志、中馬越清隆、石井亜紀子、石井一弘、小川靖裕、玉岡晃	多発性硬化症と腫瘍性疾患の鑑別における GDF-15 の有用性の検討	第 63 回日本神経学会学術大会	東京	2022.5.21
星野幸子、清水眸、柳葉久実、武田勇人、玉岡晃	進行期パーキンソン病入院患者の薬剤調整の現状	第 63 回日本神経学会学術大会	東京	2022.5.21
鈴木哲、辻浩史、石井亜紀子、冨所康志、中馬越清隆、大内翔悟、三橋泉、高橋華、鍛冶田倫英、高橋幸利、石井一弘、玉岡晃	自己抗体陽性自己免疫性脳炎 11 例の臨床的検討	第 63 回日本神経学会学術大会	東京	2022.5.19
大内翔悟、辻浩史、石井亜紀子、三宅善嗣、奥根祥、相澤哲史、織田彰子、鈴木哲、高橋華、宮内博基、鍛冶田倫英、山崎浩、冨所康志、中馬越清隆、玉岡晃、西野一三、家田真樹、石井一弘	本施設における抗ミトコンドリア M2 抗体陽性筋炎 4 症例の比較	第 63 回日本神経学会学術大会	東京	2022.5.19
柳葉久実、清水眸、大内翔悟、石井一弘、星野幸子、中森暁子、中山雅博、河合瞳、松原大祐、玉岡晃	口腔小細胞癌に伴って抗 PQ 型 VGCC 抗体陽性と小脳性運動失調を呈した 53 歳男性例	第 676 回日本内科学会関東地方会	東京	2022.3.19
玉岡　晃	Opening Remarks	茨城パーキンソン病 WEB カンファレンス	つくば	2023.3.29
玉岡　晃	Closing Remarks	Pain Live Symposium	つくば	2023.3.22
玉岡　晃	Opening Remarks MS の臨床経過と治療薬～オファツムマブの使用経験を含めて～	MS Online Seminar	つくば	2023.3.1
玉岡　晃	Opening Remarks ～斉木臣二教授をお迎えして	斉木臣ニ教授運営方針説明会	つくば	2023.1.25
玉岡　晃	特圧性正常圧水頭症と変性性認知症	第 41 回日本認知症学会学術集会／第 27 回日本老年精神医学会【合同開催】	東京	2022.11.26
玉岡　晃	神経難病における若年性認知症とその相談支援	第 41 回日本認知症学会学術集会／第 27 回日本老年精神医学会【合同開催】	東京	2022.11.25
玉岡　晃	認知症診断のピットフォール～変性性認知症と特発性正常圧水頭症を中心に～	第 15 回クリニカルランドマーク茨城		2022.11.18
玉岡　晃	閉会の辞	頭痛はつらいよ Web seminar		2022.9.5
玉岡　晃	認知症と睡眠障害	認知症と不眠を考える in 鹿行		2022.7.6
玉岡　晃	Gantenerumab の臨床試験の現状	第２２回日本抗加齢医学会総会	大阪	2022.6.17

玉岡　晃	Closing Remarks	Pain Live Symposium -Parkinson Keyperson Conference-		2022.6.15
玉岡　晃	「もの忘れ外来診療のためのエッセンシャル」講習会　ベーシック編：認知症診断における注意点～認知機能検査、かんべつしんだん、患者・家族への対応～	第6回日本脳神経外科認知症学会学術総会	秋田	2022.6.12
玉岡　晃	クローシングリマークス	世界高血圧デーにエンレストを考える		2022.5.17
玉岡　晃	認知症とパーキンソン病～レビー小体型認知症の前駆症状も含めて～	日常診療における認知症とパーキンソン病について		2022.2.17
玉岡　晃	Closing Remarks：パーキンソン病（PD）と多発性硬化症（MS）における認知機能障害	第5回茨城神経内科フォーラム		2022.2.9
玉岡　晃	脂質異常症と認知症～関連危険因子も含めて～	日本老年精神医学会第8回心理士講習会		2022.2

呼吸器外科

発　表　者	演　題　名	学会・会合名	開催地	開催年月
吉田　進	気管偏位を来した縦隔内甲状腺腫及び横行結腸癌術後肺転移に対し同時手術を施行した1例	第39回日本呼吸器外科学会学術集会	東京（ハイブリッド）	2022.5

消化器外科

発　表　者	演　題　名	学会・会合名	開催地	開催年月
上田和光	十二指腸浸潤と肝転移を伴う上行結腸癌の1手術例	第251回茨城外科学会	水戸	2022.10
上田和光	腹腔内デスモイド腫瘍の1手術例	第251回茨城外科学会	水戸	2022.10
上田和光	肝嚢胞に対する開窓術後胆汁瘻の臨床病理学的検討	JDDW2022	福岡	2022.10
上田和光	急性腹症で発症し自然壊死をきたしたと思われる後腹膜腫瘤の1例	第84回日本臨床外科学会	福岡	2022.11
菅野優貴	大動脈十二指腸瘻の2例	第59回日本腹部救急学会	沖縄	2023.3
岩崎喜実	当科の腹腔鏡手術について	第4回TMAC	つくば市	2022.9

心臓血管外科

発　表　者	演　題　名	学会・会合名	開催地	開催年月
西　智史	EVAR後の右総大腿動脈が閉塞している右内腸骨動脈瘤に対する下肢血流を温存した治療の工夫	第50回日本血管外科学会学術総会	小倉	2022.5
山﨑幸紀	心房細動、左心耳血栓、心原性塞栓症の患者に対するわれわれの治療戦略	第189回日本胸部外科学会関東甲信越地方会	東京	2022.6
西　智史	腹部大動脈瘤に対するEVARの戦略～私はこうしています～	JLL Night 第1回関東大動脈外科conference	Web	2022.7
西　智史	The role of PETTICOAT technique in outcomes of the patients with acute aortic dissection	第75回日本胸部外科学会定期学術集会ランチョンセミナー11	横浜	2022.10
西　智史	Preemptive TEVAR導入後5年のuncomplicated急性B型解離の治療成績	第75回日本胸部外科学会定期学術集会優秀ポスター賞2	横浜	2022.10
西　智史	遺残坐骨動脈瘤に対するhybrid手術の1例	第63回日本脈管学会総会	横浜	2022.10

山﨑幸紀	冠動脈病変を有する von Recklinghausen 病患者に対してオフポンプ冠動脈バイパス術を施行した一例	第 190 回日本胸部外科学会関東甲信越地方会	東京	2022.11
西　智史	大動脈解離における PETTICOAT technique の意義	Z-Conference on the Web	Web	2022.11
西　智史	DeBakey Ⅲb 型急性大動脈解離に対し PETTICOAT technique にて大動脈の完全リモデリングをえた症例	第 191 回日本胸部外科学会関東甲信越地方会	横浜	2023.2
山﨑幸紀	当院におけるハイリスク Stanford A 型急性大動脈解離に対する fast-track 戦略の経験	第 53 回日本心臓血管外科学会学術総会	旭川	2023.3

整形外科

発　表　者	演　題　名	学会･会合名	開催地	開催年月
小方陽介	腰椎後方椎体間固定術における罹患椎間高の変化が隣接椎間に与える影響	第 51 回日本脊椎脊髄病学会	パシフィコ横浜	2022.4.22
岡本千尋	OWHTO、CWHTO における術前後下肢アライメント変化	日本スポーツ整形外科学会 2022	札幌コンベンションセンター	2022.6.17
村上浩平	トモシンセシスを用いたステム周囲骨反応評価 -tapered wedge stem vs. full HA coated stem	第 49 回日本股関節学会	やまぎん県民ホール	2022.10.28

救急科

発　表　者	演　題　名	学会・会合名	開催地	開催年月
Toshikazu Abe; Yutaka Umemura; Hiroshi Ogura; Shigeki Kushimoto; Akira Komori; Hiroki Iriyama; Seitaro Fujishima; Atsushi Shiraishi; Daizoh Saitoh; Toshihiko Mayumi; Yasuhiro Otomo; Kazuma Yamakawa; Yasukazu Shiino; Takaaki Nakada; Toru Hifumi; Yuichiro Sakamoto; Tomohiko Tarui; Joji Kotani; Ryosuke Tsuruta; Satoshi Gando	Early versus delayed vasopressor administration in patients with septic shock	欧州集中治療医学会	パリ	2022.1
Akira Komori; Hiroki Iriyama; Takako Kainoh; Toshikazu Abe	The differences in effectiveness of public access defibrillation with automated external defibrillators for out-hospital cardiac arrest according to the cause of cardiac arrest	欧州集中治療医学会	パリ	2022.1
Toshikazu Abe, Yutaka Umemura, Hiroshi Ogura, Shigeki Kushimoto, Seitaro Fujishima, Daizoh Saitoh, Hiroki Iriyama, Akira Komori, Yasuhiro Otomo, Atsushi Shiraishi, Satoshi Gando	Relationship between Fluid Administration in the First Three Hours of Sepsis Resuscitation and Mortality	米国救急医学会	サンフランシスコ	2022.1

放射線科

発　表　者	演　題　名	学会･会合名	開催地	開催年月
鯨岡　結賀	多施設画像を用いたディープラーニングによるマンモグラフィ乳房構成評価モデルの開発	第 36 回乳癌学会	横浜	2022.7

麻酔科

発　表　者	演　題　名	学会･会合名	開催地	開催年月
新里恵美菜（代理発表　富田絵美）	StanfordA 型急性大動脈解離に対する Stepwise External Wrapping（Suematsu 法）における fast-track 管理の経験	日本心臓血管麻酔学会第 27 回学術大会	京都	2022.09

リハビリテーション科

発　表　者	演　題　名	学会･会合名	開催地	開催年月
目﨑直実、大槻玄太、渡部岳、岩松雅子、川原田晴通、安岡利一、伊佐地 隆	COVID-19 院内クラスター発生による回復期リハビリテーション診療への影響	第 59 回日本リハビリテーション医学会学術集会	横浜	2022.6
髙田政夫、佐々木千穂、境信哉、井村　保、竹島久志、中礼仁孝、桑幡和司、兒玉憲昭、伊佐地　隆	SMA Ⅰ型児スイッチ操作用上肢装具再製作の経過と多職種連携における情報交換の必要性について	第 38 回日本義肢装具学会学術大会	岡山	2022.10
遠山晋一郎 , 若林宏樹 , 村上真慧 , 岩松雅子 , 目﨑直実 , 川原田晴通 , 伊佐地隆	訪問リハビリテーション利用者の終末期における中止理由の考察	第 6 回日本リハビリテーション医学会秋季学術集会	岡山	2022.11
岩松雅子　伊佐地隆　川原田晴通　目崎直実　遠山晋一郎　村上真慧 若林宏樹　右田琢生	発達障害児の早期介入の検討	第 6 回日本リハビリテーション医学会秋季学術集会	岡山	2022.11
伊佐地 隆 （座長）	第 1 回血液がん患者さんについて	がん患者さんのリハビリテーションを考える	オンライン	2022.5
伊佐地 隆	地域リハビリテーションアドバイザーに望むもの	令和 4 年度茨城県地域リハビリテーションアドバイザー養成事業 第 1 回講習会	オンライン	2022.5
伊佐地 隆	福祉用具・義肢装具概論（実技）	茨城県若手リハ専門職卒後研修	水戸	2022.8

研修医

発　表　者	演　題　名	学会･会合名	開催地	開催年月
小形　雄大	顔面の壊疽性膿皮症を契機に診断された潰瘍性大腸炎の一例	日本消化器病学会 関東支部第 369 回例会	WEB 発表	2022.5.14
椿山　正哉	下行結腸癌切除後の機能的端々吻合部に形成した便塊により糞便性イレウスを生じた 1 例	第 114 回日本消化器内視鏡学会関東支部例会	シェーンバッハ・サボー	2022.6.11
甲斐　世理奈	リンパ節限局 AL アミロイドーシスの一例	第 679 回関東地方会日本内科学会	日本都市センター	2022.7.10
芳賀　圭	COVID19 罹患後に汎血球減少をきたした ITP 症例	第 680 回関東地方会日本内科学会	東京国際フォーラム	2022.9.24
並木　智宏	マックリン効果により生じた間質性肺炎症の緊張性縦隔気腫	第 252 回日本呼吸器学会関東地方会	秋葉原コンベンションホール	2022.11.5
志賀　美保	びまん性大細胞型 B 細胞性リンパ腫と CD8 陽性顆粒リンパ球増多症の合併例	第 683 回関東地方会日本内科学会	WEB 発表	2022.12.10

診療支援部門

看　護　部

【総括】

1．2022 年度の実績報告

看護部方針である「看護師個々の質向上により、利用者とスタッフから喜ばれる病院となる」ために、2022 年度も前年同様スタッフ教育と業務改善に努めた。教育に関しては、看護の質向上のために、2021 年 4 月から開始した看護師ラダー進級システムにより、2022 年度末のラダー分布はⅤ：４％、Ⅳ：7,9％、Ⅲ：27.9％、Ⅱ：30％、Ⅰ：30.2％となった（図 1）。看護の質を指標としていたアクシデント件数は 7 件から 12 件へ前年度と比べ増加した。クレームに関しては 8 件であった。

次に、看護師からも喜ばれる病院として、働きやすい環境提供のため、一人あたりの月平均超過勤務を 10 時間未満に設定し、平均 8.9 時間の結果となった。さらに一人あたり年間有給取得率を 50% 以上に設定し、75% 取得することができた。新卒看護師は 28 ～ 35 名の採用を目標にあげ、32 名の就職者を確保することができた。しかし、看護師の離職率は目標値の 7.5％未満には届かず 13.7％となった。

最後に、最も必要な利用者に喜ばれる病院として、病床稼働率の目標を急性期 90％以上、慢性期 100％としてあげたが、結果、急性期 81.0％、慢性期 89.8％であった。さらなる看護の質向上と、業務改善に向け 2023 年度も邁進する。

2．2023 年度の課題・目標

急性期病院として、平均在院日数の短縮が今後の課題となる中で、病床稼働を上げるためにも以下の目標を継続する。

①アクシデントのない看護
②クレームのない看護
③1ヶ月の一人あたり超過勤務10時間未満
④年間一人あたりの有給取得率50%以上
⑤看護師離職率7.5%以下
⑥人材確保の充実として新卒看護師28～35名採用
⑦病床稼働急性期90%以上、慢性期100%

［文責：星　豪人］

【人事】

職種別人数

看護師	保健師	准看護師	介護士	看護補助者	合計
394	5	17	51	30	497

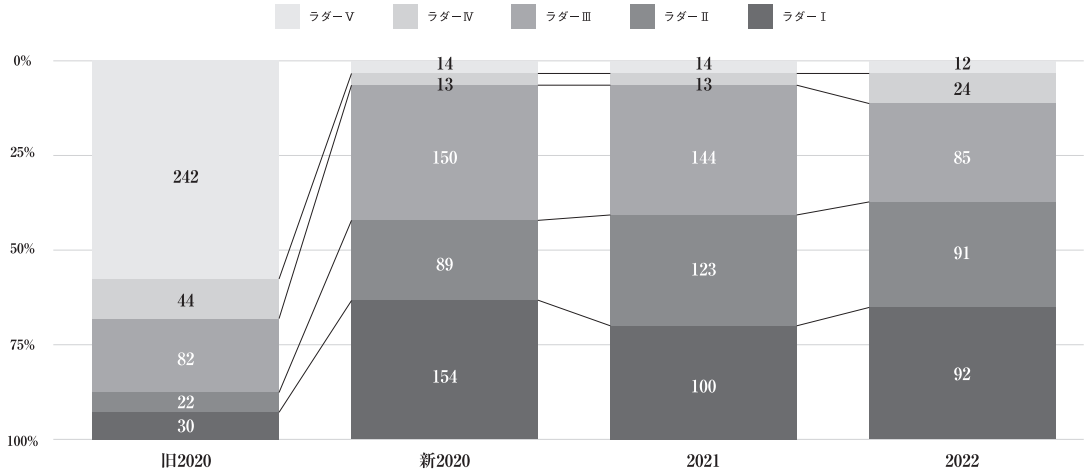
役職者

看護部長	看護副部長	看護管理師長	看護主任	介護主任
1	2	15	21	3

資格保持・研修修了者

認定看護師	認定看護管理者	1
	救急看護認定看護師	1
	感染管理認定看護師	2
	糖尿病看護認定看護師	1
	摂食・嚥下障害看護認定看護師	1
	集中ケア認定看護師	1
	緩和ケア認定看護師	1
	認知症看護認定看護師	1
特定行為研修修了者		2
看護管理者研修修了者	サードレベル	1
	セカンドレベル	4
	ファーストレベル	34
臨床指導者		49

（図 1）旧ラダーと新ラダー評価による分布変化と推移



【資格等】

研　修　名	取得者名
労働大臣指定）精神科訪問看護基本療養費算定要件研修	泉陽向子、丹沢かおり、冨田妙子
災害派遣医療チーム研修（DMAT）	飯島雄希
「重症度、医療・看護必要度」評価者及び院内指導者研修	中山恵美、寺田園子
実習指導者講習会	徳瀬千穂
術後疼痛管理研修	河野尚子
看護補助者のさらなる活用のための看護管理者研修	鶴見幸子、相馬悟、友常哉子、森純子、猪瀬里美、大和田道代、野口里美、大内昭子、小祝美紀

【講師等】

氏　　名	内　　容	依　頼　元	講義総時間
鶴見幸子	看護の統合と実践　看護管理	茨城県立岩瀬高等学校 看護 専攻科１年	10 時間
市川理恵子	在宅看護論　在宅看護方法論Ⅱ②	茨城県立岩瀬高等学校 看護 専攻科２年	20 時間
小林朋子	看護の統合と実践　医療安全	茨城県立岩瀬高等学校 看護 専攻科１年	10 時間
下村真一	解剖生理学　循環器疾患　　病理学　循環器系の疾患	茨城県立岩瀬高等学校 看護 専攻科１年	18 時間
吉村真衣	人体と看護・疾病と看護　消化器	茨城県立岩瀬高等学校 看護 衛生看護科１年	16 時間
髙橋久美子	人体と看護・疾病と看護　乳房	茨城県立岩瀬高等学校 看護 衛生看護科１年	4 時間
藤田羊子	人体と看護・疾病と看護　循環器	茨城県立岩瀬高等学校 看護 衛生看護科１年	12 時間
本多智子	成人看護学援助論Ⅴ　血液像血器疾患看護	茨城県結城看護専門学校２年	10 時間
吉田聖	成人看護学援助論Ⅱ　循環器疾患看護	茨城県結城看護専門学校２年	12 時間
	脳神経疾患看護	土浦市医師会附属准看護学校	8 時間
星典子	看護の基本となる技術Ⅱ　感染予防技術	茨城県結城看護専門学校１年	8 時間
木内亮子	内分泌　代謝疾患看護	土浦市医師会附属准看護学校	8 時間
中山恵美	循環器疾患看護	土浦市医師会附属准看護学校	8 時間
保土山耕平	耳鼻咽喉疾患看護	土浦市医師会附属准看護学校	6 時間
古澤則子	血液　造血器疾患看護	土浦市医師会附属准看護学校	6 時間
山田麗華	老年看護学方法論Ⅲ	アール医療福祉専門学校	14 時間

【学会・発表等】

氏　　名	演　題　名	学会・会合名	開　催　地	開催年月
大森秀輔	ショートカンファレンス導入による効果の考察	第 24 回日本医療マネジメント学会学術集会	兵庫県神戸市	2022.7.8 ～ 2022.7.9
鏑木優希	COVID-19 感染対策を重視した急変対応シミュレーションが奏功した一例	第 24 回日本救急看護学会学術集会	東京	2022.10.14 ～ 2022.10.15

薬　剤　部

【総括】

1．2022 年度の実績報告

1）薬剤管理指導件数の増加

2021 年度の 9,532 件を超えて、年 10,000 件を目標としたが、9,396 件と目標には届かなかった。

2）病院の増収につながる病棟薬剤業務の展開

「外来化学療法室に薬剤師を配置し、抗がん剤無菌調製にとどまらず、外来化学療法を受ける患者に対する薬剤師外来開設を目指す」については、マンパワー的な問題がクリアできず、未達成となった。

3）残業時間の減少と有給休暇の取得促進

「60 時間／月の人数はゼロにする。有給休暇を 5 日以上取得させる」有給休暇取得目標は達成できたが、「60 時間／月の人数はゼロにする」は未達成となった。

4）調剤業務合理化の推進進

①「簡易懸濁法を 2-4 病棟に導入して、2-4 病棟の薬剤セット（マル調）および、散剤調製にかかる時間を減少させる」については、部分的な導入を開始した。

②「薬剤管理指導業務支援ソフトを導入して、当該業務に係る記録作成時間を減少させて、生み出された時間を対患者業務に向けることで、算定件数増加を目指す」については、2023 年 4 月にソフト導入がなされ、今後導入効果が見込まれる。

2．2023 年度の課題・目標

1）薬剤管理指導件数の増加

導入した薬剤管理指導業務支援ソフトを活用し 2022 年度の 9,396 件を超えて、年 11,000 件を目標とする。

2）病院の増収につながる病棟薬剤業務の展開

病院常勤薬剤師 31 名体制を目標としてマンパワー増強をはかり

①連携充実加算を取得して外来化学療法の充実を目指す

② ICU に薬剤師を配置して、「病棟薬剤業務実施加算Ⅱ」の取得を目指す

③周術期薬剤管理加算を取得して、術後疼痛管理チーム加算取得への足がかりを作る

［文責：垣内祥宏］

【業務実績】

	入院処方箋枚数	抗癌剤無菌調製件数(入院)	抗癌剤無菌調製件数(外来)	薬剤管理指導（Ⅰ）料件数（380 点）	薬剤管理指導（Ⅱ）料件数（325 点）	退院時薬剤管理指導件数（90 点）	無菌製剤処理料算定件数（無菌1イ+無菌1ロ+無菌2）	薬剤病棟業務実施加算（100 点）
2021年度	62,666	1,614	2,421	2,277	7,255	2,476	4,231	16,920
2022年度	65,680	1,496	3,212	2,312	7,084	2,850	3,953	19,240

	薬剤管理指導料Ⅱ（380 点）	薬剤管理指導料Ⅰ（325 点）	退院時薬剤管理指導料（90 点）	無菌製剤処理料（無菌1イ+無菌1ロ+無菌2）	薬剤病棟業務実施加算（100 点）	合計
2021年度	¥8,652,600	¥23,578,750	¥2,228,400	¥2,498,200	¥16,920,000	¥53,877,950
2022年度	¥8,785,600	¥23,023,000	¥2,565,000	¥2,385,000	¥19,240,000	¥55,998,600

【学会業績】

氏　　名	演　題　名	学会・会合名	開　催　地	開催年月
草間智美、岡　陽子、平間さゆり、垣内祥宏、小林朋子、池澤和人	調剤鑑査を看過した薬剤関連インシデントの事例分析	第24回 日本医療マネジメント学会学術総会	神戸	2022.7

放　射　線　部

【総括】

1．2022 年度の実績報告

診療放射線技師 28 名、臨床検査技師２名（非常勤１名）、受付事務２名（非常勤１名）の体制で、筑波記念病院、筑波総合クリニック、つくばトータルヘルスプラザ（THP）において単純 X 線、CT、MRI、超音波、マンモグラフィ、透視撮影、核医学、巡回健診（胸部・胃部）の画像診断検査を行った。また、IVR では、心臓カテーテル、頭部・腹部血管造影、ステントグラフト内挿術の治療に携わった。

業務実績検査数は昨年度と比較すると、筑波記念病院の CT では検査枠の増設に加え、救急患者の増加、筑波総合クリニックの透視では整形外科領域の検査増加によりそれぞれの検査数増益に寄与した。その他は、例年通りの推移を示している。

装置導入では４月に移動型術中イメージングシステム（O-arm）が設置され手術室内での 2D 透視や 3D 画像を用いた整形外科の椎体領域のイメージガイド手術が可能となった。９月に超音波診断装置が更新され Shear Wave Elastograhy（SWE）と Attenuation Imaging（ATI）を利用した肝臓の線維化および脂肪化の非侵襲的な診断を行える検査がより充実した。２月の筑波総合クリニック MRI 装置の更新時においては、更新期間中の検査予約数や診療への影響を最小となるよう施設の共同利用と病院の検査枠の増加などの対応により、予定通りの工期で実施できた。また、病室や手術室で使用する平面検出器（FPD）を備えた X 線ポータブル装置の追加と THP の胃部透視装置の更新を行った。

線量管理については今年度より運用を開始した線量管理ソフトを用いて、CT、血管造影、核医学の被ばく線量の記録と撮影プロトコールの管理見直しが適切に行えた。

教育活動として昨年度に引き続き各モダリティの勉強会、若手主体の勉強会を定期的に開催し全体のレベルアップに努めた。新人教育プログラムの見直しを行い再整備した。臨床実習では３名の茨城県立医療大の実習生を受け入れた。認定資格の新規取得者は X 線 CT 専門認定技師１名であった。

2．2023 年度の課題・目標

昨年度に引き続き COVID-19 を含めた感染症対策を優先しながら安心・安全・迅速な医療の提供と検査効率の改善による待ち時間の短縮を行い、地域に貢献できる検査体制の構築を進める。大型装置の更新においては核医学検査装置の更新と病院 CT 装置の新規設置が予定されている。工事期間中は検査予約数の減少による診療への影響を最小限にする対策を進める。

医師の働き方改革を進めるためのタスク・シフト／シェアに伴う業務拡大も含めた研修が必要と考える。さらに医療安全への取り組みを含めた各種検査マニュアルの更新および認定資格の新規取得・更新を目指す。

［文責：神宮仁一］

【実務実績】

筑波記念病院

	CT	MRI	超音波	IVR	単純 X 線	マンモグラフィ	核医学	透視撮影
2021 年度	11,854	4,461	3,431	712	22,778	5,203	466	583
2022 年度	12,556	4,493	3,327	687	22,630	5,530	482	556

筑波総合クリニック

	CT	MRI	単純 X 線	骨密度	透視検査
2021 年度	7,197	3,750	20,243	1,054	1,237
2022 年度	7,152	3,509	20,552	1,048	1,609

つくばトータルヘルスプラザ

	施設内での健診		巡回健診	
	胸部	胃部	胸部	胃部
2021 年度	23,765	13,456	11,298	2,366
2022 年度	24,573	14,303	11,418	2,448

【学会・講演・セミナー等】

発　表　者	演　題　名	学会・会合名	開　催　地	開催年月
渡邉　祐	O-arm の概要と適応症例について	第 40 回　つくば放友会	Web 開催	2022.5.26
根本　幸一	骨盤領域 うちならこう撮る「直腸」	18th PHILIPS User Meeting Gyro ibaraKI	Web 開催	2022.6.4

リハビリテーション部

【総括】

リハビリテーション（以下、リハ）部では新卒職員 34 名（理学療法士 20 名、作業療法士 10 名、言語聴覚士 4 名）を迎え、常勤リハ専門職 270 名（理学療法士 169 名、作業療法士 74 名、言語聴覚士 27 名）、非常勤リハ専門職 6 名（理学療法士 1 名、作業療法士 5 名）の計 276 名で、部長 1 名、課長 3 名、係長 2 名、主任 15 名、副主任 16 名の体制でスタートした（出向含む）。常勤リハ専門職 210 名（理学療法士 134 名、作業療法 54 名、言語聴覚士 22 名）を病院の入院部門および外来部門に配置した。2022 年度の退職者は常勤リハ専門職 27 名（理学療法士 16 名、作業療法士 10 名、言語聴覚士 1 名）であった。2023 年度は 4 月から新卒職員 22 名（理学療法士 12 名、作業療法士 7 名、言語聴覚士 3 名）が入職見込みである。

リハ実施患者の延べ件数は前年度より入院は 2.0% 増、外来は 13.3％増であった。リハ新規指示患者件数は前年度より入院は 5.1％減、外来は 1.9％減であった。リハ実施単位数は入院、外来及び訪問の合計において前年度より 7.3％増であった。4 月時点での常勤のリハ専門職の職員数は前年度より 12 名増加した。業務に従事したリハ専門職の延べ出勤日数は前年度より 3.2％増であった。セラピスト 1 人あたりの 1 日あたりの診療実施単位数は前年度より 4.0％増となり、患者 1 人あたりの 1 日あたりの診療実施単位数は前年度より 2.2％増となった。

2022 年度は 2021 年度と同様にセラピストを増員し、急性期の患者 1 人あたりのリハサービスの充実を図る一方、新型コロナウイルス感染症対策を優先し、人的資源を活用する上では非効率ではあるが、病棟専従体制を徹底して運営した。一方、感染対策上の制約がある中でも、より効率的に人的資源を有効活用できるように業務改善を図っていった。

その結果、セラピストの 1 人あたりの診療実施単位数及び患者 1 人あたりの診療実施単位数を増加することができた。

2023 年度は新型コロナウイルス感染症が 5 類感染症へ移行となり、感染対策は継続しつつ、病棟専従体制を原則としながら、人的資源をより効率的に活用するために、各病棟の病床稼働状況に応じて迅速に人員を動かし、患者 1 人あたりのリハサービスを更に充実させていく。

その他、医療サービスの質の向上のため、各種研修（課題別研修、職種別研修、部門研修）を企画・実践することで人材を育成し、その効果を検証することに取り組んでいくとともに、優秀な人材を獲得するためリクルート活動に注力していく。

より質の高い十分なリハ医療サービスを必要とする患者へ漏れなく提供するために、職員にとって魅力ある職場となることを念頭におきつつ、業務のシステムの見直し及び人材育成のための教育・研修体制の充実を図っていく。

［文責：金森毅繁］

【業務実績】　※（　）内の数値は 2021 年度の実績

リハビリテーション実施患者延べ件数（件）

入院	113,410（111,210）
外来	19,758（17,434）
訪問	87（213）

リハビリテーション新規指示患者件数（件）

入院	理学療法	4,710（4,671）
	作業療法	3,064（3,002）
	言語聴覚療法	1,566（1,706）
外来	理学療法	342（371）
	作業療法	315（276）
	言語聴覚療法	140（162）

リハビリテーション実施単位数（単位）

入院	一般病棟	342,157（309,152）
	回復期リハ病棟	153,568（152,018）
	地域包括ケア病棟	30,025（31,716）
	医療療養病棟	45,378（42,344）
外来		60,726（53,250）
訪問		187（448）
計		632,041（588,928）

スタッフ年間延べ出勤日数（人）

入院	一般病棟	23,773（23,101）
	回復期リハ病棟	9,950（10,162）
	地域包括ケア病棟	2,460（2,308）
	医療療養病棟	2,996（2,714）
外来		3,922（3,481）
計		43,100（41,765）

患者１人あたりのリハビリテーション実施単位数（単位／人）

入院	一般病棟	4.9（4.7）
	回復期リハ病棟	8.6（8.6）
	地域包括ケア病棟	2.9（2.7）
	医療療養病棟	3.1（2.6）
外来		3.1（3.1）
訪問		2.1（2.1）
計		4.7（4.6）

その他の業務実績（件）

リハビリテーション総合実施計画書 入院 外来	 6,031（5,793） 3,262（2,454）
退院前訪問指導	48（6）
退院時リハ指導	2,758（2,659）

支援

内　　容	支　援　先	場　所	実　績
セラピスト学校訪問事業	伊奈特別支援学校	伊奈	年5回
	つくば特別支援学校	つくば	年13回
心身障害児を対象とした機能訓練事業	常総市児童デイサービスセンター	常総市	年23回

【学会発表等】

氏　名	演　題　名	学　会　名	開催地・方法	発表種別	開催年月
大野　沙季	利用者の自己有能感を引き出す取り組み～「お仕事隊」について導入過程から振り返る～	全国デイケア研究大会2022in奈良	奈良春日野国際フォーラム甍	口述発表	2022.7.1
知久　慶之	外来心臓リハビリテーションにおける運動耐容能改善に影響する因子の検討	第6回日本循環器理学療法学会学術大会	東京保健医療専門職大学	口述発表	2022.9.4
佐藤　有稀	既往に糖尿病を持つワレンベルグ症候群を呈した患者に対し自主練習の提供を行って経験	第41回関東甲信越ブロック理学療法士学会	日本教育会館一ッ橋ホール	口述発表	2022.9.10
足立　健太	転換性障害と診断された症例への身体領域での外来作業療法の一例	第56回日本作業療法学会	国立京都国際会館	ポスター発表	2022.9.16
岡田　侑香	コロナ禍により制限された臨床実習が卒後の臨床能力に与えた影響	第56回日本作業療法学会	国立京都国際会館	口述発表	2022.9.16
篠﨑　圭佑	新型コロナウイルス流行期に学生だった新人職員の実態調査～新人職員と先輩職員のアンケート調査より～	第56回日本作業療法学会	国立京都国際会館	口述発表	2022.9.17
藤原　祐介	肩関節周囲炎による可動域制限に対し, 肩甲骨と骨盤の組み合わせパターンが有効であった一症例	第21回日本PNF学会学術集会	web 開催	口述発表	2023.1.29
飯島　千晴	背景に高次脳機能障害がある患者の急性期内部障害の作業療法についての一考察	第14回茨城県作業療法学会	web 開催	口述発表	2023.2.12
石井　萌絵	アパシーに対する介入により自発性が向上した一症例	第14回茨城県作業療法学会	web 開催	口述発表	2023.2.12
石川　千咲姫	展望記憶に着目し、外的補助具としてホワイトボードを使用すること で自宅に至った一症例	第14回茨城県作業療法学会	web 開催	口述発表	2023.2.12
来栖　郁音	プロンプトフェイディング法に称賛を併用した事で ADL 向上を認めた事例	第14回茨城県作業療法学会	web 開催	口述発表	2023.2.12
中振　歩美	急性期から一貫して誤りあり学習での実動作練習を行った作業療法の関わり	第14回茨城県作業療法学会	web 開催	口述発表	2023.2.12
根木　彩花	左手使用管理表にて麻痺側上肢の使用頻度増加を認めた一症例	第14回茨城県作業療法学会	web 開催	口述発表	2023.2.12
大谷　樹生	日記で活動性の向上を認めた症例を経験して～意味のある作業の提供とその効果に～	つくば地域リハ・セミナー第32回症例検討会	web 開催	口述発表	2023.3.14
小川　未紗	視覚的な認識の促しと誤りなし学習での反復練習によって更衣動作の獲得に至った一症例	つくば地域リハ・セミナー第32回症例検討会	web 開催	口述発表	2023.3.14
柏木　喜男	化膿性脊椎炎で入院し小脳梗塞を併発した症例～小脳梗塞により長期にわたり嘔吐を呈した症例～	つくば地域リハ・セミナー第32回症例検討会	web 開催	口述発表	2023.3.14
来田　圭那	栄養士と連携し負荷量を調整したことで, 食事量、離床時間の改善に繋がった症例	つくば地域リハ・セミナー第32回症例検討会	web 開催	口述発表	2023.3.14
北島　実和	脳梗塞により片麻痺を呈した症例に対し、麻痺側荷重に着目したアプローチを行い起立・歩行能力が向上した一症例	つくば地域リハ・セミナー第32回症例検討会	web 開催	口述発表	2023.3.14
古賀　達也	BESTest を使用して具体的な再転倒予防を指導できた症例	つくば地域リハ・セミナー第32回症例検討会	web 開催	口述発表	2023.3.14

篠﨑　美咲	運動麻痺増悪を認め重度上肢運動麻痺を呈した事例に対し、補助手機能獲得を目指した関わり	つくば地域リハ・セミナー第32回症例検討会	web 開催	口述発表	2023.3.14
高橋　真生	くも膜下出血により感覚障害を呈した患者に対し、運動学習により独歩を獲得した症例を経験して	つくば地域リハ・セミナー第32回症例検討会	web 開催	口述発表	2023.3.14
長屋　琴巳	自助具の工夫により、食事での疲労軽減に至った事例	つくば地域リハ・セミナー第32回症例検討会	web 開催	口述発表	2023.3.14
西崎　まゆ	小脳梗塞に伴う嘔気・嘔吐により離床が進まず ADL の獲得に難渋した一事例	つくば地域リハ・セミナー第32回症例検討会	web 開催	口述発表	2023.3.14
初鳥　睦乃	終末期の膵臓がんを呈し、状態変化に合わせたプログラムを遂行することにより QOL の向上を目指した症例	つくば地域リハ・セミナー第32回症例検討会	web 開催	口述発表	2023.3.14
松栄　萌花	聴覚刺激の減少後に覚醒不良となった難聴の患者に対し、聴覚を用いた刺激入力を継続したことによって覚醒を改善させ、基本動作能力と ADL 能力の向上を目指した一例	つくば地域リハ・セミナー第32回症例検討会	web 開催	口述発表	2023.3.14
宮島　あゆみ	上肢切断による自信喪失に対し、装具使用で自己効力感の向上を認めた事例	つくば地域リハ・セミナー第32回症例検討会	web 開催	口述発表	2023.3.14
柳下　璃歌	重度記憶障害を呈した事例に対する介入 - メモリーノートの導入に向けた関わり -	つくば地域リハ・セミナー第32回症例検討会	web 開催	口述発表	2023.3.14

【講師】

氏　名	テーマ	講演会名	会　場　名	講演日
金森　毅繁	療養担当規則	令和4年度茨城県若手リハ専門職卒後研修	アダストリアみとアリーナ	2022.6.21
金森　毅繁	臨床現場指導者からみた臨床実習教育について	令和4年度 特別講師 理学療法セミナーⅡ、臨床実習Ⅱ	つくば国際大学	2022.7.14
山口　愛	臨床実習指導者講習会	令和4年度第1回茨城県臨床実習指導者講習会	web 開催	2022.9.3
山倉　敏之	演習 6-2 事例報告書の作成、演習補助	令和4年度第1回茨城県臨床実習指導者講習会	web 開催	2022.9.3
山口　愛	臨床実習指導者講習会	令和4年度第1回茨城県臨床実習指導者講習会	web 開催	2022.9.4
藤原　祐介	臨床実習指導者講習会	令和4年度第1、2回臨床実習指導者講習会	web 開催（配信会場：茨城県立医療大学）	2022.10.15
藤原　祐介	臨床実習指導者講習会	令和4年度第1、2回臨床実習指導者講習会	web 開催（配信会場：茨城県立医療大学）	2022.12.10
山口　愛	臨床実習指導者講習会	令和4年度第2回茨城県臨床実習指導者講習会	web 開催	2023.2.4
山倉　敏之	演習 6-2 事例報告書の作成、演習補助	令和4年度第2回茨城県臨床実習指導者講習会	web 開催	2023.2.4
山口　愛	臨床実習指導者講習会	令和4年度第2回茨城県臨床実習指導者講習会	web 開催	2023.2.5
矢田部　隼	呼吸器リハビリの基礎と臨床上のポイント	第12回つくば市理学療法士会オンライン勉強会	web 開催	2023.2.23

【座長】

氏　名	セッション名	学　会　名	会　場　名	発表日
平澤　亮介	臨床のモヤモヤを解決！多職種の対談から学ぶ、チーム連携の道しるべ	日本離床学会 第12回 全国研修会・学術大会	web 開催	2022.7.30
椎名　勇人	ADL	リハビリテーション・ケア合同研究大会 苫小牧 2022	グランドホテルニュー王子・苫小牧市民会館・苫小牧市文化会館	2022.9.30
山口　愛	通所リハビリ	リハビリテーション・ケア合同研究大会　苫小牧2022	web 開催	2022.9.30
高橋　広樹	一般演題（口述）チームアプローチ②	リハビリテーション・ケア合同研究大会　苫小牧2022	グランドホテルニュー王子	2022.10.1
山口　愛	症例検討（症例提示）	令和4年度　つくば市地域ケア会議（大穂・豊里地区）	web 開催	2022.10.21
平澤　亮介	もうだまされないフィジカルアセスメント～検査値が示すウソをこう見抜け～	日本離床学会 離床祭2023	web 開催	2023.1.8
古賀　達也	つくばブロック症例検討会	つくばブロック症例検討会	web 開催	2023.1.26
柵山　真地子	午前の部	茨城県言語聴覚士会 つくば土浦地域症例検討会	web 開催	2023.3.19

【論文】

氏名	共同著者	タイトル	雑誌名	巻	pp	pp2	論文種類
古賀　達也	藤原祐介、飯塚陽、金森毅繁	当院における脳内出血患者の早期離床に関する現状調査	理学療法いばらき	26	1	5	学術誌
山倉　敏之		当院の新人教育体制および管理職からみた育成方法について	精神科オキュペイショナルセラピー	39	136	150	機関紙

臨 床 検 査 部

【総括】

1．2022 年度の実績報告

当院の臨床検査部は、生理検査部門（常勤 17 名 + 非常勤２名）、健診部門（常勤６名 + 非常勤３名）、輸血検査部門（常勤３名）、病理・細胞診検査部門（常勤３名）、検体検査部門（常勤 12 名 + 非常勤事務１名）の５部門に分かれている。但し、検体検査部門は委託しているため、当院の人員には含まれない。年度初めに院内委託責任者の交代があった。また今年度は生理検査部門の常勤１名が退職となった。

2．業務実績

各部門の業務実績は、新型コロナ流行期ではあるものの、大部分の検査項目において昨年度よりも増加した。

生理検査部門では、患者への利便性の観点から、睡眠時無呼吸精密検査を在宅検査とした。導入初年度の実績は 60 件であった。心臓超音波検査は年間初の 6,000 件台となった。静脈超音波検査も前年比 124％と増加した。呼吸機能検査は新型コロナウイルスの感染対策もあり、前年度比 40％減少となった。

輸血検査部門は、専任の検査技師３名を補うために生理検査部門の技師１名を輸血業務に配属し兼務出来るようにした。今年度の血液製剤の廃棄率は過去最良となった。

病理・細胞診部門では、検査実績は微増ながら毎年増加している。液状化細胞診を行うことにより、効率的な業務を行うことが出来た。また、システム化により報告書の既読管理を行っているが、毎月ほぼ 100％に近い実績を残せた。

検体検査部門では、今年度は院内検査の新規検査項目の申請があり、院内で NT-proBNP の実施が可能となった。また、高感度トロポニン T の院内実施も申請があり、来年度に導入予定である。年度末には、検査部門システムや一部の分析器の更新がされた。

新型コロナに関する検査は、職員や入院患者、緊急入院患者には救急外来と検査室に配置された遺伝子増幅検査機で迅速対応した。また、12 月から発熱外来ではコロナウイルスとインフルエンザウイルス AB が同時検出可能な抗原キットを使用開始した。感染対策チームと相談の上、適宜検査体制の変更を行った。毎年実施している日本医師会、日本臨床検査技師会の外部精度管理の結果は良好であった。

3．教育実績

今年度は、新卒者１名が入職した。新人教育カリキュラムに従いトレーニングを行った。

月１回の部内ミーティングで勉強会を実施している。年度末の部内発表会は９年目となった。各専門チームから７題の演題があった。

専門領域の認定資格は、今年度の新規取得はなかった。

［文責：大森美恵子］

【業務実績】

生理検査件数（筑波記念病院、筑波総合クリニック）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	月平均	前年度合計	前年度月平均
ECG	1,225	1,112	1,312	1,201	1,067	1,151	1,279	1,098	1,069	1,037	1,013	1,257	13,821	1,151	13,671	1,139
24ECG	151	126	141	79	77	131	137	124	88	109	103	120	1,446	121	1,317	110
TET	0	0	0	2	2	0	1	1	1	0	0	1	8	0.7	4	0.3
UCG	558	505	552	467	457	475	571	515	482	448	464	546	6,111	509	5,965	497
下肢エコー	114	95	102	115	127	129	121	106	109	105	114	128	1,365	114	1,324	110
頚動脈エコー	5	4	9	8	3	6	6	8	9	6	2	5	71	6	54	5
肺活量	58	82	90	79	71	74	77	83	64	97	87	97	959	80	1,576	131
脳波	23	19	13	17	32	26	27	22	16	14	18	25	252	21	264	22
ABI	96	114	123	113	104	108	114	98	85	120	84	105	1,265	105	1,253	104
伝速	13	18	20	22	27	20	13	18	16	17	14	10	208	17	156	13
術中MEP･ABR	2	3	1	4	8	3	3	4	7	6	3	1	45	4	54	5
OCST	32	30	39	21	39	33	31	26	25	20	22	27	345	29	383	32
PSG	7	4	5	12	8	3	6	5	4	4	1	6	65	5	35	3
呼気 NO	13	19	29	17	24	28	30	48	29	39	38	32	346	29	273	23
UBT	28	21	33	28	32	35	39	29	34	39	32	29	379	32	396	33
CGM	3	4	3	1	2	7	1	4	3	3	4	1	36	3	57	5
純音聴力	236	250	255	218	224	215	235	212	230	178	215	275	2,743	229	2,788	232

■は 2021 年度より増加した検査項目

病理・細胞診検査件数（筑波記念病院、筑波総合クリニック）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	月平均	前年度合計	前年度月平均
病理	297	308	377	342	312	329	320	353	314	318	317	364	3,951	329	3,883	324
細胞診※	686	753	1,127	1,110	1,084	1,134	1,058	1,049	1,078	909	928	924	11,840	987	11,746	979
骨髄穿刺	32	27	42	24	21	21	24	31	23	37	22	29	333	28	269	22

※つくばトータルヘルスプラザのドック・健診件数を含む

■は 2021 年度より増加した検査項目

【学会・講演・セミナー等】

発　表　者	演　題　名	学会・会合名	開　催　地	開催年月
和田　英明	超音波検査が思わぬ脈管疾患の診断に繋がった症例	第50回　日本血管外科学会	北九州市	2022.5
和田　英明	当院における下肢静脈瘤患者での睡眠時無呼吸症候群有病率の検討	第63回　日本脈管学会総会	横浜市	2022.10

臨 床 工 学 課

【総括】

1．2022 年度の実績報告

昨年度から緊急対応件数の増加に伴い緊急業務に従事するためのスタッフの育成に重点を置き、オンコール待機人数を２名体制としている。そのため緊急の心臓外科手術や心臓カテーテル治療に余裕をもって対応することができスタッフへの負担も軽減することができている。

人工心肺部門においては技術認定資格を保持するスタッフも増え、人工心肺業務に係わるスタッフの教育も進んで今後も心臓外科領域において専門的な技術提供ができるようになった。

医療機器の更新は概ね計画通りの更新が行えた。また中央管理における医療機器の運用も安定して行えている。

技術提供でここに挙げてあるものは手術室・心カテ室などにおける手術・治療・検査である。今年度は新型コロナウイルスの影響は落ち着いており例年と同等の件数に戻りつつある。

人工心肺の件数は昨年度と比して減少しているが、緊急症例の増加に伴い夜間の緊急対応件数は増えた。また、大動脈ステントの件数は昨年度と比して減少した。心臓カテーテル治療の件数は昨年度と比して増加傾向であった。またアブレーション件数も増加した。整形外科領域で使用する自己血回収は昨年度と比して変わりはなかった。

生命維持管理装置では人工呼吸器の管理日数は昨年度と比して変わりはなかった。新型コロナウイルスの影響により減少していた非侵襲的陽圧換気療法（NPPV）の使用も管理体制が整ったこともあり使用件数は例年並みとなった。

血液浄化業務では、昨年度と比して血液透析（HD）、持続緩徐式血液濾過透析（CHDF）共に増加した。維持透析患者の症例増加や、心臓外科手術・心臓カテーテル治療の緊急手術などで重症患者が増加したためと思われる。

ペースメーカー・ICD などの植込みデバイスに関しては昨年と比して同程度の件数であった。また遠隔外来検査に対応しているデバイスの患者数が増加していることから検査件数は増加した。

医療機器定期点検の件数では昨年度と比して若干の増加であった。これは病棟全体での使用頻度や重症度の増加に伴い稼働率が上がったことと、新型コロナウイルス対策による機器の増設が影響している。

2．2023 年度の課題・目標

今後の救急医療の観点から迅速に対応できる体制を構築する必要がある為、当直体制の導入の検討を行う。

病棟での患者監視装置やインフュージョンポンプなどの使用頻度が増加し各機器の稼働率が上昇したため、機器が不足しないよう各病棟の使用頻度や重症度を考慮しそれぞれの病棟への医療機器貸出しを効率よく運用して管理していく。

各病棟で使用される医療機器を中心とした勉強会を開催し、使用する医療機器の安全管理に努めていく。

各々が全ての業務を遂行できることを目標とし、また、施設基準に必要な各種資格を取得できるように学会や講習などに積極的に参加し、必要な技術や知識の習得に取り組んでいく。

［文責：助川　節］

【業務実績】

技術提供

	2021 年度	2022 年度
人工心肺	81 件	54 件
大動脈ステント	60 件	40 件
自己血回収	152 件	124 件
心臓カテーテル検査	422 件	436 件
緊急心カテ※	56 件	66 件
ＰＣＩ※	172 件	204 件
緊急ＰＣＩ※	40 件	38 件
アブレーション	49 件	62 件
植込みデバイス	51 件	47 件
末梢血幹細胞採取	4 件	9 件

※ PCI は心臓カテーテル検査に含む
※緊急は上位項目に含む

生命維持管理装置管理実績

	2021 年度	2022 年度
IABP	12 件 /56 日	23 件 /142 日
PCPS（ECMO を含む）	12 件 /61 日	4 件 /18 日
人工呼吸器	4,176 日	4,098 日
植込みデバイス	1,417 件	1,846 件
血液透析	66 件	184 件
持続緩徐式血液濾過透析	164 件	173 件
血液浄化	2 件	11 件

※日数は延べ日数

医療機器点検

	2021 年度	2022 年度
シリンジポンプ	256 件	250 件
輸液ポンプ	432 件	442 件
除細動装置	4,380 件	5,436 件
人工透析装置	568 件	604 件
患者監視装置	11,820 件	13,856 件

※件数は延べ台数

栄養管理課

【総括】

1．2022 年度の実績報告

（ア）体制

栄養管理課では、管理栄養士 12 名（病院 10 名、クリニック 1 名、老健 1 名）と栄養士 1 名（事務）の計 13 名、役職者として主任 1 名、副主任 1 名の体制でスタートした。

2022 年 4 月、8 月にそれぞれ管理栄養士 1 名ずつが育児休暇から復帰した。2022 年度の産前・育児休暇取得者は 1 名であり（11 月 1 名）、退職者は 1 名（6 月 1 名）だった。2023 年度は 4 月に管理栄養士 2 名が入職予定である。

日本栄養士会で策定された【病院管理栄養士ビジョン - 概念図】では、栄養部門のあるべき姿として、部門長 1 名、教育担当者 1 名、給食管理業務統括 1 名、地域栄養ケアステーション担当者 1 名、外来栄養指導担当者 1 ～ 2 名、そして 50 床（1 病棟）に管理栄養士 1 名の常駐を掲げている。当課では今年度も部門体制の強化に努めた。

（イ）業務

［給食管理］

大きな事故もなく継続した食事提供ができ、例年と変わらない収益を計上している。

今後も患者の声や検食簿のご意見を反映しながら、指示栄養量である約束食事箋に違えることがないように安定した給食提供ができるように努めていく。

［栄養管理］

栄養食事指導の延べ件数は、前年度より入院時指導は 0.2％増、外来時指導は 3.9％増であった。

栄養サポートチーム（Nutrition Support Team: 以下 NST）延べ件数は、前年度より総回診件数は 3.8％増、加算件数は 8.3％増であった。

令和 4 年の診療報酬改定において、ICU 早期栄養介入管理加算に更なる評価が追加され、ICU 入室後 48 時間以内に経腸栄養を開始せずとも算定が可能となった（250 点／日／7 日限度）。これによって収益は倍になった。

昨年度はついに栄養管理による収益が給食管理による収益を上回った。【病院管理栄養士ビジョン - 概念図】に添って部門体制の強化に努めた一つの結果であると考える。

2．2023 年度の目標

人事的、能力的に安定した栄養管理体制を築いて患者栄養サポート業務を継続していく。具体的には、診療報酬を改定された際にも素質、能力、資格的な部分において即座に着手できる管理栄養士の教育・研修体制を整えていく。リハビリテーションと共に患者治療の根管となる栄養管理を強化することで患者治療成績の底上げに貢献し、ひいては病院経営に寄与していく。

［文責：松浦史生］

【業務実績】

病院

・給食管理

	食事療養費	生活療養費	特別食加算	計
2018 年度	¥188,918,180	¥40,237,462	¥13,532,636	¥242,688,278
2019 年度	¥194,573,755	¥45,179,470	¥13,534,232	¥253,287,457
2020 年度	¥173,601,220	¥41,317,630	¥10,481,008	¥225,399,858
2021 年度	¥177,368,380	¥46,114,702	¥11,724,976	¥235,208,058
2022 年度	¥182,931,465	¥45,816,592	¥12,314,204	¥241,062,261

・栄養管理

	栄養食事指導料（入院）	NST 加算	入院料基本料差額（回復期）	早期栄養介入（ICU）	計
2018 年度	¥3,184,400	¥1,050,000	¥10,992,384	−	¥15,226,784
2019 年度	¥2,746,800	¥2,562,000	¥10,980,216	−	¥16,289,016
2020 年度	¥2,492,620	¥2,776,000	¥10,397,788	¥1,360,000	¥17,026,408
2021 年度	¥2,809,800	¥8,464,000	¥10,423,296	¥1,832,000	¥23,529,096
2022 年度	¥2,891,200	¥10,176,000	¥11,044,706	¥3,657,000	¥27,768,906

筑波総合クリニック

	栄養食事指導料（外来）
2018 年度	¥2,093,000
2019 年度	¥1,841,400
2020 年度	¥1,626,280
2021 年度	¥1,678,000
2022 年度	¥1,718,280

資格取得状況

認定資格等	人数	前年度増減
静脈経腸栄養（TNT-D）管理栄養士	4	− 1
栄養サポートチーム専任条件修了者	7	
栄養サポートチーム専門療法士	2	＋ 1

（2023 年 3 月 31 日現在）

実習受け入れ実績

月	学校名	人数	実習領域
6	東京医療保健大学	3	臨地実習Ⅲ
9、10	常磐大学	2	
8、10	茨城キリスト教大学	4	

【書　籍】

氏　　名	雑　誌　名	担当項目	出　版　社	巻(号)	ページ	発行年月
矢部義人	Nutrition Care	改革★わたしの施設の給食管理	メディカ出版	Vol.15, No.5	22-29	2022.5.1
矢部義人、他	月刊糖尿病 ® DIABETES®	糖尿病患者の心・腎・肝を診る 11 のポイント⑨　非肥満脂肪肝へのアプローチ	医学出版	#143, Vol.14, No.3	64-71	2022.6.9

【学会・講演・セミナー等】

発　表　者	演　題　名	学会・会合名	開　催　地	開催年月
矢部義人、他	肥満のない Non-Alcoholic Fatty Liver Disease（NAFLD）における食事，運動習慣の調査	第37回 日本臨床栄養代謝学会	横浜	2022.6.1
藤本亮	当院 NST の取り組み	第3回TMAC	つくば	2022.8.26
矢部義人、他	非肥満 NAFLD 患者の食事・運動習慣の調査	第26回 日本肝臓学会大会（JDDW2022）	福岡	2022.10.27-30
松浦史生、矢部義人、藤本亮、櫻田陽太、小澤亮太	当院における診療報酬改定に対する取組みと多職種連携について	第62会 栄養サポート研究会	日立市	2022.11.17

医 療 相 談 室

【総括】

1．2022 年度の実績報告

2022 年度の医療相談室は、４月に退院支援看護師の管理者として師長が１名配属され、社会福祉士も１名新規採用し、合計 13 名で相談業務に従事した。医療相談室の業務としては、退院支援を占める割合が高いが、退院支援を行う中で社会的、心理的、経済的課題に対してもアプローチすることになる。そのため、退院支援看護師と社会福祉士が協同して相談支援を行っており、相談機能の多職種一体運用によるシームレスな患者支援体制を整えている。

入退院支援加算については、前年度より約 200 件増加しており、今年度目標としていた年間 1,500 件を達成した。介護支援等連携指導については、感染症対策により他施設・他機関との連携件数が減少していたが、今年度は積極的に退院前カンファレンスを開催し、コロナ前の件数まで回復している。

回復期リハビリテーション病棟、地域包括ケア病棟への転院相談件数は、前年度より増加しており在宅医療を支える当院の役割が地域に定着してきていると考えられる。

2．2023 年度の課題

幅広い相談に対応できるよう、各病棟に退院支援看護師と社会福祉士が各病棟２名体制で相談業務を行えるようにしたい。また、入院前からの早期介入に取り組むため、外来部門にも相談員の配置ができるとより効果的と考えている。業務に見合った人員配置を検討していく。

退院支援業務は多職種で行うものであり、病棟看護師が退院後の生活を見据え、継続する医療・看護を療養環境に合わせた調整ができるよう、退院支援看護師が積極的に研修・教育の分野にも尽力していきたい。

［ 文責：萩谷久枝 ］

【業務実績】

MSW・退院支援看護師介入による退院者数

総　数		1,624
内　訳	自　宅	882
	施　設	380
	転　院	182
	死　亡	180

入退院支援加算

総　数		1,502
内　訳	急性期	953
	回復期	168
	地域包括	319
	療　養	62

相談件数

総　数		15,142
内　訳	退院支援	14,135
	転院相談	720
	患者サポート	526

入院依頼数

		総　数	受　入	断　り	キャンセル
総　数		449	160	81	208
内　訳	回復期	255	51	51	153
	地域包括	162	103	11	48
	療養	32	6	19	7

臨　床　心　理

【総括】

1．2022 年度の実績報告

2022 年度は常勤臨床心理士（公認心理師）2 名と資格取得見込みの常勤職員 2 名での運営となった。業務内容は昨年度同様、心理検査業務・カウンセリング業務・メンタルヘルス業務が中心であった。当科はこれまで即戦力を求めていたため経験者のみの採用であったが、今年度初めて新卒の職員を 2 名迎え、通常の業務をこなしながら OJT を行い、新入職員を育てるという初の取り組みを実践した。資格取得見込みの職員は 2 名とも臨床心理士・公認心理師の資格を取得し、従事できる業務の幅が広がった。

心理検査業務は全実施件数が 2021 年度実施総数の 120％の実施数を達成した。病院・クリニックからの心理検査実施数に限って言えば前年度比 156％の実施数となった。内訳の内容は前年度と比較すると大きな変化はないが、実施数の増加の背景としては特に ADAS-Jcog の実施数が前年度比 270％、長谷川式知能評価スケール、MMSE の実施数が前年度比 180％となり、新入職員が入職したことによりクリニック外来での検査依頼にコンスタントに対応できるようになったことが大きいと思われた。ここ数年の傾向と同様、小児科依頼の知能検査・発達検査の実施数の増加は今年度も引き続き見られており、WISC-Ⅳ知能検査は前年度比 126％の実施数となった。読み書きスクリーニング検査ならびに算数障害の評価は少ない数ではあるものの前年度に比べ実施数が伸びており、この傾向は今後も続くと推測される。成人対象の検査は知能検査の実施数が増えた一方、人格検査は減少する結果となった。前年度までに拡充した検査の種類は今年度も維持されており、依頼元も引き続き精神科、小児科、もの忘れ科、脳外科、神経内科など幅広い科から依頼される結果となった。

カウンセリング業務は昨年度に比べ実施数は 2.3 倍となった。新規来談者数も 1.6 倍とやや増加が見られた。これまで以上に継続して支援を要する相談者の来談が増えたためと思われる。今年度も病棟からの依頼は見られなかった。

メンタルヘルス業務は個別での相談対応と研修実施数はやや減少したが、今年度初めて取り組みとして、看護部の依頼で新入職員全員へのストレスチェックと個別面談の実施、医療安全衛生委員会の依頼で後期研修でメンタルヘルスと医療安全について発表することとなった。新入職員との面談は 1 名 10 分の実施時間で目的としては心理士との顔合わせがメインであったが、必要に応じて部へのフィードバックを実施し個別のニードに応じた動きを取ることができた。その後も看護部内で実施したストレスチェックの結果を元にコンサルテーションを適宜実施した

2．2023 年度の課題・目標

2023 年度の課題は現在の体制を維持し、業務の精度を上げると共に効率化と適時適切な業務遂行の両立を目標とする。各自が知識を深め、実践できる幅をさらに広げていくことを課題としたい。当科の業務は自身の心身の健康を維持することも重要な要素と考えられるため、所属職員に対してはセルフケアの積極的な取り組みを促進していきたい。

［ 文責：高橋晶子 ］

【業務実績】

心理検査

	検査内容		
病院・クリニック	発達及び知能検査	WAIS- Ⅲ成人知能検査	5
		WAIS- Ⅳ成人知能検査	5
		WISC- Ⅳ知能検査	134
		田中ビネー知能検査 V	3
		新版 K 式発達検査 2001	61
		新版 K 式発達検査 2020	4
		JART	1
	人格検査	ロールシャッハテスト	1
		描画テスト（バウムテスト）	1
	認知機能検査 その他の心理検査	ADAS	227
		WMS-R	6
		RBMT	1
		K-ABC Ⅱ	1
		BADS	1
		AQ	1
		長谷川式知能評価スケール	25
		MMSE	25
		FAB	5
		Moca-J	4
		かなひろいテスト	9
		読み書きスクリーニング検査	44
		算数障害の評価	4
		小計	568
THP	神経心理検査	小計	408
		合計	976

カウンセリング

THP	初回	16
	継続	137
	合計	153

メンタルヘルス

相談対応	初回	9
	継続	8
	小計	17
その他	研修会	2
	コンサルテーション（研修会打ち合わせ、電話対応など）	13
	後期医療安全研修	1
	看護部新入職員個別面談	41
	小計	57
	合計	70

院内研修

講　　師	研修名（依頼元）	開催年月
高橋晶子	『メンタルヘルスについて』（新入職員研修：総務課）	2022.4
高橋晶子	『メンタルヘルスについて』（新入職員研修：看護部）	2022.4

地域医療連携部

【総括】

2022年度は新型コロナ感染症の影響が少なくなり、紹介患者数や外来患者数などはコロナ前の状態に戻っている傾向であった。筑波記念病院の紹介受診数が合計2,531件となり、地域医療支援病院の届出以降において、最高値を更新した。地域医療連携公開講座については、「Tsukuba Memorial Hospital Medical Alliance Conferrence」通称TMACとして親しまれるように名称をつけた。新型コロナ感染の対策として、オンライン講演会を基本の想定とし、音響、映像の機器を充実させ、オンライン配信を可能な環境を構築した。対面の開催では参加できない、遠方の医療機関からの参加者の増加につながり、改めてオンライン講演会のメリットを実感することとなった。2022年度は10名の登録医が追加となった。

来年度も引き続き、業務改善、登録医増加、紹介数増加はもちろん、返書の管理に注力していく。

［文責：川嶋慎也］

【業務実績】

地域医療支援病院 紹介率（%）

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	月平均
53.9	78.9	84.6	84.0	77.1	86.6	90.1	85.3	85.6	85.7	90.8	90.1	82.7

地域医療支援病院 逆紹介率（%）

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	月平均
38.9	70.7	43.4	67.3	74.8	57.0	74.8	67.6	62.6	90.8	72.3	82.3	66.9

紹介患者数（筑波記念病院）

（病院）	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年合計	月平均
初診紹介数	139	141	191	167	133	166	175	144	175	152	169	152	1,904	159
（外　来）	77	74	116	102	77	106	107	93	99	88	106	95	1,140	95
（入　院）	62	67	75	65	56	60	68	51	76	64	63	57	764	64
再診紹介数	44	58	66	60	43	58	46	47	47	61	48	49	627	52
（外　来）	16	28	31	36	19	31	23	24	34	30	25	23	320	27
（入　院）	28	30	35	24	24	27	23	23	13	31	23	26	307	26
紹介状総数	183	199	257	227	176	224	221	191	222	213	217	201	2,531	211

逆紹介算定数（筑波記念病院）

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年合計	月平均
202	226	219	244	215	234	268	240	259	256	287	254	2,904	242.0

【当院登録医医療機関一覧】

つくば市医師会（順不同）

倉田内科クリニック	寺崎クリニック	仁愛内科医院
ホームオンクリニックつくば	川井クリニック	高田整形外科
宮本内科クリニック	清水こどもクリニック	大見クリニック
中川医院	ほりかわクリニック	小倉医院
酒寄医院	東郷医院	広瀬クリニック
飯村医院	岡野整形外科・内科クリニック	北條医院
江原こどもクリニック	高田眼科	根本クリニック
成島クリニック	小田内科クリニック	緑クリニック医院
広瀬医院	渋谷クリニック	木村クリニック
菊池内科クリニック	あおやぎ医院	天貝整形外科クリニック
大野医院	南大通りクリニック	つくばシティアビル皮フ科
二の宮越智クリニック	かつらぎクリニック	みなのクリニック内科呼吸器科
池野医院	つくばセンタークリニック	研究学園クリニック
つくば在宅クリニック	竹園ファミリークリニック	コミュニティクリニック・つくば
つくばねむりとこころのクリニック	のぐち内科クリニック	樫村内科消化器科クリニック
宮川内科・胃腸科医院	つくばシティア内科クリニック	長沢眼科
こだま在宅クリニック	みらい平クリニック	林医院
ヒルトップクリニック	坂根Mクリニック	うえの整形外科
ひがし外科内科医院	あつしクリニック	柴原医院
杉谷メディカルクリニック	ありま皮膚科クリニック	太田医院
なかざわクリニック	ふなやま内科クリニック	岡本医院
大穂皮膚科クリニック	いしかわ耳鼻咽喉科クリニック	のむら耳鼻咽喉科クリニック
耳鼻咽喉科　学園の森クリニック	さとうクリニック（つくば）	つくばシティアすえひろ眼科
鈴木医院	飯岡医院	研究学園いいむら耳鼻咽喉科
飯田医院	すぎやま内科皮フ科クリニック	つくばフラワー耳鼻咽喉科
ちかつクリニック	青空ホームクリニック	せせらぎ在宅クリニック
さくら内科・呼吸器内科クリニック	清宮眼科皮膚科	サンシャイン・クリニック
おいかわ腎泌尿器クリニック	つくばすずらん皮膚科クリニック	つくば白亜クリニック
小池医院	つくばシティアビル整形外科	紫峰の森クリニック
ユーカリ医院	渡辺医院（つくば市）	谷田部診療所
つくば辻クリニック	ユークリニック	こまつ内科クリニック
並木内科クリニック	沼尻整形外科・胃腸科	きくち呼吸器内科クリニック
竹園眼科	おがわ内科	耳鼻咽喉科　大橋医院
竹園皮膚科医院	楓クリニック	ひろせ内科消化器クリニック
MED AGRI CLINIC つくば	つくば腎クリニック	つくば脳神経外科・頭痛クリニック
おおつか内科クリニック	ありたクリニック	中山耳鼻咽喉科医院
むらした内科クリニック	つくば公園前ファミリークリニック	つくばウロケアクリニック
B-leaf　メディカル内科リハビリテーションクリニック	つくば心臓血管内科　メイクリニック	つくば村井整形外科クリニック
さくま皮フ科クリニック		

真壁医師会（順不同）

落合医院	仁保内科医院	宮本医院
古橋医院	菊山胃腸科外科医院	下條整形外科
坂入医院	砂沼湖畔クリニック	中山医院（下妻）
松岡整形外科	明野中央医院	かくらいクリニック
横瀬医院（筑西市）	三津山クリニック	田崎内科医院
秀村医院	古橋耳鼻咽喉科医院	なかはら整形外科医院

根本医院	大塚医院	つくし野クリニック
とやまクリニック	渡邉クリニック（下妻市）	菊山医院
阿部田医院	ごとうクリニック	山口医院（筑西）
長倉内科・外科クリニック	飯田医院（筑西市）	野中医院
浅田医院	あけの元気館前クリニック	ひろせ内科クリニック
下館胃腸科医院	しもだて中央クリニック	直江医院
さいとう整形外科	おおもりクリニック	のかおい整形外科
筑西いけだクリニック	すわクリニック	玉野医院
とみざわハートクリニック	佐々木整形外科	新井内科医院
遠藤産婦人科医院	さとうクリニック（筑西）	介護老人保健施設マカベシルバートピア
筑西診療所	上の原病院	かわごえクリニック
中岫産婦人科医院	河上医院	

きぬ医師会（順不同）

しば医院	常総メディカル	耳鼻咽喉科　染野クリニック
荒川医院	横瀬医院（常総市）	大塚クリニック（常総市）
いとう医院	鈴木内科整形外科医院	中島医科歯科クリニック
桜橋クリニック	高橋医院	寺田医院
植竹医院	存身堂医院	岩本医院
石塚医院	松﨑医院	天王前クリニック
海老原医院	安達医院	須澤内科糖尿病医院

（2022 年 3 月 31 日現在）

委　　員　　会

病院運営管理会議

Ⅰ．目的及び機能

病院事業の施策、計画及び運営に関することについて協議、検討を行う。また、医療安全・感染対策・医師研修等の確保と推進を図ることを目的とし、それらに係る委員会を統括する。

Ⅱ．構成員

◎議長：長澤　俊郎

部　　門	人　　数	部　　門	人　　数
診療部	12	リハビリテーション部	1
看護部	1	本部・事務部	5
薬剤部	1		

Ⅲ．会議　開催回数

９回

Ⅳ．協議事項

・医療安全管理委員会、医療安全対策チーム部会の報告
・感染対策管理委員会、感染症対策チーム部会の報告
・臨床研修管理委員会の報告
・病院機能改善管理委員会の報告
・その他　各チーム部会からの懸案事項の検討

［文責：長澤俊郎］

医療安全管理委員会

Ⅰ．目的及び機能

筑波記念病院病院長の諮問に基づき設置され、医療安全管理に係わる問題点や緊急的検討事項などの政策を管理者に答申し、意思決定を行い、医療安全体制の確保および推進を図ることを目的とする。

Ⅱ．構成員

◎委員長：池澤　和人

部　　門	人　　数	部　　門	人　　数
診療部	3	薬剤部	1
医療安全管理室	1	臨床工学課	1
感染管理室	1	本部・事務部	1
看護部	1		

Ⅲ．委員会　開催回数

12 回　（8 月、11 月、12 月は書面開催）

Ⅳ．委員会　協議事項

2022.4.27	2021 年度目標評価報告 指針および各規約について承認を得た
2022.5.25	4 月のインシデント・アクシデント報告
2022.6.29	5 月のインシデント・アクシデント報告 「報告書確認チーム」が新設されたため、組織図への追加について承認を得た。
2022.7.27	6 月のインシデント・アクシデント報告 同意書の代筆についてマニュアルを一部改訂した。 2022 年度前期医療安全管理研修結果報告（参加率 97.9%）
2022.8.31 （書面開催）	7 月のインシデント・アクシデント報告
2022.9.28	8 月のインシデント・アクシデント報告
2022.10.26	9 月のインシデント・アクシデント報告
2022.11.30 （書面開催）	10 月のインシデント・アクシデント報告
2022.12.28 （書面開催）	11 月のインシデント・アクシデント報告
2023.1.25	12 月のインシデント・アクシデント報告
2023.2.22	1 月のインシデント・アクシデント報告 退院 24 時間以内の再入院の報告基準を策定した
2023.3.29	2 月のインシデント・アクシデント報告 次年度の目標と年間計画報告 2022 年度後期医療安全管理研修結果報告（参加率 96.1%）

［文責：池澤和人］

医療安全対策チーム

Ⅰ．目的及び機能

医療安全管理委員会の総括のもと、各部署で発生した問題事象の報告および、現場に即したより実効性のある医療安全対策が実施できる体制の整備に努め、情報共有することで再発防止を図ることを目的とする。

Ⅱ．構成員

◎委員長：池澤　和人

部　　門	人　　数	部　　門	人　　数
診療部	2	臨床工学課	1
医療安全管理室	1	栄養管理課	1
感染管理室	1	医療相談室	1
看護部	15	本部・事務部	1
薬剤部	1	つくばトータルヘルスプラザ	1
放射線部	1	筑波総合クリニック	3
リハビリテーション部	6	つくばケアセンター	1
臨床検査部	2		

Ⅲ．委員会　開催回数

12 回（8 月、11 月、12 月、1 月は書面開催）

Ⅳ．委員会　協議事項

2022.4.26	2021 年度目標評価報告 指針および「医療安対策チーム」「転倒転落対策 WG」各規約について承認 安全ラウンド実施（2-4、2-5、ICU、OR、CL）
2022.5.24	4 月のインシデント・アクシデント報告 ヒヤリ・ハット（レベル 0）報告について、「ヒヤリハットニュース」発行開始 安全ラウンド実施（場所：Ｓ３西、Ｓ３東、検査部、リハビリ部）
2022.6.28	5 月のインシデント・アクシデント報告 インプラント挿入患者の MRI 検査について検討した。 「報告書確認チーム」が新設されたため、組織図に追加した。 安全ラウンド実施（場所：Ｓ４西、Ｓ４東、内視鏡室、ケアセンター）
2022.7.26	6月のインシデント・アクシデント報告 同意書の代筆についてマニュアルを一部改訂した。 2022年度前期医療安全管理研修結果報告（参加率97.9％） 安全ラウンド実施（場所：薬剤部、1-2、救急センター、放射線部）
2022.8.23 （書面開催）	7 月のインシデント・アクシデント報告
2022.9.27	8 月のインシデント・アクシデント報告 安全ラウンド実施（場所：CL、THP、S5 西、S5 東）
2022.10.25	9 月のインシデント・アクシデント報告 手指消毒用アルコールジュエルの小児への危険について注意喚起を実施した。 安全ラウンド実施（場所：内視鏡室、薬剤部、OR、ICU、S3 西、S3 東）
2022.11.22 （書面開催）	10 月のインシデント・アクシデント報告
2022.12.27 （書面開催）	11 月のインシデント・アクシデント報告
2023.1.24 （書面開催）	12 月のインシデント・アクシデント報告
2023.2.21	1 月のインシデント・アクシデント報告 アレルギー登録について再周知した。 安全ラウンド実施（場所：内視鏡室、薬剤部、THP）

2023.3.28	2 月のインシデント・アクシデント報告 次年度の目標と年間計画 2022 年度後期医療安全管理研修結果報告（参加率 96.1%）

V．他 活動内容

1．職員に対する研修

開　催　日	内　容	講　師	対象者	参加人数
2022.4.4	医療安全の基礎	医療安全管理室	新入職者	106 人
2022.6.13 ～ 6.30 資料閲覧 ＋ミニテスト	2022 年度前期医療安全管理研修 テーマ 医療安全管理部門 「マネジメント概論」 「心電図モニタを安全に運用する」 医薬品安全管理部門 「医薬品の副作用報告について学ぶ」	医療安全管理室	全職員	1,236 人 （受講率 97.9%）
2022.7.20 ～ 7.31 資料閲覧 ＋ミニテスト	造影 CT と MRI 検査について	放射線部	多職種	184 人
2023.1.10 ～ 1.31 資料閲覧 ＋ミニテスト	DVT 予防のための弾性ストッキングの安全な着用方法について	生理検査室	多職種	475 人
2023.2.7 ～ 2.28 資料閲覧 ＋ミニテスト ＋アンケート	2022 年度後期医療安全管理研修 テーマ 医療安全管理部門 「ストレスの仕事への影響」 医薬品安全管理部門 「血液をサラサラにする薬を学ぶ」 医療放射線部門 「放射線の基礎」	医療安全管理室 放射線部	全職員	1,170 人 （受講率 97.3%）

2．広報活動

◯医療安全対策ニュース発行および掲示　12 回

4 月号「誤薬防止」 作成：S 棟 3 階西病棟

5 月号「車椅子の管理」 作成：リハビリテーション部

6 月号「インスリンポンプ装着時の放射線検査について」 作成：放射線部

7 月号「ベッド周囲の整理整頓」 作成：2 号棟 3 階病棟

8 月号「転倒事故防止対策」 作成：つくばケアセンター

9 月号「看護師によるワンショット禁止薬について」 作成：S3 東病棟

10 月号「心電図モニタ管理について」 作成：ME

11 月号「自分の健康と安全」 作成：THP

12 月号「ベッドコントローラーの正しい設置について」 作成：S 棟 4 階西病棟

1 月号「誤薬防止」 作成：薬剤部

2 月号「マットセンサーの正しい使用方法について」 作成：2 号棟 5 階病棟

3 月号「誤薬防止の 6R について」 作成：ICU

◯公益財団法人　日本医療機能評価機構　医療安全情報の配布および掲示　12 回

◯厚生労働省　医療事故再発に向けた提言の冊子配布およびポスター掲示　2 回

4 月　提言第 15 号「薬剤の誤投与に係る死亡事例の分析」

6 月　提言第 16 号「頚部手術に起因した気道閉塞に係る死亡事例の分析」

○緊急医療安全対策ニュース発行　２回
５月「ベッドコントローラーの使用方法について」
９月「リフト車使用時の安全確認について」

３．医療安全推進活動

○医療安全推進週間活動
『説明義務』をテーマにポスターを作成し、全職員に Web で回覧した。
回覧期間：11 月 22 日～ 12 月 31 日

［文責：池澤和人］

転倒転落対策ＷＧ

Ⅰ．目的及び機能

医療安全管理員会の総括のもと、各部署で発生した転倒転落に関する報告から、現場に即したより実効性のある安全対策が実行できる体制の整備に努める。さらに医療安全対策チームにおいて活動を報告し、情報共有することで再発防止を図ることを目的とする。

Ⅱ．構成員

◎委員長：森　純子

部　　門	人　　数	部　　門	人　　数
診療部	1	リハビリテーション部	2
医療安全管理室	1	栄養管理課	1
看護部	2	本部・事務部	1
薬剤部	1		

Ⅲ．委員会　開催回数

12 回（8 月、9 月、10 月、11 月、12 月、1 月は書面開催）

Ⅳ．委員会　協議事項

2022.4.12	2021 年度の転倒転落評価報告 2022 年度目標・年間計画立案・承認 2 号棟 5 階のトイレのタイル床及び段差による転倒事例について検討した。
2022.5.10	4 月の転倒転落報告と検討
2022.6.14	5 月の転倒転落報告と検討 ベッド柵の隙間について JIS 規格の基準を再確認した。
2022.7.12	6 月の転倒転落報告と検討 クリップタイプの離床センサーの運用について検討した。
2022.8.9 書面開催	7 月の転倒転落報告
2022.9.13 書面開催	8 月の転倒転落報告

2022.10.11 書面開催	9 月の転倒転落報告 「転倒予防の日」の企画について S 棟シャワー室入り口小窓に目隠しシートを貼り、カーテン撤去を報告した。
2022.11.8 書面開催	10 月の転倒転落報告
2022.12.13 書面開催	11 月の転倒転落報告
2023.1.10 書面開催	12 月の転倒転落報告
2023.2.14	1 月の転倒転落報告と検討
2023.3.14	2 月の転倒転落報告と検討

Ⅴ．その他の活動内容

1．「転倒予防の日（10 月 10 日）」の企画として、センサー使用に関連した注意喚起ポスターを全職員に Web で回覧した。

回覧期間：10 月 12 日～ 10 月 31 日

2．転倒予防ラウンドを毎月実施し、ベッドサイドの荷物入れワゴンの車輪の撤去を統一した。

［文責：森　純子］

医療放射線管理チーム

Ⅰ．目的及び機能

本チームは医療法に基づき、筑波記念病院管理者の諮問により、診療放射線の安全利用に係る管理を目的とする。医療安全管理委員会の総括のもと診療放射線のプロトコール管理、被ばく線量管理、放射線の過剰被ばく、その他の放射線診療に関する事例発生時の対応並びにこれに付随する業務を行う。

Ⅱ．構成員

◎チーム長：鯨岡　結賀

部　　門	人　　数	部　　門	人　　数
診療部	2	放射線部	6
看護部	1		

Ⅲ．会議　開催回数

1 回

Ⅳ．協議事項

2022.10.27	被ばく線量管理システムを用いて算出された CT 装置 2 台、血管造影装置 3 台、核医学の線量記録をもとに、DRLs2020 を用いた線量管理報告を行った。

［文責：鯨岡結賀］

MRI安全管理チーム

Ⅰ．目的及び機能

本チームは筑波記念病院　管理者の諮問により、MRI検査の安全利用に係る管理体制の構築を目的とする。画像診断管理加算の施設基準により公益社団法人日本医学放射線学会、公益社団法人日本放射線技術学会、及び特定非営利活動法人磁気共鳴専門技術者認定機構の定めるMRI検査の安全管理の指針に基づき、適切な安全管理をする。

Ⅱ．構成員

◎チーム長：高橋　信幸（診療部放射線科）

部　　門	人　　数	部　　門	人　　数
診療部	2	看護部	1
医療安全管理室	1	放射線部	6

Ⅲ．会議　開催回数

1回

Ⅳ．協議事項

2023.3.8	MRI安全管理チームの目的と構成 MRI安全管理研修の開催について MRI検査の安全管理マニュアル等の見直し 施設共同利用の実施について MRI検査に関する事例発生時の対応 その他

［文責：高橋信幸］

報告書確認対策チーム

Ⅰ．目的及び機能

本チームは画像診断部門、病理部門が医療安全管理部門と連携し、報告書の確認漏れ等の対策を講じ、診断または治療開始の遅延を防止するための体制を整備する。

Ⅱ．構成員

◎チーム長：池澤　和人

部　　門	人　　数	部　　門	人　　数
診療部	3	医療安全管理室	1
放射線部	1	臨床検査部	1

Ⅲ．会議　開催回数

10回

Ⅳ．協議事項

2022.6.1	・報告書確認体制加算の施設基準について ・報告書の確認作業方法 ・報告書の管理について ・報告書確認件数
2022.7.13	・病理報告書の確認作業方法 ・報告書確認件数
2022.8.10 書面開催	・報告書確認件数 ・報告書管理のための業務改善計画書の作成
2022.9.14 書面開催	・報告書確認件数
2022.10.12 書面開催	・報告書確認件数
2022.11.11 書面開催	・報告書確認件数
2022.12.14 書面開催	・報告書確認件数
2023.1.11 書面開催	・報告書確認件数 ・病理報告書の未確認医師への確認方法を再度周知
2023.2.13 書面開催	・報告書確認件数
2023.3.9 書面開催	・報告書確認件数

［文責：池澤和人］

感染対策管理委員会

Ⅰ．目的及び機能

筑波記念病院管理者の諮問に基づき設置され、感染対策上の問題点、緊急的事項、疫学的集計結果などを検討する委員会である。病院として行うべき感染対策上の政策を管理者に答申する、感染対策に関する意思決定機関である。

Ⅱ．構成員

◎委員長：佐藤　祐二

部　　門	人　　数	部　　門	人　　数
診療部	3	薬剤部	1
医療安全管理室	1	リハビリテーション部	1
感染管理室	1	臨床検査部	1
看護部	1	本部・事務部	1

Ⅲ．会議　開催回数

12 回（書面開催 3 回：8 月、11 月、12 月）

Ⅳ．協議事項

2022.4.27	・診療報酬改訂により規約の改定承認、感染対策向上加算 1（710 点）取得 ・カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症（CRE）、破傷風の発生届 ・職員の COVID 感染者の就業制限を 17 日間から 10 日間に短縮
2022.5.25	・2 号棟 4 階の疥癬、ケアセンター（2 階）の COVID クラスター報告 ・CDI 増加は検査項目の変更の影響によるものか監視していく ・重症者の増加により 4 月の MEPM 使用量が突出 ・2021 年度針刺しサーベイランス報告：26 件と増加 ・梅毒、レジオネラ症の発生届
2022.6.29	・第 6 波の減少（5/6 コロナステージ 1）により入院 3 日目の PCR 検査は中止 ・前期全職員対象研修「CDI」 ・レジオネラ症の発生届
2022.7.27	・第 7 波の影響により職員が濃厚接触者に該当することで病院機能の維持が厳しい状況、7/22 よりステージ 3 ・濃厚接触者の就業制限を改定、7 日間の自宅待機から day5-7 連日リアット検査して出勤可能 ・病棟で陽性者確認された際のロックダウンの基準改定、拡大スクリーニングは実施しない
2022.8.31 （書面開催）	・2 つの病棟でロックダウン（5 東、2-4） ・9/2 より COVID 発生届は全数から限定（65 歳以上など）報告
2022.9.28	・7 月 -9 月職員の感染および濃厚接触者の報告、濃厚接触者は day4 までに発症 ・濃厚接触者の隔離期間を 7 日間から 5 日間に変更 ・2 つの病棟で部分ゾーニング（4 東、4 西） ・レジオネラ症の発生届 2 件 ・インフルエンザワクチン接種 10/3 より開始 ・カルバペネム抗菌薬が入荷困難
2022.10.26	・感染症対策マニュアル改定：HIV 曝露後の内服薬の変更 ・10/26 より予約制対面面会の開始 ・結核性胸膜炎、結核、CRE の発生届
2022.11.30 （書面開催）	・第 8 波 11 月に感染者急増し、病棟ロックダウンは 4 西、4 東、3 西、2-5、5 西、部分ゾーニングは 3 東となった ・ケアセンターでクラスター発生（1 階とデイケア） ・対面面会は中止、COVID 患者は 2-3 と 1-2 で対応 ・結核性リンパ節炎、結核（排菌なし）、E 型肝炎の発生届
2022.12.28 （書面開催）	・2 か月間の感染者数：入院患者 94 名、職員 221 名（会議時点） ・患者と長時間接触するリハビリ職員に N95 マスク着用を指示 ・12/5 よりクイックナビ抗原開始（インフルとコロナ同時検査） ・ヤコブ病の発生届
2023.1.25	・3 か月間の感染者数：入院患者 135 名、職員 278 名（会議時点） ・1/18 より 1-2 病棟は一般病棟にシフトした ・11 月 -12 月発熱外来の陽性率は 60％超えている
2023.2.22	・NPPV 使用基準改定：多床室可能、週 1 回の PCR 継続 ・結核（排菌なし）発生届 ・2/9 感染対策向上加算にかかる相互チェックの報告（筑波メディカルセンター病院）
2023.3.29	・3/20 予約制対面面会（多床室可）、外出・外泊の開始 ・4/1 入院より入院前 PCR 検査中止、緊急入院は検査継続 ・針刺しサーベイランスの報告：10 件に減少 ・ウイルス性肝炎（HBV）発生届

［文責：佐藤祐二］

感染対策チーム

Ⅰ．目的及び機能

感染対策管理委員会に基づき設置され、病院運営上日常的な感染症に関わる業務を協議、担当する。所属部署職員への情報伝達、指導的立場となり、感染対策チームの活動は感染対策管理委員会に定期的に報告される。

Ⅱ．構成員

◎委員長：佐藤　祐二

部　　門	人　　数	部　　門	人　　数
診療部	4	臨床工学課	1
医療安全管理室	1	栄養管理課	1
感染管理室	1	本部・事務部	1
看護部	14	つくばトータルヘルスプラザ	1
薬剤部	1	筑波総合クリニック	1
放射線部	1	つくばケアセンター	1
リハビリテーション部	3	委託業者	3
臨床検査部	1		

Ⅲ．会議　開催回数

12 回（5 回は書面開催：5 月、8 月、9 月、11 月、12 月）

Ⅳ．協議事項

毎月、サーベイランス（監視対象菌、抗菌薬、手指衛生）、院内巡視、COVID 対策の報告を行った

2022.4.12	・カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症（CRE）検出にて感染対策強化の実施報告 ・職員の COVID 感染者の就業制限を 17 日間から 10 日間に短縮
2022.5.10 （書面開催）	・2 号棟 4 階の疥癬、ケアセンター（2 階）の COVID クラスター報告 ・コロナステージ 1 になっているがクラスター発生もあることから感染対策の基本は継続すること ・診療報酬改訂（感染対策向上加算 1：710 点）により規約を改定
2022.6.14	・第 6 波の減少（5/6 コロナステージ 1）により入院 3 日目の PCR 検査は中止 ・前期全職員対象研修「CDI」お知らせ
2022.7.12	・第 6 波の職員発生の報告 ・7 月から感染者急増、4 東で感染者増加により注意喚起 ・CD 件数の増加は検査方法の変更の影響か監視していく
2022.8.9 （書面開催）	・第 7 波 7/22 よりステージ 3、職員の濃厚接触者の就業制限を改定、7 日間の自宅待機から day5-7 連日リアット検査して出勤可能 ・病棟で陽性者確認された際のロックダウンの基準改定、拡大スクリーニングは実施しない
2022.9.13 （書面開催）	・濃厚接触者の隔離期間を 7 日間から 5 日間に変更 ・8 月の発熱外来陽性率は 64.5％ ・2 － 4 クラスター、ロックダウン報告 ・9/2 より COVID 発生届は全数から限定（65 歳以上など）報告 ・針刺しサーベイランス中間報告 ・カルバペネム抗菌薬が入荷困難
2022.10.11	・病棟ロックダウンは 5 東、2 － 4、4 西、部分ゾーニングは 4 東 ・インフルエンザワクチン接種の開始
2022.11.8 （書面開催）	・10/26 より予約制対面面会開始→中止 ・感染症対策マニュアル改定：HIV 曝露後の内服薬の変更
2022.12.13 （書面開催）	・第 8 波院内発生報告、ロックダウンは 4 西、4 東、3 西、2 － 5、5 西、2 － 4、1 － 2、部分ゾーニングは 3 東と 5 東 ・ケアセンター（1 階とデイサービス）でクラスター発生 ・1 － 2 は 11/24 よりコロナ患者の受け入れに変換 ・患者と長時間接触するリハビリ職員に N95 マスク着用を指示 ・12/5 よりクイックナビ抗原開始（インフルとコロナ同時検査）

2023.1.10	・11 月からの感染者数報告入院患者 106 名、職員 240 名 ・1 部署で 5 人 /5 日間発生したら N95 マスク着用とする ・12 月下旬よりインフルエンザの報告あり ・隔離期間終了後の抗原検査の陽性は約半数みられる
2023.2.14	・3 か月間の感染者数：入院患者 142 名、職員 280 名 ・NPPV 管理の変更：多床室可能、標準装備対応、週 1 回の PCR は継続 ・1/18 より 1-2 病棟は一般病棟にシフトした ・5 月より 2 類から 5 類感染症に変更のお知らせ
2023.3.14	・2/13 よりコロナステージ 1 に引き下げ、3/13 より一般ではマスク着用は個人判断であるが、医療機関では着用を継続する ・3/20 予約制対面面会（多床室可）、外出・外泊の開始 ・4/1 入院より入院前 PCR 検査中止、緊急入院は検査継続 ・後期全職員対象研修「COVID-19 直近の振り返りと今後の対策」報告 ・感染対策マニュアルに吐物処理動画の添付のお知らせ

Ⅴ．他 活動内容

1．感染防止対策加算１に係る感染防止対策加算２の施設との合同カンファレンス

※コロナ禍によりオンライン会議とした

開催日：5 月 31 日、9 月 1 日、11 月 29 日、1 月 31 日

参加施設：大圃病院、筑波胃腸病院、筑波中央病院

2．感染防止対策加算に係る年４回の合同カンファレンスへオブザーバーとして参加

※コロナ禍によりオンライン会議となった

開催日：6 月 2 日、9 月 1 日、12 月 1 日、3 月 2 日

参加施設：筑波大学附属病院、取手北相馬保健医療センター医師会病院、筑波学園病院、守谷慶友病院

3．感染防止対策加算地域連携加算にかかる相互チェック

筑波メディカルセンター病院とオンラインで実施

開催日：2023 年 2 月 9 日

4．院内ラウンド

1）週 1 回の環境ラウンド

2）毎週月曜日に感染症サーベイランス・抗菌薬適正使用についてミーティング

5．従業員に対する研修

実　施　日	対　象	内　容	参加人数
2022.6.13 ～ 6.30Web 回覧	全職員	2022 年度前期医療安全管理研修：CDI	1236/1263 名 97.9（%）
2023.2.6 ～ 2.28Web 回覧	全職員	2021 年度後期医療安全管理研修：COVID-19 直近の振り返りと今後の対策	1169/1216 名 （96.1%）

6．サーベイランスの実施

厚生労働省院内感染対策サーベイランス（JANIS）の全入院患者部門、検査部門、手術部位感染（SSI）部門、集中治療室（ICU）部門に参加

7．感染率　（JANIS の定義に基づく）

感染率＝感染症患者数／総入院患者数× 1000

※感染症患者数＝（新規感染症患者数）＋（継続感染症患者数）

※総入院患者数＝（新規入院患者数）＋（前月からの継続入院患者数）

	MRSA	MDRP
感染症患者数	28 件	0 件
感染率	2.45‰	0‰

検出率＝感染症検出患者数／総入院患者数× 1000

感染症検出患者数＝新規感染症患者数で重複を除く

クロストリジウム・ディフィシルは JANIS 対象病原体でないため保菌を含む検出率とする

	クロストリジウム・ディフィシル
検出患者数	62 件
検出率	5.43‰

［文責：佐藤祐二］

労働安全衛生管理委員会

Ⅰ．目的及び機能

病院職員の危険又は健康障害を防止するための措置の実現に携わり、労働安全衛生のための教育検討をする。

Ⅱ．構成員

◎委員長：長澤　俊郎

部　　門	人　　数	部　　門	人　　数
診療部	2	臨床工学課	1
看護部	1	本部・事務部	4
薬剤部	1	つくばトータルヘルスプラザ	3
放射線部	1	筑波総合クリニック	1
リハビリテーション部	1	つくばケアセンター	1
臨床検査部	1	臨床心理	1

Ⅲ．会議　開催回数

9 回（その他 COVID-19 の影響により書面での定例報告が 2 回）

Ⅳ．協議事項

2022.4.8	・定例報告（巡視報告、労災報告、意見箱、休業者について、こころの相談室、残業時間について） ・2月職員定期健診報告 ・禁煙に向けての動画作成について ・メンバー変更について ・年次有給休暇消化について
2022.5.13	・定例報告（巡視報告、労災報告、意見箱、休業者について、こころの相談室、残業時間について） ・4月人間ドックについて ・ストレスチェック実施について ・委員会規約変更について
2022.6.10	・定例報告（巡視報告、労災報告、意見箱、休業者について、こころの相談室、残業時間について） ・8月職員定期健診 ・ストレスチェック実施について ・職員満足度調査実施について ・働き方改革委員会発足について
2022.7.8	・定例報告（巡視報告、労災報告、意見箱、休業者について、こころの相談室、残業時間について） ・職員満足度調査について ・禁煙に向けての動画完成報告
2022.8.12	・書面による定例報告（巡視報告、労災報告、意見箱、休業者について、こころの相談室、残業時間について） ・ストレスチェック実施遅延について
2022.10.14	・定例報告（巡視報告、労災報告、意見箱、休業者について、こころの相談室、残業時間について） ・ストレスチェック実施期間変更について ・働き方改革推進支援助成金について （ベッドパンウォッシャー購入、コロナ特別休暇導入） ・良い行動を行った職員への表彰について
2022.11.11	・定例報告（巡視報告、労災報告、意見箱、休業者について、こころの相談室、残業時間について） ・職員満足度調査結果報告 ・メンバー変更について
2022.12.9	・書面による定例報告（巡視報告、労災報告、意見箱、休業者について、こころの相談室、残業時間について） ・ストレスチェック結果報告 ・良い行動を行った職員への表彰につて（受賞者発表）
2023.1.13	・定例報告（巡視報告、労災報告、意見箱、休業者について、こころの相談室、残業時間について） ・メンバー変更について ・職員ご意見箱について ・労災報告先変更について ・禁煙動画視聴状況報告
2023.2.10	・定例報告（巡視報告、労災報告、意見箱、休業者について、こころの相談室、残業時間について） ・人間ドック胃部レントゲンについて ・有休５日取得について
2023.3.10	・定例報告（巡視報告、労災報告、意見箱、休業者について、こころの相談室、残業時間について） ・コロナ特休について ・院内暴力について ・４月人間ドック実施について

［文責：長澤俊郎］

働き方改革委員会

Ⅰ．目的及び機能

筑波記念会の労務管理責任者または職員代表からの諮問により、筑波記念会職員の労働時間短縮を目的として、以下のことについて答申する。

（1）医師の労働時間実績や労働時間短縮の取組状況の共有や意見交換
（2）医師の労働時間短縮計画に関すること
（3）医師の効率的な勤務体制および当会の診療体制に関すること
（4）多職種でのタスク・シフト／シェアに関すること
（5）各種会議や研修の効率化・合理化等に関すること
（6）働きやすい環境の整備と ICT 活用等による業務効率化に関すること
（7）多様で柔軟な働き方に関すること
（8）地域で自院が果たすべき役割の検討と取り組みに関すること
（9）患者、地域住民等への働き方改革に関する啓蒙・周知に関すること
（１０）その他、職員の労働時間短縮に関すること

Ⅱ．構成員

◎委員長：相野谷　武士

部　　門	人　　数	部　　門	人　　数
診療部	4	臨床工学課	1
看護部	2	救急救命士	1
薬剤部	1	本部・事務部	9
放射線部	1	つくばトータルヘルスプラザ	1
リハビリテーション部	3	筑波総合クリニック	2
臨床検査部	1		

Ⅲ．会議　開催回数

１回

Ⅳ．協議事項

2022.6.28	1．委員会設置について 2．医師の働き方改革について 　概要説明、各科での今後の取組事項 3．各部署等の取組事項 　他職種でのタスク・シフト／シェア 　各種会議や研修の効率化合理化等

［文責：相野谷武士］

防火防災管理委員会

Ⅰ．目的及び機能

人為的原因を含む災害が発生した際に筑波記念会の有する機能をできる限り発揮し、被災対応、救護対応、後方対応を的確に行う。そのためにマニュアルを作成し訓練の実施などを通して強化していく。

Ⅱ．構成員

◎委員長：阿部　智一

部　　門	人　　数	部　　門	人　　数
診療部	2	本部・事務部	4
看護部	1	つくばトータルヘルスプラザ	1
薬剤部	1	筑波総合クリニック	1
リハビリテーション部	1	つくばケアセンター	1
栄養管理課	1	地域医療連携部	1

Ⅲ．会議　開催回数

１回

Ⅳ．協議事項

2022.10.18	全職員に対し、施設内に設置されている消火設備の位置と使用方法、及び避難経路について資料を閲覧させ、職員の自衛消防の意識高揚の徹底を図った。また災害発生時における職員の初期行動フロー、緊急連絡体制、避難場所についても再確認をおこなった。

［文責：阿部智一］

臨床研修運営管理委員会

Ⅰ．目的及び機能

臨床研修医管理及び採用、中断、修了の際の評価等、臨床研修の実施の統括を行う。臨床研修医の評価を行い管理差に対し、当該研修医の評価を報告する。

Ⅱ．構成員

◎委員長：阿部　智一

部　　門	人　　数	部　　門	人　　数
筑波記念病院	10	つくばケアセンター	1
筑波総合クリニック	1	外部委員	15

Ⅲ．会議　開催回数

２回

Ⅳ．協議事項

2022.11.9 （持ち回り会議）	1　2023 年度筑波記念病院臨床研修プログラムについて 2　2023 年度採用のマッチング結果について 3　2022 年度院内教育について 4　2022 年度採用活動について
2023.3.8	1　2022 年度プログラムについて 2　2022 年度 2 年次臨床研修医修了認定について 3　2022 年度 1 年次臨床研修医について 4　2022 年度研修実績について 5　2023 年度研修医採用状況 6　2023 年度プログラム変更について 7　質疑・ご意見

［文責：阿部智一］

臨床研修運営チーム

Ⅰ．目的及び機能

臨床研修のプログラム、臨床研修医の採用計画、研修課程の評価、臨床研修医の服務等、臨床研修医の研修に関する業務全般を司る。

Ⅱ．構成員

◎チーム長：阿部　智一

部　　門	人　　数	部　　門	人　　数
診療部	18	臨床検査部	1
看護部	1	医療相談室	1
薬剤部	1	本部・事務部	2
リハビリテーション部	1		

Ⅲ．会議　開催回数

12 回

Ⅳ．協議事項

2022.4.25	令和 4 年度研修医オリエンテーションについて 処方権について リクルート活動報告 マッチングスケジュールについて 研修医のインシデントについて
2022.5.23	臨床研修運営チーム副院長について 令和 4 年度プログラム責任者養成講習会について 処方権について リクルート活動報告 臨床研修プログラムの連携施設 / 診療科追加について 茨城県実力派講師教育回診事業について 研修医夏休取得について
2022.6.27	リクルート活動報告 ハンガリー・チェコ医学生実習受入について
2022.7.20 （書面開催）	国家試験対策について 令和 3 年度マッチングスケジュール・試験応募者について

2022.8.22 （書面開催）	マッチング採用試験について 研修医の当直について 学生実習（筑波大地域 CC、東京医大、ハンガリー医大）受入について
2022.9.26 （書面開催）	当院おけるマッチング順位登録について リクルート活動報告 研修医勉強会について 基本的臨床能力試験について 院内学術集会について
2022.10.24	リクルート活動報告 令和 4 年度マッチング最終結果について 1 年次研修医のインシデントについて 第 7 回院内学術集会について 令和 4 年度臨床研修管理委員会の開催について
2022.11.28 （書面開催）	リクルート活動報告 連携施設訪問について 研修医の日当直について
2022.12.26	2 年次研修医の進路について 次年度リクルート活動について 第 7 回院内学術集会について 基本的臨床能力試験実施について 研修医の日当直体制について 令和 5 年度ローテーションについて
2023.1.30	令和 4 年度臨床研修管理員会について 第 7 回院内学術集会について 研修医勉強会について
2023.2.27	リクルート活動報告 令和 4 年度臨床研修管理委員会について 令和 4 年度臨床研修運営チーム会活動報告について / 委員・規約の確認 2 年次研修医修了判定、最終進路について
2023.3.27	リクルート活動報告 基本的臨床能力試験結果報告について 2 年次研修医の修了報告 医師国家試験結果について 令和 5 年度ローテーションについて 令和 5 年度年間スケジュールについて 令和 5 年度臨床研修管理体制について

V．他 活動内容

2022.5.8	レジナビ Fair2022 東京　～専門研修プログラム～（東京都立産業貿易センター）
2022.6.10	レジナビ Fair オンライン 2022 夏　東日本 Week（Web 開催）
2022.6.19	レジナビ Fair2022 東京　～臨床研修プログラム～（東京ビックサイト）
2022.9.20	レジナビ Fair オンライン　～臨床研修プログラム～（Web 開催）
2022.10.20	マイナビ RESIDENT　WEB セミナー（Web 開催）
2022.11.17	マイナビ RESIDENT　WEB セミナー（Web 開催）
2023.1.24	マイナビ RESIDENT　WEB セミナー北関東（Web 開催）
2023.2.21	レジナビ Fair オンライン 2023 東日本 Week（Web 開催）
2023.2.12	マイナビ RESIDENT 合同説明会（品川ザ・グランドホール）
2023.2.18	茨城県修学生向けスプリングセミナー（Web 開催）
2023.3.11	令和 4 年度茨城県臨床研修病院合同説明会（Web 開催）
2023.3.19	レジナビ Fair 2023 東京春（東京ビックサイト）

［文責：阿部智一］

医療従事者研修管理委員会

Ⅰ．目的及び機能

管理者からの諮問により、筑波記念会全職員を対象とした教育研修を目的として、以下のことについて検討し答申する。

（1）全職員を対象とする教育研修会の立案・企画・評価

（2）各部門における研修計画の把握と実施状況への評価

（3）地域医療研修運営チームへの評価・提言

Ⅱ．構成員

◎委員長：長澤　俊郎

部　　門	人　　数	部　　門	人　　数
診療部	1	臨床工学課	1
看護部	1	栄養管理課	1
薬剤部	1	地域医療連携室	1
放射線部	1	本部・事務部	3
リハビリテーション部	2	つくばトータルヘルスプラザ	1
臨床工学課	1	筑波総合クリニック	1

Ⅲ．会議　開催回数

1回

Ⅳ．協議事項

2023.3.24	本年度の研修実績および来年度の研修予定についての報告

［文責：長澤俊郎］

地域医療研修運営チーム

Ⅰ．目的及び機能

地域医療の中核として地域医療従事者の研修事業を積極的に行い、地域医療従事者の研鑽の場の提供と地域医療の質の向上を目的とする。

Ⅱ．構成員

◎チーム長：長澤　俊郎

部　　門	人　　数	部　　門	人　　数
診療部	2	臨床検査部	1
看護部	1	栄養管理科	1
薬剤部	1	地域医療連携部	1
放射線部	1	本部・事務部	1
リハビリテーション部	1		

Ⅲ．会議　開催回数

４回

Ⅳ．協議事項

2022.5.27	チーム規約の確認、メンバーの確認、前年度公開講座振り返り
2022.6.17	6 月開催の公開講座の反省、今後のオンライン配信について
2022.10.14	7 月、8 月、9 月の公開講座の振り返り、今後の予定について
2023.1.20	11 月公開講座の振り返り、3 月開催の公開講座について ZOOM ミーティング使用環境報告

Ⅴ．他 活動内容

地域医療連携公開講座として９回開催

［文責：長澤俊郎］

診療管理委員会

Ⅰ．目的及び機能

医事・地域医療連携に係る情報の共有、評価、分析を行うとともに、各運営チームでの決定事項の報告、情報周知を目的とする。

Ⅱ．構成員

◎委員長：長澤　俊郎

部　　門	人　　数	部　　門	人　　数
診療部	26	臨床検査部	1
看護部	1	栄養管理課	1
薬剤部	1	地域医療連携部	1
放射線部	1	本部・事務部	1
リハビリテーション部	1	臨床工学課	1
医療相談室	1	筑波総合クリニック	1
筑波ケアセンター	1	トータルヘルスプラザ	1

Ⅲ．会議　開催回数

年 12 回

Ⅳ．協議事項

・医事報告
・地域医療連携報告
・地域医療患者サポートセンター報告
・施設基準充足状況報告
・各委員会からの報告
・診療に関する問題点の協議

［文責：長澤俊郎］

救急診療運営チーム

Ⅰ．目的及び機能

地域住民が生命の危機に瀕したときや、不慮の怪我や病状悪化により、緊急の対応を要したときに、生命を安心して預けられる病院であるよう、救急患者の受け入れと治療に病院全体で総力を挙げる。

Ⅱ．構成員

◎チーム長：榎本　強志

部　　門	人　　数	部　　門	人　　数
診療部	8	本部・事務部	3
看護部	2	筑波総合クリニック	1
放射線部	1	つくばケアセンター	
地域医療連携室	1		

Ⅲ．会議　開催回数

12 回

Ⅳ．協議事項

2022.4.15	2021 年度受入状況について
2022.5.20	クリニックからの救急外来受診について
2022.6.17	各消防への救急車受入判断基準配布について
2022.7.15	救急車お断りについて
2022.8.19 （書面開催）	救急車お断りについて
2022.9.16 （書面開催）	コードブルー召集について 院内急変対応研修について
2022.10.21	症例検討会について
2022.11.18 （書面開催）	救急車お断りについて
2022.12.16 （書面開催）	救急車お断りについて
2023.1.20 （書面開催）	救急車お断りについて
2023.2.17 （書面開催）	救急車お断りについて
2023.3.17 （書面開催）	症例検討会について

［文責：榎本強志］

手術部運営チーム

Ⅰ．目的及び機能

手術室の円滑な運営ができるよう、関連する事項について協議、検討することを目的とする。

Ⅱ．構成員

◎委員長：田島　啓一

部　　門	人　　数	部　　門	人　　数
診療部	13	臨床工学課	1
看護部	2	本部・事務部	1

Ⅲ．会議　開催回数

６回

Ⅳ．協議事項

2022.4.6	2021 年度手術件数報告 2022 年度の手術件数目標について
2022.6.1	チーム規約の確認 手術記録の記載について
2021.8.3 （書面開催）	コロナ感染後・ワクチン接種後の手術までの空けるべき時間について 手術申し込み時の所要時間について
2022.10.5 （書面開催）	中材の滅菌械更新に伴う手術入室時間について（報告事項のみ）
2022.12.7 （書面開催）	手術件数の推移について
2023.2.1	手術室師長変更のお知らせ コロナ５類へ移行に伴う今後の変更点について

［文責：田島啓一］

ＩＣＵ運営チーム

Ⅰ．目的及び機能

ICU 病床の円滑な運営を図ることを目的とする。

Ⅱ．構成員

◎チーム長：末松　義弘

部　　門	人　　数	部　　門	人　　数
診療部	7	臨床工学課	1
看護部	2	本部・事務部	1

Ⅲ．委員会　開催回数

６回

Ⅳ．委員会　協議事項

2022.5.9	重傷者・医療・看護必要度の割合について ICU ベッドコントロールについて
2022.7.11	重傷者・医療・看護必要度の割合について ICU ベッドコントロールについて
2022.9.12 （書面開催）	重傷者・医療・看護必要度の割合について
2022.11.14 （書面開催）	重傷者・医療・看護必要度の割合について
2023.1.16 （書面開催）	重傷者・医療・看護必要度の割合について
2023.3.13 （書面開催）	重傷者・医療・看護必要度の割合について ICU ベッドコントロールについて

Ⅴ．他　活動内容

重症患者の治療を要する ICU 病床のベッドコントロール及び運用などを協議する場である。2020 年 4 月よりは救急科医師も加わり、より高度な医療を提供できるよう協議を重ねている。新型コロナウイルス流行下での ICU の運用および新規設備の導入など積極的に検討しており、常に重症患者を受け入れる体制を整えている。

［文責：阿部智一］

シーティング運営チーム

Ⅰ．目的及び機能

リハビリテーション診療管理委員会の統括のもと、シーティング等に関する機器の整備と供給体制の構築を行い、患者・利用者の診療環境の向上を図る。

Ⅱ．構成員

◎委員長：伊佐地　隆

部　　門	人　　数	部　　門	人　　数
診療部	2	医療相談室	1
医療安全管理室	1	本部・事務部	1
看護部	7	つくばケアセンター	3
リハビリテーション部	9		

Ⅲ．会議　開催回数

８回

Ⅳ．協議事項

2022.4.21	レンタル車いす（業者：ライフステップサービス）に関する検討、各病棟の既存車いすに関する確認
2022.5.19	レンタル車いす（業者：ライフステップサービス）に関する検討、車いす調整の際の安全確認に関する検討
2022.6.16	ティルトリクライニング車いすの必要性に関する検討、レンタル車いすの補修方法、必要台数の検討、また各チームで使用しての意見交換
2022.7.21	車いす座クッションに関する検討、レンタル車いすの補修方法の検討、各チームの状況報告（レンタル車いすの使用状況等）
2022.8.18	（コロナ感染拡大防止のため会議中止）
2022.9.15	（コロナ感染拡大防止のため会議中止）
2022.10.20	車いす座クッションに関する検討、レンタルティルトリクライニング車いすの必要性・配置に関する検討、各チームの状況報告（レンタル車いすの使用状況等）
2022.11.17	（コロナ感染拡大防止のため会議中止）
2022.12.15	（コロナ感染拡大防止のため会議中止）
2023.1.19	各チームの状況報告（レンタルティルトリクライニング車いすの使用状況の確認）、車いす座クッション（レンタル）に関する検討、既存の車いすの配置・保管に関する検討
2023.2.16	車いす座クッション（レンタル）の管理に関する検討、各チームの状況報告（レンタルティルトリクライニング車いすの使用状況の確認）、寄贈品の管理に関する検討、来年度チームメンバーに関する検討
2023.3.16	車いす座クッション（レンタル）の管理に関する検討、各チームの状況報告（レンタルティルトリクライニング車いすの使用状況の確認）、今後のレンタル車いすの活用に関する意見交換

Ⅴ．他　活動内容

シーティングに必要な関連備品の検討・調達・啓蒙活動。

［文責：伊佐地隆］

病院機能改善管理委員会

Ⅰ．目的及び機能

筑波記念病院及び病院関連施設における医療の安全性、有効性、患者本位か、効率性を評価するための Q.I（クリニカルインディケーター）の設定と医療レベルを監視するため、病院機能改善管理委員会を設置する。

Ⅱ．構成員

◎委員長：鯨岡　結賀

部　　門	人　　数	部　　門	人　　数
診療部	3	リハビリテーション部	1
医療安全管理室	1	本部・事務部	3
感染管理室	1	つくばトータルヘルスプラザ	2
看護部	2	筑波総合クリニック	1
薬剤部	1	つくばケアセンター	1

Ⅲ．会議　開催回数

７回

Ⅳ．協議事項

2022.4.18	委員会規約・今年度委員の確認、副委員長の任命
2022.5.16 （書面開催）	病院機能評価、QC 活動テーマ募集、「報告書確認対策チーム」設置の承認、医療の質（QI）進捗報告
2022.6.20	病院機能評価ヒアリング状況報告、QC 活動テーマ募集状況報告、「働き方改革委員会」の設置・「治験審査委員会」の廃止の承認、当会の今年度委員会・チーム体制の確認
2022.9.20 （書面開催）	QC 活動中間報告、年報進捗報告、医療の質（QI）進捗報告
2022.10.17 （書面開催）	QC 活動中間報告、年報進捗報告、医療の質（QI）進捗報告、「医療の質可視化プロジェクト」参加について
2023.2.20	「医療の質可視化プロジェクト」進捗報告、QC 活動最終報告募集、病院機能評価期中の確認、来年度の全委員会への委員・規約の確認実施
2023.3.20 （書面開催）	来年度委員・規約確認

［文責：鯨岡結賀］

医療ガスチーム

Ⅰ．目的及び機能

筑波記念会の運営する各事業所における医療ガス設備の管理を行い、患者の安全と災害の未然防止を目的とする。

Ⅱ．構成員

◎チーム長：田島　啓一

部　　門	人　　数	部　　門	人　　数
診療部	1	本部・事務部	4
看護部	1	筑波総合クリニック	1
薬剤部	1	委託業者	1
臨床工学課	1		

Ⅲ．会議　開催回数

１回

Ⅳ．協議事項

2023.3.20	医療ガス配管設備保守点検結果報告 人工空気製造装置定期点検結果報告 筑波総合クリニック　吸引供給装置自動給水ライン 配管設備修理報告

［文責：田島啓一］

がん化学療法検討委員会

Ⅰ．目的及び機能

筑波記念病院における、がん化学療法剤のレジメンの管理（登録、削除、保留）、施用等の適正化を図る。

検討事項：がん化学療法を行うためのレジメン・手技・医薬品の管理、外来化学療法室の運用、その他

Ⅱ．委員構成

◎委員長：一色　雄裕→佐藤　祐二

部　　門	人　　数	部　　門	人　　数
診療部	6	薬剤部	3
看護部	2	本部・事務部	1

Ⅲ．委員会開催回数

３回

Ⅳ．委員会協議事項

2022.4.11	委員会メンバーについて。化学療法室時間外退室患者について。機能評価での指摘事項について。化学療法同意書の統一について。特定生物由来製品の同意書について。インシデントについて。新規採用薬について。
2022.6.6	化学療法室時間外退室患者について。化学療法同意書の統一について。新規採用薬について。
2023.2.6	化学療法室時間外退室患者について。日本がん治療認定医機構　認定研修施設の更新について。外来抗癌剤投与中の心電図確認について。薬剤部よりお願いとおしらせ。新規レジメンのお知らせ。

［文責：佐藤祐二］

輸血運営チーム

Ⅰ．目的及び機能

院内における輸血が安全かつ円滑に行われるための活動の大網を定める事を目的とする。管理者の諮問機関として、管理者からの諮問事項、輸血療法上の問題点、緊急的検討事項、疫学的集計結果などを検討するチームで、病院として行うべき輸血療法上の方策を管理者に答申する輸血療法に関する意思決定機関である。

Ⅱ．構成員

◎チーム長：佐藤　祐二

部　　門	人　　数	部　　門	人　　数
診療部	2	臨床検査部	3
看護部	3	本部・事務部	1
薬剤部	3	委託業者	1

Ⅲ．会議　開催回数

６回

Ⅳ．協議事項

2022.4.13	輸血の安全な運用について
2022.6.8	緊急手術時の輸血準備について
2022.10.12	Rh- の緊急輸血について
2022.11.9	QC テーマ　T&S について
2023.1.11	輸血システムダウン時の輸血の流れについて
2023.2.8	院内停電時・輸血システムダウン時の輸血の流れについて

［文責：佐藤祐二］

診療録チーム

Ⅰ．目的及び機能

診療情報ならびに診療録の管理について、総括的に規定し適切な管理を行い、医療の質を確保する。

Ⅱ．構成員

◎チーム長：田島　啓一

部　　門	人　　数	部　　門	人　　数
診療部	8	臨床検査部	2
医療安全管理室	1	栄養管理課	1
看護部	3	地域医療連携室	1
薬剤部	1	医療相談室	1
放射線部	1	本部・事務部	5
リハビリテーション部	1	筑波総合クリニック	1

Ⅲ．会議　開催回数

12 回

Ⅳ．協議事項

2022.4	診療録チーム規約の確認
2022.5	手術記録について協議
2022.6	診療録の記載内容について協議
2022.7	同意書の代筆について協議
2022.8	退院要約完成状況の報告（書面開催）
2022.9	退院要約完成状況の報告（書面開催）
2022.10	研修医の記載した診療録の確認について協議
2022.11	退院要約完成状況の報告（書面開催）
2022.12	退院要約完成状況の報告（書面開催）
2023.1	死亡診断書の電子化・診療録の訂正について協議
2023.2	医学生のカルテ記載・紙カルテの外部委託について協議
2023.3	死亡診断書の電子化・医学生のカルテ記載について進捗報告

［文責：田島啓一］

医療情報システム管理チーム

Ⅰ．目的及び機能

2022年度に発生したシステム障害、新規導入と撤去システムの報告、各システムサーバーへのウイルスバスター導入報告、ネットワーク機器の更改報告など

Ⅱ．構成員

◎チーム長：長澤　俊郎

部　　門	人　　数	部　　門	人　　数
診療部	5	栄養管理課	1
医療安全管理室	1	地域医療連携室	1
感染管理室	1	病歴管理室	1
看護部	6	本部・事務部	4
薬剤部	1	つくばトータルヘルスプラザ	1
放射線部	1	リクルートセンター	1
リハビリテーション部	1	筑波総合クリニック	1
臨床検査部	1	つくばケアセンター	1
臨床工学課	1		

Ⅲ．会議　開催回数

1回

Ⅳ．協議事項

2023.3.8	2022年度医療情報システムに関する年間報告

［文責：鯨岡結賀］

臨床検査運営チーム

Ⅰ．目的及び機能

臨床検査部の効率的かつ円滑な運営、管理を図り、あわせて診療の向上に寄与することを目的とする。また当院では、検体検査を外部委託しており、委託業務の実態を評価し、改善を促進する。

Ⅱ．構成員

◎委員長：井川　昌幸

部　　門	人　　数	部　　門	人　　数
診療部	1	本部・事務部	2
看護部	3	委託業者	2
臨床検査部	4		

Ⅲ．会議　開催回数

４回

Ⅳ．協議事項

2022.5.23	①チームメンバー・チーム規約の確認 ②日本医師会の精度管理結果報告 ③新規検査項目申請書の書式承認
2022.8.22	新型コロナ感染対策の観点から書面開催 ①新規院内検査項目として NT-proBNP が申請される BML で実施可能か検討する ②来年 3 月に BML の検査部門システム及び検査機器の交換を予定
2022.11.28	新型コロナ感染対策の観点から書面開催 ① NT-proBNP が院内実施項目として 10 月 17 日より運用開始された ②外注検査の年末年始体制が近日配布予定。受付不可などの項目に注意する。
2023.2.27	① 2022 年度の外部精度管理結果報告（まとめ） ②トロポニン T の院内実施項目として申請。トロポニン T 対応の機器がないためトロポニン I で実施可能か検討 ③ 3 月 18 日、19 日に検体検査部門システムの入れ替えを実　施予定

［文責：井川昌幸］

栄　養　チ　ー　ム

Ⅰ．目的及び機能

筑波記念病院栄養チームは、当院における栄養・給食管理業務の適正化をはかるために行う。栄養・給食管理業務を遂行すると同時に、改善が必要な事項については検討し、さらに検討事項の改善、報告を行う。

Ⅱ．構成員

◎チーム長：右田　琢生

部　　門	人　　数	部　　門	人　　数
診療部	1	本部・事務部	2
看護部	2	委託業者	2
栄養管理課	2		

Ⅲ．会議　開催回数

10 回

Ⅳ．協議事項

2022.4	チーム規約・構成メンバー変更　インシデント報告　加算件数報告
2022.5	インシデント報告　加算件数報告　ICU 早期栄養介入　VF 食の取り扱い　時間外の食事
2022.6	インシデント報告　加算件数報告　QC 活動　ATP 細菌培養検査実施
2022.7	インシデント報告　加算件数報告　嗜好調査に向けて
2022.9	インシデント報告　加算件数報告　QC 活動中間報告
2022.10	インシデント報告　加算件数報告　嗜好調査結果を受けての献立改善
2022.11	インシデント報告　加算件数報告　個人情報漏洩、サイバー攻撃への注意喚起
2023.1	書面開催　インシデント報告　加算件数報告　行事食紹介
2023.2	インシデント報告　加算件数報告　化学療法対応食
2023.3	インシデント報告　加算件数報告　QC 活動最終報告　1 年の振り返り

Ⅴ．他 活動内容

1．衛生管理の改善
2．適切な給食提供
3．インシデントの改善

［文責：右田琢生］

栄養サポートチーム（ＮＳＴ）

Ⅰ．目的及び機能

栄養状態を判定し、その患者に最もふさわしい栄養管理を指導・提言することで、患者の治療・回復・退院及び社会的復帰を図る。

Ⅱ．構成員

◎チーム長：池澤　和人

部　　門	人　　数	部　　門	人　　数
診療部	8	栄養管理課	3
看護部	12	本部・事務部	1
薬剤部	3	リハビリテーション部	1

Ⅲ．会議　開催回数

12 回

Ⅳ．協議事項

2022.4	加算報告　規約確認　中長期計画
2022.5	加算報告　勉強会　半固形栄養剤加圧バック　QC 活動
2022.6	加算報告　勉強会　半固形栄養剤加圧バック　QC 活動
2022.7	加算報告　勉強会　半固形栄養剤加圧バック　QC 活動
2022.8	書面開催　加算報告　NST 担当医師紹介　QC 活動
2022.9	書面開催　加算報告
2022.10	加算報告　勉強会　今後の勉強会のあり方
2022.11	加算報告　勉強会　今後の勉強会のあり方
2022.12	書面開催　加算報告
2023.1	加算報告　日本臨床栄養代謝学会 NST 専門療法士認定教育施設として稼働
2023.2	加算報告　栄養サポート研究会の案内
2023.3	加算報告　勉強会　化学療法食の導入　QC 活動最終報告

Ⅴ．他 活動内容

1．適切な栄養評価
2．栄養管理の指導・提言
3．栄養管理に伴う合併症の予防・早期発見・治療
4．資源・素材の省力化
5．各チームとの相互協力
6．病院スタッフへの知識の習得

※週７回のカンファレンス
※毎月１回のチーム会議の開催
※ web 研修会への参加

［文責：池澤和人］

摂食嚥下ケアチーム

Ⅰ．目的及び機能

1．各病棟で選出された患者の回診を行い、方向性や検査の必要性を検討し提案する
2．摂食嚥下訓練の指導・助言
3．摂食嚥下障害に伴う合併症の予防・早期発見・治療
4．資源・素材の省力化
5．各委員会との相互協力
6．病院スタッフへの知識の提供

Ⅱ．構成員

◎チーム長：海老原　一彰、副チーム長：目﨑　直美

部　　門	人　　数	部　　門	人　　数
診療部	2	リハビリテーション部	2
看護部	13	栄養管理課	1
薬剤部	2		

Ⅲ．会議　開催回数

6回

Ⅳ．協議事項

2022.4.8	摂食機能療法実施報告 摂食機能療法算定者スクリーニングと回診 嚥下評価検査実施報告 各部署報告兼相談事項検討 訓練・評価対策チーム／パンフレット作成チーム報告と推進
2022.5.13	上記同様
2022.6.10	上記同様
2022.7.8	上記同様
2022.10.14	上記同様
2023.2.10	上記同様
2023.3.10	上記同様

Ⅴ．他 活動内容

・各病棟でスクリーニングされた患者についてのカンファレンスと摂食機能療法算定者の回診を行う
・院内の摂食嚥下に関する治療がスムーズに実施できるよう WG の活動を行う
・職員に対し、摂食嚥下の知識や技術の向上を目指した勉強会を開催する
　※本年度は未開催
・必要時は、NST、褥瘡チーム、緩和ケアチーム、栄養チームに協力依頼を行う
・嚥下評価者、摂食機能療法算定者の把握をする

	実施人数（人）	総点数（185 点）	内視鏡下嚥下機能検査数（件）	嚥下造影検査数（件）
4 月	7	13,320（72）	5	3
5 月	7	15,725（85）	15	1
6 月	16	34,780（188）	5	2
7 月	17	39,775（215）	11	3
8 月	15	28,305（153）	12	3
9 月	16	24,420（132）	10	3
10 月	13	15,725（85）	8	1
11 月	8	17,205（93）	8	1
12 月	11	26,640（144）	5	0
1 月	15	33,855（183）	12	2
2 月	13	29,045（157）	9	1
3 月	8	13,135（71）	14	0
合計	146	291,930/1,578	102	23

［文責：海老原一彰］

褥瘡対策チーム

Ⅰ．目的及び機能

褥瘡対策チームは、院内における褥瘡予防を周知させることで、褥瘡発生を減少させ、かつ、発生した褥瘡に対しては､的確な対応ができることを目標とする。医療スタッフが連携し､協力して行う。チーム医療を基本とし、褥瘡対策の強化と早期治療の促進を図るため病院全体で取り組む。

Ⅱ．構成員

◎チーム長：照沼　篤

部　　門	人　　数	部　　門	人　　数
診療部	1	栄養課	1
看護部	12	薬剤部	1
リハビリテーション部	2		

Ⅲ．会議　開催回数

12 回

Ⅳ．協議事項

2022.4.6	褥瘡回診　褥瘡回診結果報告　エアマットの使用状況報告
2022.5.11	褥瘡回診　褥瘡回診結果報告　エアマットの使用状況報告
2022.6.1	褥瘡回診　褥瘡回診結果報告　エアマットの使用状況報告
2022.7.6	褥瘡回診　褥瘡回診結果報告　エアマットの使用状況報告
2022.8.6	コロナ感染拡大予防のため回診／会議中止とした エアマット使用状況のみ確認

2022.9.6	褥瘡回診　　エアマットの使用状況確認 コロナ感染拡大予防のため回診のみ実施
2022.10.5	褥瘡回診　褥瘡回診結果報告　エアマットの使用状況報告
2022.11.2	褥瘡回診　褥瘡回診結果報告　エアマットの使用状況報告 利楽マットレスの勉強会に向けて（看護部のみ）
2022.12.1	コロナ感染拡大予防のため回診／会議中止とした エアマット使用状況のみ確認
2023.1.4	コロナ感染拡大予防のため回診／会議中止とした エアマット使用状況のみ確認
2023.2.1	褥瘡回診　　エアマットの使用状況確認 コロナ感染拡大予防のため回診のみ実施
2023.3.1	褥瘡回診　　エアマットの使用状況確認 勉強会についての打ち合わせ（看護部のみ）

Ⅴ．他 活動内容

褥瘡リスク状態の患者に対して予防管理をする。

リスクのある患者に対してチームで関わり、予防策を検討、実施し、NST、シーティングチームと連携し、早期から褥瘡リスク予防を行う。

今年度は、コロナ感染の拡大に伴い、回診・会議が中止となることも多かったが、各部署において、褥瘡評価を行い、適宜コンサルテーションによる対応にて、悪化防止に努めることはできた。また、エアマットの故障などにより、エアマットが不足していることもあったため、来年度は適正な台数について検討していきたい。

［文責：大内昭子］

急性期看護補助運営チーム

Ⅰ．目的及び機能

急性期看護補助運営チーム規約第２条（目的）より、看護師の負担軽減及び処遇の改善に資する体制を確保することを目的とする。

Ⅱ．構成員

◎委員長：星　豪人

部　　門	人　　数	部　　門	人　　数
診療部	1	臨床検査部	1
看護部	2	臨床工学課	1
薬剤部	1	本部・事務部	1
放射線部	1	看護補助者	1
リハビリテーション部	1		

Ⅲ．会議　開催回数

２回

［文責：星　豪人］

クリティカルパス・ＤＰＣチーム

Ⅰ．目的及び機能

院内におけるクリティカルパスの普及を目指す。

クリティカルパスの運用方法を啓蒙し、指導する。

バリアンスの評価の方法を啓蒙し、指導する。

効率のよい標準治療を目指し、質の高い診療を普及させる。

Ⅱ．構成員

◎チーム長：池澤　和人

部　　門	人　　数	部　　門	人　　数
診療部	7	放射線部	1
看護部	1	栄養管理課	1
リハビリテーション部	1	本部・事務部	3
薬剤部	1		

Ⅲ．会議　開催回数

６回

Ⅳ．協議事項

2022.4	チーム内規定の確認
2022.5	消化器内科入院患者の症例検討
2022.6	EVE を活用しての症例検討
2022.9	クリティカルパス適用率・DPC 詳細不明コード使用率の報告（書面開催）
2022.11	クリティカルパス適用率の報告（書面開催）
2023.2	クリティカルパス適用率・DPC 詳細不明コード使用率の報告（書面開催）

［文責：池澤和人］

緩和ケア委員会（緩和ケアチーム）

Ⅰ．目的及び機能

病気や治療に伴う身体的・精神的苦痛の緩和、家族ケア、療養場の相談、栄養相談についてコンサルエーションと回診を他職種で行い、主治医と病棟スタッフと連携をとり、患者とその家族がよりよい状況で治療を受け、その人らしい生活が送れるよう支援する。

（1）外来診療

・毎週金曜日に緩和ケア外来を設ける

・オピオイドや鎮痛補助薬、制吐剤、向精神薬などの薬剤調製にて症状緩和を行うと供に、自宅療養においてのアドバイスを行い、患者の QOL の向上を図る。

・患者／家族の自宅療養の不安を取り除き、心理精神面、社会的な面を支えていく。

（2）コンサルテーションと回診

・各診療科から入院患者に関する相談を緩和ケアチームとして受ける。

・毎週金曜日の緩和ケア外来終了より、緩和ケアチーム回診を実施する。

・疼痛コントロール、精神状態の緩和、家族ケア、療養場の相談、栄養相談等について回診を行い、主治医・病棟スタッフと連携しよりよい状況で治療が行えるように支援する。

Ⅱ．構成員

◎委員長：長岡　広香　　6 月より 川島　夏希

部　　門	人　　数	部　　門	人　　数
診療部	2	リハビリテーション部	2
看護部	12	栄養管理課	1
薬剤部	2		

Ⅲ．会議　開催回数

緩和ケア委員会　２ヶ月毎　全３回

Ⅳ．協議事項

2022.5.26	緩和ケア委員会
2022.7.28	緩和ケア委員会　WG 話し合い
2022.9.29	緩和ケア委員会　WG 話し合い　事例検討
2022.11.	緩和ケア委員会　WG 話し合い　事例検討

Ⅴ．他 活動内容

１．緩和ケアチーム回診週１回、病棟回診 190 件、外来２件

２．緩和ケアマニュアルの見直し

［文責：髙橋久美子］

地域医療サービスチーム

Ⅰ．目的及び機能

環境整備及び医療サービスの充実、現状の調査、改善などを目的に活動する。

Ⅱ．構成員

◎チーム長：谷中　清之

部　　門	人　　数	部　　門	人　　数
診療部	1	臨床工学課	1
看護部	2	栄養管理課	1
薬剤部	1	地域医療連携室	1
放射線部	1	本部・事務部	3
リハビリテーション部	1	筑波総合クリニック	1
臨床検査部	1	委託業者	2

Ⅲ．会議　開催回数

５回

Ⅳ．協議事項

2022.4.21	2022 年度活動予定及び構成員の確認、規約の見直し ご意見箱の投書対応（4 月 5 件）
2022.5.19	ご意見箱の投書対応（5 月 1 件）　環境整備の報告
2022.10.21	ご意見箱の投書対応（10 月 3 件）
2023.1.19	ご意見箱の投書対応（1 月 3 件）　環境整備の報告 11 月に実施した放置自転車撤去結果報告
2023.3.16	ご意見箱の投書対応（3 月 3 件）

※上記以外は担当部署内で投書の対応を実施。６月（３件）、８月（５件）、９月（４件）、11 月（５件）。
　投書総数 32 件（ご要望 25 件　その他７件）

Ⅴ．他　活動内容

・患者さんからのご意見（「ご意見箱」投函内容）に対する事実確認と対策協議（毎月）
・院内巡視報告（奇数月）
・2022 年 11 月　放置自転車撤去実施

［文責：谷中清之］

企画広報運営チーム

Ⅰ．目的及び機能

本チームは、筑波記念病院 管理者の諮問に基づき、以下の事を検討し答申することを目的とする。

(1) 院外広報誌の制作と配布に関すること。

(2) WEB サイトに関すること。

(3) その他、広報活動全般に関すること。

Ⅱ．構成員

◎委員長：池澤　和人

部　　門	人　　数	部　　門	人　　数
診療部	2	本部・事務部	5
看護部	1	つくばトータルヘルスプラザ	1
放射線部	1	つくばケアセンター	1
リハビリテーション部	2		

Ⅲ．会議　開催回数

７回

Ⅳ．協議事項

2022.4.18	「記念樹つくば」企画について WEB サイトについて チーム規約の見直しについて 構成メンバーの確認 病院案内簡易パンフレット作成の検討
2022.5.16	「記念樹つくば」企画について WEB サイトについて 構成メンバーの変更について 院内掲示物パトロールについて勘考
2022.6.13 書面開催	「記念樹つくば」企画について WEB サイトについて 病院案内簡易パンフレット案の確認
2022.7.11	「記念樹つくば」企画について WEB サイトについて 院内掲示物管理について その他
2022.9.12	「記念樹つくば」企画について WEB サイトについて 院内掲示物管理について 掲示物管理規程案および掲示物許可申請案について その他
2022.11.15	「記念樹つくば」企画について WEB サイトについて
2023.3.13 書面開催	次年度構成メンバーの確認 チーム規約について WEB サイトについて

Ⅴ．活動内容

2022.6	市内折込広告への掲載
2022.7	記念樹つくば Vol.67 発行

［文責：池澤和人］

倫 理 委 員 会

Ⅰ．目的及び機能

筑波記念病院及びその職員が行う臨床研究における倫理的目的問題等について、ヘルシンキ宣言の趣旨にそって審議し、倫理的配慮を図ることを目的とする。ここでいう臨床研究とは、医療における疾病の予防、診断及び診療方法の改善、病因及び病態の解明、ならびに患者の生活の質の向上を目的として実施される人を対象とする医学系研究及び臨床応用をさす。個人を特定できる人由来の材料及びデータに関する研究も含まれる。臨床における倫理的問題とは、職業倫理、終末期ケアの問題等が含まれる。

Ⅱ．構成員

◎委員長：谷中　清之

部　　門	人　　数	部　　門	人　　数
診療部	5	本部・事務部	1
看護部	1	外部委員	1
薬剤部	1		

Ⅲ．委員会　開催回数

通常審査　３件　　書類審査　13 件

Ⅳ．委員会　協議事項

通常審査

2022.6.28	FFR CT　新規導入について
2022.6.28	重症喘息における生物学的製剤への反応性を規定する因子の検討
2022.6.28	炎症性肺疾患の遺伝素因に関する研究

迅速審査

2022.4	心房細動合併急性冠症候群患者における抗血栓治療後の出血と血栓リスクに関係する前向き研究（STAR-ACS Study）研究終了報告
2022.7	COVID-19 パンデミック後の 45 カ国における人工呼吸の臨床実践の評価の研究：人工呼吸の世界的負担の統合的分析（GEMINI study）
2022.8	体外式膜型肺を要する急性呼吸不全患者の胸部 CT 画像に関する画像データベースの構築
2022.8	人工知能がヒトのマンモグラフィ読影に与える影響を検証する読影試験
2022.8	学会発表　第 63 回日本人間ドック学会学術大会「機能評価　新規受審に向けた取り組み～受けてよかった機能評価～」
2022.8	Preemptive TEVAR 導入後 5 年の uncomplicated 急性 B 型解離の治療成績

2022.9	日本臨床眼科学会報告 「プリー異常を伴う後天性斜視の特性　固定内斜視に対する横山法　－ 片眼手術例と両眼手術例の比較」
2022.10	ウツタイン様式を用いた院外心停止患者の登録と登録データを用いた臨床研究
2022.11	学会発表　基本的テーマ「認知機能低下例に於いて認知機能障害の内容及び障害の程度の推移解析に関する後方視的研究」に関するサブテーマ「ADASJcog. 検証値評価で正常レベル或いは軽度認知機能障害レベルと判定した症例における認知機能の長期予後に関与する因子の検討」の発表報告
2022.11	消防救急隊と搬送先病院の連携のための患者情報共有アプリ（NSER mobile）導入による病院前診療・救急医療体制への影響の検討
2022.11	房室結節リエントリー性頻拍に対する段階的アブレーション法 －房室ブロックのリスクを最小限にするアプローチ－
2023.2	頚椎後方除圧術後嚥下障害に関する観察研究
2023.3	日本外傷データバンクへの外傷者登録と登録データを用いた臨床研究の一部計画変更

［文責：谷中清之］

薬　事　委　員　会

Ⅰ．目的及び機能

医薬品の選定、購入、配布及び施用等の適正化を図ることを目的とする。

Ⅱ．構成員

◎委員長：池澤　和人

部　　門	人　　数	部　　門	人　　数
診療部	5	薬剤部	1
看護部	1	本部・事務部	1

Ⅲ．委員会　開催回数

６回

Ⅳ．委員会　協議事項

2022.4	新規医薬品採用審議　３件（持ち回り審議） 採用規格の追加１件、後発医薬品への変更について 医薬品の入手困難状況について
2022.6.6	新規医薬品採用審議　４件 BS 製剤への変更１件、規格追加
2022.7.4	新規医薬品採用審議　４件 後発医薬品への変更について
2022.8.1	新規医薬品採用審議　３件 削除候補医薬品および院外処方専用医薬品について
2022.11.7	新規医薬品採用審議　３件 カルバペネム系抗生物質の入荷状況について 化学療法用の携帯持続注入ポンプの変更について 後発医薬品の欠品・製造中止等について 「メチルロザニリン」を含有する院内製剤の適切な取り扱いについて
2023.2.6	新規医薬品採用審議　４件 後発医薬品への変更について

Ⅴ．他　活動内容

以下の事項を審議する

①医薬品採用の可否に関すること

②医薬品の適正な使用及び管理に関すること

③陳旧医薬品の取り扱いに関すること

④医薬品の副作用等の情報に関すること

⑤薬局業務に関すること

⑥その他薬事に関すること

［文責：池澤和人］

筑波記念病院
TSUKUBA MEMORIAL HOSPITAL

筑波総合クリニック

【総括】

発熱外来を開始して３年目となり、昨年度に引き続き多数の患者さんが発熱外来を受診し、クリニック全体で協力しながら業務を遂行した。昨年度まで外来患者は減少傾向にあったが今年度は、0.8％増加した。また、オンライン資格確認の導入により受付業務がスムーズに行えるようになった。新型コロナウイルス感染症は収束傾向にあり、２類感染症から５類感染症へ変更に伴い、今後クリニックとしての運用を検討し、見直ししなければいけないのが課題である。

［文責：上野真太郎］

【業務実績】

外来患者数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
一般内科	285	248	283	291	317	302	304	317	265	209	202	252	3,275
一般外科	22	21	31	18	11	9	3	1	2	1	0	1	120
眼科	1,002	951	1,057	953	824	921	969	965	968	887	856	1,059	11,412
形成外科	395	358	335	396	406	381	398	350	335	397	340	424	4,515
血液内科	260	206	213	294	352	233	226	307	385	241	167	168	3,052
呼吸器内科	350	377	435	403	456	431	391	497	500	459	434	499	5,232
呼吸器外科	123	129	185	160	101	217	156	172	186	162	163	189	1,943
耳鼻咽喉科	761	728	860	762	772	803	771	740	828	638	733	1,020	9,416
循環器内科	2,054	1,758	1,868	1,901	1,857	1,775	1,828	1,661	1,947	1,771	1,658	1,932	22,010
消化器内科	1,121	1,070	1,334	1,207	1,337	1,325	1,155	1,181	1,363	1,097	1,123	1,251	14,564
消化器外科	351	352	406	412	425	419	404	382	462	439	372	417	4,841
小児科	258	238	260	324	296	292	267	309	298	265	270	293	3,370
神経内科	411	323	398	411	424	424	389	375	542	424	352	443	4,916
心臓血管外科	229	237	257	229	268	256	222	242	230	232	209	263	2,874
腎臓内科	112	106	108	110	102	138	102	111	121	96	90	107	1,303
整形外科	1,977	1,874	2,280	2,053	2,150	2,112	2,075	1,801	2,169	1,833	1,747	2,378	24,449
精神科	229	251	224	244	240	244	155	192	219	204	53	242	2,497
糖尿病・内分泌代謝内科	978	878	1,047	1,047	1,017	1,007	982	924	1,043	1,046	975	1,049	11,993
乳腺甲状腺科	313	275	269	358	302	288	315	343	302	289	264	313	3,631
脳神経外科	1,118	982	1,147	1,060	1,072	1,106	1,098	986	1,094	1,013	925	1,242	12,843
泌尿器科	408	397	471	385	479	459	428	474	520	425	472	526	5,444
皮膚科	346	367	434	365	424	357	351	289	301	308	313	362	4,217
婦人科	696	640	768	706	683	656	693	702	738	621	638	702	8,243
もの忘れ科	188	169	187	178	195	187	178	221	183	190	198	181	2,255
リウマチ・アレルギー科	280	271	293	289	257	295	286	241	282	263	248	301	3,306
小児外科	29	35	38	45	44	58	45	57	54	49	40	69	563
合計	14,296	13,241	15,188	14,601	14,811	14,696	14,191	13,840	15,337	13,559	12,843	15,683	172,286

【人事】

氏　名	役　　職	診　療　科	勤　務
飯田　啓治	筑波総合クリニック管理者	循環器内科	常（CL）
小林　栄喜	筑波総合クリニック名誉院長	脳神経外科	常（CL）
木村　隆治		血液内科	非（CL）
松野　洋輔		呼吸器内科	非（CL）
宮内　　卓		循環器内科	非（CL）
阿部　　涼		消化器内科	非（CL）
安部　計雄		消化器内科	非（CL）
重田早紀子		消化器内科	非（CL）
戸村　成男		腎臓内科	非（CL）
角田　亮也		腎臓内科	非（CL）
松島　照彦		糖尿病・内分泌代謝内科	非（CL）
竹越　一博		糖尿病・内分泌代謝内科	非（CL）
藤田　利枝		糖尿病・内分泌代謝内科	非（CL）
石垣　直美		糖尿病・内分泌代謝内科	非（CL）
松田ひとみ		糖尿病・内分泌代謝内科	非（CL）
川堀　健一		糖尿病・内分泌代謝内科	非（CL）
近藤　裕也		リウマチ・アレルギー科	非（CL）
寺崎　真由		リウマチ・アレルギー科	非（CL）
本田　文香		リウマチ・アレルギー科	非（CL）
東田　俊彦	筑波記念会　顧問	一般内科	非（CL）
斉藤　　剛		一般内科	非（CL）
久野　遥加		一般内科	非（CL）
品川　樹美		眼科	非（CL）
岡田　朋之		形成外科	非（CL）
佐藤沙喜子		呼吸器外科	非（CL）
柳園　昂太		耳鼻咽喉科	非（CL）
下田　　貢		消化器外科	非（CL）
山田衣里佳		消化器外科	非（CL）
黒田　　純		消化器外科	非（CL）
鶴井　一茂		消化器外科	非（CL）
三島　　初		整形外科	非（CL）
金森　章浩		整形外科	非（CL）
菅谷　　久		整形外科	非（CL）
兵頭康次郎		整形外科	非（CL）
相吉　悠治		乳腺甲状腺外科	非（CL）
原　　尚人		乳腺甲状腺外科	非（CL）
安藤有佳里		乳腺甲状腺外科	非（CL）
松尾　知平		乳腺甲状腺外科	非（CL）
井原　　哲		脳神経外科	非（CL）
中村　和弘		脳神経外科	非（CL）
増田　洋亮		脳神経外科	非（CL）
髙田　麻耶		脳神経外科	非（CL）
秋本　　健		脳神経外科	非（CL）
渡辺ちひろ		脳神経外科	非（CL）
宮本　信也		小児科	非（CL）
堀米　ゆみ		小児科	非（CL）
沼倉　泰二		精神科	非（CL）
頴川　　晋		泌尿器科	非（CL）
内田　将央		泌尿器科	非（CL）
鴨田　直博		泌尿器科	非（CL）
占部　文彦		泌尿器科	非（CL）
岡田　充生		泌尿器科	非（CL）
岩本　侑也		泌尿器科	非（CL）
田中　隆造		泌尿器科	非（CL）
田中　未知		皮膚科	非（CL）

つくばトータルヘルスプラザ

【総括】

1．2022 年度の実績報告

2022 年度も引き続き新型コロナウイルス感染症の影響を受けながらの営業となったが、徹底した感染予防対策、時間配分等を行いながら、人間ドック受診者数は年間 13,014 名と前年比 103.3%、415 名の増加となった。院内健診も年間 17,278 名と前年比 104%、659 名の増加となった。巡回健診においては前年比 98.7%で 222 名の減少となったが、全体的にコロナ禍前より受診者数を増やすことができ、開業以来過去最高の受診者数を達成することができた。

検査においては、昨年度も実施することができなかった呼吸機能検査を専用の個室を準備することで、感染対策を行いながら再開させることができた。胃内視鏡検査においては、今まで経口検査のみ実施していたが、以前から経鼻検査のご要望が多数あり、新しく経鼻内視鏡の検査機器を購入、胃内視鏡専用の部屋も 1 部屋増やし、2022 年 10 月からは経口・経鼻どちらの内視鏡検査を実施するか、受診者のご希望により選べることができるようになった。

フェニックスにおいては、引き続き感染予防対策を行いながら徐々に施設利用できる時間を拡大していき、2023 年 1 月からは最大 3 時間まで利用可能とした。様々なイベント等を企画実行し、広報活動にも力を入れた。徐々に利用者数、売上ともに回復傾向となり、2022 年度の年間延べ利用者数は前年と比較し 133.2%、2,276 名の増加となった。

学会活動については、第 63 回人間ドック学会学術大会で事務部門より発表することができた。講演活動については、医師、保健師、理学療法士、トレーナー等が継続して行った。

2．2023 年度の課題・目標

胃内視鏡検査の受診希望者が多数いるため、受診枠の拡大に努めたい。また、新規オプション検査を検討し、導入を目指す。フェニックスでは新しいトレーニングマシンを導入し、営業時間の延長や施設利用時間の拡大を図り、利用者の満足度向上に努める。引き続き広報活動にも力を入れ、利用者数の増加を目指す。学会活動については、引き続き日本総合健診医学会および人間ドック学会に演題発表を行っていく。

［ 文責：風野和之 ］

【人事】

氏　名	役　　職	診　療　科	勤　務
中原　　朗	つくばトータルヘルスプラザ施設長	消化器内科	常（HP）
山根　一秀	つくばトータルヘルスプラザ顧問	リウマチ・アレルギー科	常（HP）
本橋　　歩	つくばトータルヘルスプラザ副施設長	消化器内科	常（HP）
小松あかね	つくばトータルヘルスプラザ副施設長	婦人科	常（HP）
設楽佐代子		消化器内科	常（HP）
清水　郁子		代謝内科	常（HP）
安部　佳亮		血液内科	非（THP）
上原　　惇		血液内科	非（THP）
木村　隆治		血液内科	非（THP）
清木　祐介		血液内科	非（THP）
栗田　尚樹		血液内科	非（THP）
丸山ゆみ子		血液内科	非（THP）
植野　孝博		呼吸器内科	非（THP）
大塚　盛男		呼吸器内科	非（THP）
末松　由愛		耳鼻咽喉科	非（THP）
小田　優香		循環器内科	非（THP）
朽津　駿介		循環器内科	非（THP）
黒田　裕和		循環器内科	非（THP）
宮内　　卓		循環器内科	非（THP）
芳賀　厚子		循環器内科	非（THP）
中森　　容		消化器内科	非（THP）
福田由紀子		消化器内科	非（THP）
岡田　純代		代謝内科	非（THP）
江辺　厚子		内科	非（THP）
島　さつき		内科	非（THP）
廣瀬　千尋		内科	非（THP）
柳　　久子		内科	非（THP）
中村　優子		婦人科	非（THP）
小竹　文雄		放射線科	非（THP）

【業務実績】

人間ドック、健康診断受診者数

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
人間ドック	日帰り	508	889	1,283	1,181	1,188	1,211	1,251	1,167	1,151	911	943	658	12,344
	一泊	0	0	0	0	1	1	0	0	0	2	2	0	6
	脳ドック	5	32	46	46	53	39	29	43	49	12	25	26	405
	レディース	8	12	20	22	33	27	31	30	40	36	24	43	326
ドック		762	903	1,329	1,220	1,230	1,245	1,287	1,204	1,207	949	969	709	13,014
院内健診		622	1,154	1,722	1,683	1,542	1,575	1,600	1,680	1,631	1,456	1,385	1,228	17,278
巡回健診		1,865	1,879	1,970	1,665	1,711	1,130	1,682	1,794	685	239	1,118	479	16,217

検査別実施件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
胃内視鏡検査	278	327	372	314	368	355	337	346	346	323	304	293	3,963
乳腺エコー検査	281	327	584	558	652	596	652	642	643	585	567	396	6,483
マンモグラフィ検査	156	230	485	486	463	491	503	501	482	474	448	302	5,021
子宮細胞診検査	263	412	839	832	792	825	832	799	780	720	739	545	8,378

部位別精検指示及び実施者数

		胃部X線	胃内視鏡	胸部X線	心電図	便	腹部超音波	乳房	子宮細胞診
精検指示者数	2021年度	889	105	481	589	1,272	337	363	146
	2022上半期	478	51	257	334	616	184	185	49
精検実施者数	2021年度	365	98	246	140	649	281	242	121
	2022上半期	239	39	137	93	276	152	120	40

フェニックス延べ来館者数

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
633	604	753	770	809	743	831	787	712	728	828	943	9,141

筑波記念病院
TSUKUBA MEMORIAL HOSPITAL

介護老人保健施設　つくばケアセンター

【総括】

今年度は、年度始めと年末に新型コロナの感染者が出てしまい、全てのサービス提供が制限または中止となってしまったが、実績としては１日平均利用者数として、入所利用者と訪問リハビリテーションがほぼ横ばい、通所リハビリテーションが 1.3 人増加となった。

訪問リハビリテーションでは訪問サービス向けケア記録支援ソフトを導入し、業務の効率化を図り、デイケアでは体験通所リハビリテーションを開始した。また介護師に外国人技能実習生を新たに１名採用した。

来年度は、筑波記念グループ内の連携を強化し稼働率を上げていく。その一方で利用者さん及びご家族さんたちの満足度を上げる工夫をしていきたい。

［文責：大坂恒司］

【実績】

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
入　　所	95	92	91	95	95	95	98	96	100	103	101	99	1,160
ショートステイ（予防含む）	16	1	12	21	18	28	23	8	14	14	17	20	192
通所リハビリ（予防含む）	94	92	94	94	92	91	91	85	83	87	86	88	1,077
訪問リハビリ（予防含む）	314	318	325	325	317	319	334	322	315	315	310	308	3,822

【資格保有者数】

看護師	10 名
准看護師	3 名
介護福祉士	28 名
社会福祉士	1 名
ケアマネージャー	6 名
理学療法士	26 名
作業療法士	13 名
言語聴覚士	5 名

（2022 年 4 月 1 日現在）

【年間行事】

	行事内容
4 月	お花見会
5 月	母の日会（中止）
6 月	父の日会
7 月	七夕会
8 月	納涼祭
9 月	祝壽会
10 月	運動会
11 月	紅葉会（中止）
12 月	クリスマス会
1 月	新年会
2 月	豆まき会
3 月	ひな祭り会

筑波記念病院
TSUKUBA MEMORIAL HOSPITAL

つくば訪問看護ステーション

【総括】

1．2022 年度の実績報告

看護師 10 名、作業療法士 1 名、事務 1 名で稼働した。

病院内では、感染症対策重視の医療情勢上、面会が出来ない事などもあり、住み慣れた家で家族と共に過ごしたいと考える患者本人や家族が多く、退院時に訪問看護が介入するケースが多くあった。

しかし、延べ訪問件数は、昨年度の 5,317 件より 1,571 件増加し 6,888 件、利用者実数も 1,040 人から 1,117 人へと 77 人増加した。在宅医療への転換が提唱され、その中で訪問看護は重要な役割を担っており、訪問看護運営を変革していくにあたり、地域の方々のニーズに答えるため、2021 年度から人材育成に尽力した結果と考える。

また、地域医療連携室、地域包括ケア病棟、救急センター、クリニック、ケアセンター等、同法人内での連携を十分とり、地域と病院とのスムーズな繋がりのシステム作りを実現していく必要があると考えている。地域の医療機関、居宅介護支援事業所等と密に連携を図り、信頼を獲得し、その上で、利用者を確実に確保、維持できる地域密着型のサテライト運営も視野に入れた基盤作りを行った。

2．2023 年度の課題・目標

訪問看護事業拡大に向け、訪問範囲半径 10km 圏内の利用者を増やしスマートに動けるように基盤作りを行い、主治医、地域の医療福祉関係者との連携を密に行い、サテライト運営も視野に入れた安定した運営を実現させる。

その人なりの在宅療養が継続できるよう、自立支援、生活指導、相談を重視し、育成したスタッフの質の高い看護を十分に発揮できるよう運営する。

レスパイト入院、ターミナル期、医療依存度の高い患者の積極的な受け入れ等を母体となる病院と密に連携をとり、地域と病院との架け橋的な役割を発揮できるように運営する。

訪問件数目標 8,000 件以上を目指す。

［ 文責：市川理恵子 ］

【業務実績】

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
2021 年度延べ訪問件数	518	441	468	430	447	427	439	437	460	402	391	457	5,317
2022 年度延べ訪問件数	447	441	510	500	599	564	538	616	697	635	610	731	6,888
2021 年度利用者実数	95	92	91	83	86	85	86	85	85	85	81	86	1,040
2022 年度利用者実数	90	91	94	93	98	94	91	92	92	92	94	96	1,117

筑波記念病院
TSUKUBA MEMORIAL HOSPITAL

大穂豊里地域包括支援センター

【総括】

1．2022 年度の実績

開設４年目を迎えた。職員は主任介護支援専門員（センター長兼務）１名、社会福祉士２名、保健師１名の４名体制で総合相談支援業務や介護予防事業、介護予防支援業務等に対応した。

〈成果〉

●地域包括支援センター定例会での課題共有や新たなネットワーク構築を図り、総合相談支援の機能強化を図ることができた。

●地域の介護支援専門員との良好な関係を保ち、相互の連携を強化することができた。

●生活支援体制整備事業に参画し、地域課題の解決に向けた取り組みに協力することができた。

●オレンジカフェを毎月開催し、地域住民の居場所づくりや介護者家族支援に取り組んだ。また、市全体の認知症に関する課題への取り組みに参加協力できた。

〈評価〉

●総合相談支援においては引き続き地域から多くの相談が入り、対応することができた。地域への認知度も更に上がってきていることを実感している。

●つくば市が実施する各事業へ積極的に参画し、センターの周知や事業啓発を進めることができた。

●圏域別ケア会議を定期的に開催でき、地域課題の抽出や専門職間のネットワーク構築を図ることができた。

●新型コロナウイルス感染症拡大の影響で職員が少ない状況で業務を進めざるを得ないこともあったが、センター内や市包括と連携を図り業務を遂行することができた。

●他分野での研修にオンライン等で参加し、自己啓発や情報共有ができた。

2．2023 年度の課題・目標

●総合相談での継続見守り対象者が増えていること、日々新規相談が入ることで、経過確認やフォローアップ訪問が十分にできないこともある。

●感染症拡大の影響で、地域の集まりの機会が減っており、センターとして出向いていく機会が少ない。積極的な出前講座等も実施できていない。

●地域や介護支援専門員からの相談の傾向や、地域ケア会議で抽出された課題をより具体的に分析し、圏域で取り組める対策を検討し実践していく必要がある。

〈今後の取組方針〉

●相談履歴からの地域課題の傾向を分析し、圏域で取り組める地域づくりについて具体的に検討していく。

●介護支援専門員への情報発信を積極的に行い、日頃の情報共有や災害時などの協力体制など、地域の介護支援専門員との連携体制をつくる。

●介護予防の観点から早期対応ができるよう、お元気訪問や継続訪問等の実態把握を積極的に実施していく。

●認知症や介護予防に関する出前講座を積極的に企画開催する。

●認知症カフェの実施を継続し、参加者の拡大や内容の充実を図る。

【業務実績】

〈主な事業実績〉

□地域包括支援センターの広報活動

『大穂豊里地域包括支援センターだより』を7月・10月・3月に作成、訪問時や地域支えあい会議、ふれあい相談員懇談会、認知症カフェ、地域ケア会議等で配布し、センターの役割や活動内容を周知

□大穂豊里圏域ケア会議を活用した地域の関係者や関係機関との連携

2ヵ月毎に開催した大穂豊里圏域ケア会議は参集型で1回開催、その他はオンライン開催

参加者　延145人（月平均　約24人）

□総合相談支援

- 相談者実数　429人、 相談延件数　2,544件
- つくば市地域包括支援センター定例会に参加、他のセンターとの情報や課題共有
- 市内地域包括支援センター3職種別ミーティングに参加、職種ごとの情報交換やスキルアップを図った。

□権利擁護業務

- 虐待に関する相談件数（虐待防止も含む）　実相談数7件、延14件
- つくば市虐待防止ネットワーク実務者会議への参加

□地域における介護支援専門員のネットワークの活用

- つくばケアマネジャー連絡会に参加協力
- 介護支援専門員からの個別相談　247件（月平均　約20.5件）

□市における各事業への参画

- 在宅医療・介護連携推進事業
- 生活支援体制整備事業
- 一般介護予防事業

□指定介護予防支援事業

- 請求件数：2,118件／年（月平均176件／介護予防支援1,220件／介護予防ケアマネジメント898件）
- 自センターでのケアプラン作成：　8～9件／月

□認知症総合支援事業

- 認知症カフェ（オレンジカフェ in おおほ）を毎月開催
  参加延人数　90名（内　本人22名　その他68名）（月平均7～8名参加）

［文責：井ノ口美樹子］

筑波記念病院
TSUKUBA MEMORIAL HOSPITAL

筑波記念病院　統　計

患　者　統　計

科別外来患者数

	年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合　計
循環器内科	2021	135	125	123	130	119	125	117	125	157	167	120	156	1,599
	2022	163	153	106	110	108	91	174	157	172	149	127	88	1,598
消化器内科	2021	781	655	813	878	843	778	919	903	856	805	731	903	9,865
	2022	858	795	961	1,005	1,022	973	948	892	928	845	830	855	10,912
血液内科	2021	536	561	526	565	615	594	578	631	655	558	589	622	7,030
	2022	709	648	705	709	675	660	695	726	708	826	652	716	8,429
神経内科	2021	15	30	30	37	49	36	23	39	34	29	31	26	379
	2022	58	57	55	61	57	57	51	61	77	55	58	40	687
代謝内科	2021	25	32	34	30	26	31	52	51	58	41	34	44	458
	2022	27	34	41	47	47	44	46	50	45	41	35	29	486
呼吸器内科	2021	69	80	72	77	98	107	62	78	87	137	79	83	1,029
	2022	102	155	86	108	88	91	87	84	245	238	112	95	1,491
消化器外科	2021	111	104	119	118	113	96	107	123	134	133	107	128	1,393
	2022	115	147	119	127	99	122	100	92	131	143	118	125	1,438
呼吸器外科	2021	32	32	40	45	34	26	10	19	19	30	14	19	320
	2022	34	34	17	22	18	12	25	21	39	27	15	21	285
心臓血管外科	2021	142	133	167	146	188	168	186	228	232	193	129	190	2,102
	2022	200	186	186	222	226	239	267	188	226	211	152	225	2,528
脳神経外科	2021	102	65	93	116	99	110	124	83	137	107	75	120	1,231
	2022	68	79	93	86	79	115	87	76	94	100	87	78	1,042
整形外科	2021	96	142	92	142	147	80	79	78	86	86	84	103	1,215
	2022	85	101	112	143	137	94	74	68	84	96	84	66	1,144
婦 人 科	2021	25	24	30	23	32	27	17	22	17	25	31	34	307
	2022	26	11	22	25	30	27	26	23	15	18	31	20	274
眼　　科	2021	12	15	18	15	10	13	18	27	19	15	17	26	205
	2022	18	24	18	15	20	15	24	18	22	16	20	17	227
耳鼻咽喉科	2021	30	30	49	28	36	34	43	44	54	55	30	37	470
	2022	55	53	58	42	46	47	51	44	47	30	37	37	547
皮 膚 科	2021	0	0	2	1	3	2	2	4	3	1	3	1	22
	2022	1	1	1	1	2	0	1	1	2	0	0	1	11
小 児 科	2021	209	228	209	399	412	469	329	339	504	405	340	473	4,316
	2022	321	301	382	378	463	355	446	421	442	317	418	546	4,790
小児外科	2021	4	8	4	15	12	10	15	7	6	8	7	16	112
	2022	10	8	6	10	9	8	11	5	6	4	9	11	97
精 神 科	2021	94	85	77	90	87	91	84	74	71	77	72	80	982
	2022	72	86	85	73	79	106	80	86	101	78	76	108	1,030
麻 酔 科	2021	76	70	77	82	81	74	77	95	81	92	82	74	961
	2022	58	90	95	97	81	71	93	102	65	82	79	90	1,003
放射線科	2021	39	38	38	35	23	18	39	46	52	32	28	38	426
	2022	27	38	57	55	41	68	65	52	59	42	77	50	631
リハビリテーション科	2021	1,049	959	1,234	1,017	1,129	1,081	1,298	1,270	1,108	1,048	1,002	1,138	13,333
	2022	1,157	1,114	1,342	1,224	1,350	1,416	1,408	1,297	1,282	1,153	1,265	1,398	15,406

リウマチ・アレルギー科	2021	1	0	1	1	2	4	4	2	5	3	4	3	30
	2022	2	2	3	1	4	3	4	1	4	2	2	3	31
形成外科	2021	13	8	28	16	23	18	12	13	12	13	7	12	175
	2022	20	16	12	26	26	21	13	9	16	4	16	9	188
腎臓内科	2021	6	8	8	10	6	9	13	4	9	5	8	10	96
	2022	12	9	11	8	15	15	8	6	6	5	5	11	111
乳腺甲状腺外科	2021	123	119	129	147	135	118	153	159	139	126	112	135	1,595
	2022	137	95	129	139	137	133	121	161	138	114	112	138	1,554
泌尿器科	2021	20	27	46	32	34	47	47	38	60	31	37	55	474
	2022	43	21	45	39	35	43	56	46	48	39	35	47	497
内　　科	2021	7	7	4	4	6	14	10	15	9	15	9	3	103
	2022	42	40	46	61	44	53	50	28	59	40	48	22	533
一般外科	2021	129	133	146	150	105	114	117	112	112	109	83	109	1,419
	2022	99	107	95	84	69	75	82	56	85	22	10	16	800
救　　急	2021	103	62	101	154	162	129	121	127	163	110	75	136	1,443
	2022	108	95	165	174	184	112	174	107	190	155	123	106	1,693
合　　計	2021	3,984	3,780	4,310	4,503	4,629	4,423	4,656	4,756	4,879	4,456	3,940	4,774	53,090
	2022	4,627	4,500	5,053	5,092	5,191	5,066	5,267	4,878	5,336	4,852	4,633	4,968	59,463

救急車搬送患者記録

		年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合　計
患者数（搬送台数）		2021	267名	270名	280名	351名	409名	337名	333名	384名	348名	304名	237名	366名	3,886名
			265台	266台	278台	350台	406台	336台	330台	381台	348台	303台	236台	361台	3,860台
		2022	370名	408名	405名	463名	496名	399名	461名	289名	478名	472名	382名	434名	5,057名
			369台	405台	403台	459台	492台	398台	456台	287台	476台	470台	380台	434台	5,029台
症度別	入　院	2021	138名	139名	134名	146名	182名	156名	150名	168名	158名	140名	106名	160名	1,777名
			51.7%	51.5%	47.9%	41.6%	44.5%	46.3%	45.0%	43.8%	45.4%	46.1%	44.7%	43.7%	45.7%
	外　来		129名	131名	146名	205名	227名	181名	183名	216名	190名	164名	131名	206名	2,109名
			48.3%	48.5%	52.1%	58.4%	55.5%	53.7%	55.0%	56.3%	54.6%	53.9%	55.3%	56.3%	54.3%
	入　院	2022	154名	156名	144名	167名	182名	182名	176名	116名	169名	176名	164名	185名	1,971名
			41.6%	38.2%	35.6%	36.1%	36.7%	45.6%	38.2%	40.1%	35.4%	37.3%	42.9%	42.6%	39.0%
	外　来		216名	252名	261名	296名	314名	217名	285名	173名	309名	296名	218名	249名	3,086名
			58.4%	61.8%	64.4%	63.9%	63.3%	54.4%	61.8%	59.9%	64.6%	62.7%	57.1%	57.4%	61.0%
診療科別	内科系	2021	103名	112名	116名	134名	155名	133名	131名	144名	117名	105名	126名	142名	1,518名
			38.6%	41.5%	41.4%	38.2%	37.9%	39.5%	39.3%	37.5%	33.6%	34.5%	53.2%	38.8%	39.1%
	外科系		65名	72名	71名	92名	89名	73名	63名	108名	72名	78名	39名	64名	886名
			24.3%	26.7%	25.4%	26.2%	21.8%	21.7%	18.9%	28.1%	20.7%	25.7%	16.5%	17.5%	22.8%
	救急科		99名	86名	93名	125名	165名	131名	139名	132名	159名	121名	72名	160名	1,482名
			37.1%	31.9%	33.2%	35.6%	40.3%	38.9%	41.7%	34.4%	45.7%	39.8%	30.4%	43.7%	38.1%
	内科系	2022	171名	183名	185名	216名	236名	202名	185名	139名	208名	236名	168名	185名	2,314名
			46.2%	44.9%	45.7%	46.7%	47.6%	50.6%	40.1%	48.1%	43.5%	50.0%	44.0%	42.6%	45.8%
	外科系		73名	119名	65名	81名	86名	89名	99名	56名	94名	83名	92名	101名	1,038名
			19.7%	29.2%	16.0%	17.5%	17.3%	22.3%	21.5%	19.4%	19.7%	17.6%	24.1%	23.3%	20.5%
	救急科		126名	106名	155名	166名	174名	108名	177名	94名	176名	153名	122名	148名	1,705名
			34.1%	26.0%	38.3%	35.9%	35.1%	27.1%	38.4%	32.5%	36.8%	32.4%	31.9%	34.1%	33.7%
交通事故		2021	33名	16名	34名	19名	26名	18名	31名	26名	26名	14名	11名	24名	278名
			12.4%	5.9%	12.1%	5.4%	6.4%	5.3%	9.3%	6.8%	7.5%	4.6%	4.6%	6.6%	7%
		2022	26名	30名	22名	25名	34名	19名	39名	27名	25名	18名	31名	32名	328名
			7.0%	7.4%	5.4%	5.4%	6.9%	4.8%	8.5%	9.3%	5.2%	3.8%	8.1%	7.4%	6.5%

ドクターヘリ搬送患者数

年　度	合　計
2021	9名
2022	5名

平均在院日数（一般病床）

	年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平　均
循環器内科	2021	11.2	13.6	10.6	11.7	9.5	12.5	10.5	12.5	12.2	12.8	14.3	13.3	12.1
	2022	15.0	20.0	12.5	9.9	15.7	12.4	10.7	12.6	13.6	13.2	15.1	15.6	13.9
消化器内科	2021	10.3	10.6	11.7	10.8	12.4	13.3	11.0	10.5	9.9	13.7	15.1	11.2	11.7
	2022	10.1	11.7	13.2	10.6	10.7	12.4	12.2	10.5	11.3	13.4	11.3	12.6	11.7
血液内科	2021	17.5	21.4	18.2	15.3	18.3	16.5	17.6	15.6	15.2	22.2	19.3	17.8	17.9
	2022	14.3	16.4	18.9	16.4	17.7	18.0	16.7	22.4	17.5	22.2	17.5	17.8	18.0
神経内科	2021	13.8	17.6	18.0	14.9	17.5	12.3	23.9	17.6	23.0	38.2	49.8	30.8	23.1
	2022	29.7	29.6	35.2	18.5	15.8	18.8	20.8	22.1	16.7	19.1	22.0	12.9	21.8
代謝内科	2021	31.6	10.0	8.2	14.6	20.8	18.0	15.5	3.5	8.4	12.0	21.6	12.5	14.7
	2022	9.5	8.8	20.0	20.4	8.8	18.7	19.4	28.7	15.0	23.7	31.2	62.0	22.2
呼吸器内科	2021	14.7	14.2	16.1	15.3	12.4	14.5	17.0	12.0	16.9	13.4	16.4	13.2	14.7
	2022	10.9	18.8	12.8	13.3	13.1	15.7	13.9	14.8	14.3	16.3	14.9	14.9	14.5
消化器外科	2021	12.6	13.3	15.0	18.0	14.2	17.7	15.7	10.3	15.5	14.9	13.6	12.7	14.5
	2022	19.5	14.4	13.1	15.6	15.2	13.4	10.5	10.7	15.1	16.0	11.1	10.7	13.8
呼吸器外科	2021	14.3	12.2	10.8	9.2	9.2	10.9	13.8	13.2	10.3	8.0	7.1	4.9	10.3
	2022	7.8	20.2	15.0	8.5	16.3	14.8	13.0	9.2	19.6	13.7	16.4	13.4	14.0
心臓血管外科	2021	9.3	10.9	11.8	15.8	10.1	13.6	13.0	9.8	13.9	17.8	19.6	13.8	13.3
	2022	19.0	19.6	15.2	15.0	16.8	14.1	13.4	15.0	19.0	21.2	16.6	18.7	17.0
脳神経外科	2021	16.3	16.5	14.2	19.3	20.2	17.5	24.4	20.6	20.0	21.4	20.5	21.3	19.4
	2022	22.7	21.2	18.1	16.2	13.4	15.5	13.6	18.1	16.3	18.4	18.3	15.5	17.3
整形外科	2021	17.2	19.4	22.1	19.7	16.1	21.0	19.1	18.0	19.9	18.1	19.6	19.1	19.1
	2022	22.0	19.1	19.1	21.3	19.6	21.4	23.3	21.4	20.6	19.5	20.8	18.8	20.6
婦 人 科	2021	6.5	5.2	7.4	6.2	5.3	5.9	6.7	7.0	6.0	5.0	7.4	4.8	6.1
	2022	6.2	9.4	5.8	7.3	6.4	11.6	7.8	4.9	5.2	5.3	5.8	6.5	6.9
眼　　科	2021	1.3	1.0	1.0	1.0	3.4	1.0	1.5	1.4	2.0	1.0	2.7	1.3	1.6
	2022	2.0	2.5	1.3	9.9	1.5	2.0	1.0		3.0	1.7		1.0	2.6
耳鼻咽喉科	2021	3.7	6.7	5.1	6.4	6.8	5.6	7.9	6.0	5.7	6.8	11.3	9.3	6.8
	2022	5.4	6.2	5.1	6.5	4.3	8.3	5.0	6.2	4.4	8.9	5.3	6.3	6.0
形成外科	2021	19.0	31.3	27.0	16.9	15.8	15.8	11.0	8.6	6.5	12.3	25.9	13.7	17.0
	2022	18.5	27.3	6.8	24.0	36.3	20.0	17.0	14.5	11.5	6.8	7.0	6.9	16.4
救 急 科	2021	9.1	9.8	8.3	5.4	9.5	9.6	9.0	7.0	7.4	7.4	11.4	9.5	8.6
	2022	6.4	8.6	7.4	6.0	5.2	7.0	7.6	11.4	6.2	10.4	8.9	6.6	7.6
合　　計	2021	13.0	14.2	13.9	13.9	13.6	14.8	14.7	13.4	14.0	15.7	17.4	14.8	14.5
	2022	15.3	15.6	14.7	13.8	14.1	15.5	14.0	15.1	14.8	16.4	14.9	14.6	14.9

※回復期リハ、療養病棟を除く

入院延べ患者数

	年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合　計
循環器内科	2021	729	1,097	964	1,020	850	1,014	1,157	1,150	1,113	1,424	1,172	1,211	12,901
	2022	1,203	1,427	1,222	979	1,026	805	927	936	873	1,260	1,248	1,385	13,291
消化器内科	2021	1,193	1,354	1,537	1,568	1,487	1,502	1,584	1,341	1,272	1,514	1,328	1,398	17,078
	2022	1,264	1,348	1,422	1,532	1,480	1,666	1,500	1,196	1,347	1,341	1,391	1,704	17,191
血液内科	2021	834	980	861	954	1,147	1,082	1,120	1,154	1,082	961	809	835	11,819
	2022	892	887	1,064	989	856	854	825	833	742	1,006	839	890	10,677
神経内科	2021	75	188	289	272	360	131	260	327	537	538	410	270	3,657
	2022	863	826	824	807	742	625	730	637	594	634	578	502	8,362
代謝内科	2021	79	75	76	73	144	146	135	102	119	24	54	50	1,077
	2022	19	48	61	51	48	56	87	86	120	128	97	93	894
呼吸器内科	2021	480	772	699	689	858	900	697	667	749	697	715	840	8,763
	2022	558	722	617	720	760	651	682	664	615	843	901	977	8,710
消化器外科	2021	515	550	556	509	663	600	461	478	605	497	499	551	6,484
	2022	580	578	599	632	470	408	297	390	636	523	463	504	6,080
呼吸器外科	2021	171	236	217	191	102	147	144	186	180	113	66	31	1,784
	2022	82	118	120	131	130	216	234	119	136	149	137	168	1,740
心臓血管外科	2021	295	314	420	448	436	471	384	406	615	620	393	489	5,291
	2022	626	525	532	558	436	369	512	519	634	584	530	489	6,314
脳神経外科	2021	1,282	1,526	1,266	1,508	1,752	1,678	1,865	1,694	1,989	1,956	1,719	2,118	20,353
	2022	1,443	1,387	1,044	998	966	1,057	879	1,006	958	1,213	1,149	1,350	13,450
整形外科	2021	1,302	1,836	2,181	2,211	2,281	2,397	2,361	2,203	2,331	1,945	1,935	2,234	25,217
	2022	2,142	1,998	2,221	2,285	2,115	2,194	2,174	2,019	2,193	2,147	2,085	2,331	25,904
婦 人 科	2021	35	14	60	43	44	45	51	30	20	12	24	25	403
	2022	36	18	23	47	60	75	55	29	13	21	20	27	424
眼　　科	2021	55	54	55	56	38	37	60	34	51	34	41	67	582
	2022	51	52	74	86	11	56	67	56	26	61	55	55	650
耳鼻咽喉科	2021	20	86	76	76	107	92	86	60	101	110	46	127	987
	2022	95	55	61	75	45	58	82	40	52	86	71	80	800
リハビリテーション科	2021	815	1,095	1,319	1,389	1,280	1,295	1,443	1,267	1,386	1,746	1,569	1,681	16,285
	2022	1,569	1,795	1,738	1,832	1,865	1,811	1,805	1,424	1,347	1,430	1,140	1,219	18,975
形成外科	2021	124	185	233	175	166	135	84	89	65	135	175	162	1,728
	2022	167	160	105	126	154	172	164	125	157	132	114	75	1,651
一般外科	2021	96	69	83	167	127	110	134	123	246	202	162	166	1,685
	2022	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
救 急 科	2021	152	213	208	132	249	201	186	168	242	194	130	158	2,233
	2022	106	135	156	149	193	153	225	193	185	191	123	112	1,921
小児外科	2021	1	8	24	18	17	8	6	4	14	10	26	9	145
	2022	13	3	14	9	13	14	3	6	7	20	4	19	125
合　　計	2021	8,253	10,652	11,124	11,499	12,108	11,991	12,218	11,483	12,717	12,732	11,273	12,422	138,472
	2022	11,709	12,082	11,897	12,006	11,370	11,240	11,248	10,278	10,635	11,769	10,945	11,980	137,159

新入院患者数

	年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合　計
循環器内科	2021	62	65	66	52	55	61	79	67	64	75	62	70	778
	2022	67	58	59	60	52	44	73	63	52	78	62	70	738
消化器内科	2021	101	99	95	114	98	86	109	91	93	95	72	101	1,154
	2022	100	112	97	128	127	121	96	82	94	84	101	111	1,253
血液内科	2021	52	43	46	68	58	60	66	71	51	43	39	47	644
	2022	59	54	59	58	50	46	51	26	40	53	44	52	592
神経内科	2021	4	8	15	12	16	7	7	10	13	10	4	3	109
	2022	19	17	14	15	19	20	17	13	17	17	13	17	198
代謝内科	2021	3	4	5	8	4	3	3	4	8	2	3	3	50
	2022	2	5	5	1	5	3	5	2	6	4	2	1	41
呼吸器内科	2021	33	43	38	35	64	39	27	45	32	40	36	41	473
	2022	40	30	43	46	50	33	43	32	35	48	43	51	494
消化器外科	2021	39	34	41	30	38	30	29	41	40	34	33	51	440
	2022	29	41	48	45	31	34	25	47	49	33	36	40	458
呼吸器外科	2021	7	11	11	15	6	13	7	11	10	11	10	7	119
	2022	8	10	7	15	9	16	15	11	12	11	10	13	137
心臓血管外科	2021	40	32	40	37	35	39	36	43	47	40	21	45	455
	2022	38	36	44	37	32	41	51	40	34	34	31	24	442
脳神経外科	2021	40	48	43	48	48	54	47	49	58	61	47	62	605
	2022	33	39	33	35	44	38	42	36	28	41	37	48	454
整形外科	2021	81	75	68	77	104	80	81	88	72	89	76	87	978
	2022	62	80	83	76	82	75	81	72	78	83	80	83	935
婦 人 科	2021	11	3	9	10	8	8	9	5	5	4	6	6	84
	2022	7	5	7	7	9	7	8	5	2	4	3	5	69
眼　　科	2021	22	24	20	22	8	15	25	16	17	16	19	24	228
	2022	20	21	24	23	6	20	32	21	14	25	23	20	249
耳鼻咽喉科	2021	4	13	13	10	15	17	10	9	19	16	3	12	141
	2022	14	8	12	11	9	7	13	5	11	11	13	13	127
リハビリテーション科	2021	5	13	14	6	5	23	7	5	8	13	16	15	130
	2022	9	10	18	13	14	8	14	8	15	8	8	13	138
形成外科	2021	6	5	8	5	9	7	5	8	9	14	4	9	89
	2022	5	5	9	3	5	8	8	7	9	12	11	8	90
一般外科	2021	3	3	7	7	4	7	8	10	13	4	5	5	76
	2022	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
救 急 科	2021	24	27	29	29	32	30	27	30	39	30	14	20	331
	2022	17	21	25	23	25	24	35	17	32	22	15	21	277
小児外科	2021	1	1	2	3	4	3	0	1	2	2	4	2	25
	2022	2	1	6	4	4	7	3	4	4	6	3	9	53
合計	2021	538	551	570	588	611	582	582	604	600	599	474	610	6,909
	2022	531	553	593	600	573	552	612	491	532	574	535	599	6,745

手術件数（入院・外来）

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合　計
循環器内科	入院	27	31	30	23	37	27	38	29	22	25	30	42	361
	外来	0	1	0	0	0	1	1	1	0	0	0	0	4
消化器内科	入院	53	66	51	45	54	61	62	51	55	45	57	71	671
	外来	52	58	71	65	67	73	70	77	61	58	75	66	793
消化器外科	入院	32	49	48	55	37	43	29	47	46	37	40	45	508
	外来	2	8	5	4	2	3	3	3	1	6	7	3	47
呼吸器外科	入院	6	8	5	7	3	6	11	6	4	5	5	8	74
	外来	3	4	3	1	0	1	2	0	3	0	0	1	18
心臓血管外科	入院	25	30	30	26	25	33	40	35	40	42	27	26	379
	外来	13	5	2	11	11	13	8	3	9	11	6	2	94
脳神経外科	入院	6	8	16	12	21	8	13	22	6	20	17	16	165
	外来	0	2	1	1	0	2	0	1	0	0	2	2	11
整形外科	入院	75	77	90	86	97	85	88	86	95	88	82	86	1,035
	外来	2	6	4	8	8	6	5	7	5	4	4	7	66
婦 人 科	入院	7	5	6	6	6	7	8	5	3	4	3	6	66
	外来	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
眼　　科	入院	23	23	29	22	12	24	31	30	18	27	35	22	296
	外来	14	16	12	12	11	7	13	13	17	16	16	16	163
耳鼻咽喉科	入院	4	5	3	4	5	1	3	7	3	5	7	7	54
	外来	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1
形成外科	入院	8	5	10	7	11	11	11	8	12	8	10	7	108
	外来	1	3	0	5	1	3	2	4	3	0	0	3	25
小児外科	入院	2	1	6	4	4	7	3	4	4	7	3	9	54
	外来	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
そ の 他	入院	5	5	0	4	5	4	2	5	5	6	2	4	47
	外来	6	10	5	12	11	7	12	6	20	3	12	13	117
計	入院	273	313	324	301	317	317	339	335	313	319	318	349	3,818
	外来	93	113	103	119	111	116	116	116	119	98	122	113	1,339

※手術室・血管造影室・内視鏡・救急処置室で行ったもの全て

手術件数（入院のみ・時間帯別）

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合　計
循環器内科	日勤	24	31	30	23	33	27	33	29	22	22	28	40	342
	緊急	3	0	0	0	4	0	5	0	0	3	2	2	19
消化器内科	日勤	46	60	42	42	48	58	55	50	49	38	53	64	605
	緊急	7	6	6	3	6	3	7	1	6	7	4	7	63
消化器外科	日勤	31	48	46	53	34	41	28	46	44	32	40	41	484
	緊急	1	1	2	2	3	2	1	1	2	5	0	4	24
呼吸器外科	日勤	6	8	5	7	3	6	11	6	4	5	5	8	74
	緊急	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
心臓血管外科	日勤	20	28	29	25	21	32	37	34	38	40	25	25	354
	緊急	5	2	1	1	4	1	3	1	2	2	2	1	25
脳神経外科	日勤	6	7	15	10	20	8	12	20	5	16	16	15	150
	緊急	0	1	1	2	1	0	1	2	1	4	1	1	15
整形外科	日勤	66	65	75	75	87	73	78	84	93	88	82	86	952
	緊急	1	1	0	0	0	0	0	2	2	0	0	0	6
婦 人 科	日勤	7	5	6	6	6	7	8	5	3	4	3	6	66
	緊急	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
眼　　科	日勤	23	23	29	22	12	24	31	30	18	27	35	22	296
	緊急	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
耳鼻咽喉科	日勤	4	5	3	4	5	1	3	7	3	5	7	7	54
	緊急	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
形成外科	日勤	8	5	9	5	10	10	11	8	12	8	10	7	103
	緊急	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
小児外科	日勤	2	1	6	4	4	7	3	4	4	7	3	9	54
	緊急	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
そ の 他	日勤	4	5	3	3	5	4	2	4	5	4	1	3	43
	緊急	1	0	0	1	0	0	0	1	0	2	1	1	7
合計	日勤	247	291	298	279	288	298	312	327	300	296	308	333	3,577
	緊急	18	11	10	9	18	6	17	8	13	23	10	16	159

病床利用率

	年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
一般病棟	2021	58.6%	71.7%	76.6%	76.8%	81.7%	82.1%	79.9%	77.7%	84.0%	83.5%	80.8%	81.3%
	2022	85.3%	82.8%	85.0%	83.2%	77.4%	81.6%	76.4%	74.7%	74.9%	80.4%	85.0%	82.5%
特定集中	2021	70.4%	73.8%	64.2%	80.2%	83.9%	80.0%	77.4%	85.4%	96.0%	90.7%	75.4%	85.9%
	2022	91.3%	92.7%	87.9%	87.9%	87.9%	82.1%	87.1%	85.0%	90.7%	96.8%	94.2%	88.7%
回復期リハ	2021	55.7%	80.0%	100.4%	100.8%	97.2%	98.5%	98.9%	100.5%	101.2%	99.6%	97.5%	99.9%
	2022	99.2%	100.0%	100.5%	93.1%	99.1%	97.4%	97.3%	81.3%	87.1%	100.8%	90.0%	100.6%
地域包括ケア	2021	44.7%	74.6%	83.9%	82.8%	79.1%	89.3%	92.8%	86.9%	96.5%	95.1%	95.9%	91.0%
	2022	85.0%	86.2%	95.2%	92.2%	85.6%	95.9%	85.2%	69.5%	64.8%	88.3%	91.3%	81.3%
療養病棟	2021	79.2%	82.0%	77.3%	78.2%	91.5%	96.5%	95.9%	91.6%	99.2%	99.1%	100.0%	99.1%
	2022	87.3%	90.8%	96.4%	95.5%	86.2%	76.1%	88.8%	88.6%	82.7%	92.0%	97.5%	92.6%
合　　計	2021	59.1%	73.9%	79.9%	80.1%	84.1%	86.1%	84.9%	82.5%	88.7%	88.0%	86.1%	86.2%
	2022	82.9%	82.7%	84.8%	82.1%	77.8%	80.2%	81.0%	76.5%	72.6%	80.9%	85.0%	82.9%

主な指導料・管理料

		点数	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	月平均
1	救急医療管理加算1，2	420～6900	1,554	1,744	1,558	1,411	1,708	1,736	1,776	1,687	2,371	2,095	1,625	1,780	1,754
2	夜間休日緊急搬送医学管理料	600＋400	157	206	162	199	204	195	189	118	225	237	183	194	189
3	特定集中治療室管理料3（最大14日）	6286～9697	210	196	171	158	171	167	206	187	204	184	174	178	184
4	麻酔管理料1	250～1050	114	131	139	121	130	119	125	133	116	109	111	126	123
5	病理組織標本作製	860	305	315	395	369	323	357	336	366	341	325	348	392	348
6	ＭＲＩ撮影加算	100～600	172	118	123	125	128	132	135	128	126	144	142	137	134
7	外来腫瘍化学療法診療料1	700・400			217	225	196	223	223	210	195	202	179	211	208
8	外来栄養食事指導料　初回・２回目（クリニック実施分）	260·200	77	79	98	81	71	64	67	80	64	75	85	95	78
9	入院栄養食事指導料１　初回・２回目	260·200	79	80	87	96	64	64	107	84	71	73	64	102	81
10	集団栄養食事指導料	80	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
11	薬剤管理指導料　※1・2含む	325・380	699	768	845	804	750	797	810	776	633	787	813	913	783
12	無菌治療室管理加算（S5西クリーンルーム）	3,000	169	117	169	171	168	175	165	170	170	204	205	169	171
13	無菌製剤処理料1，2	40～180	359	343	424	362	341	346	312	264	266	338	298	289	329
14	リハビリ総合計画評価料	240・300	833	788	795	852	886	747	808	771	770	793	784	904	811
15	退院時リハビリテーション指導料	300	228	199	246	271	230	220	211	244	220	177	210	243	225
16	在宅患者訪問リハビリ指導料	300	12	14	38	30	19	10	16	14	10	10	13	10	16
17	初診料	288	535	645	552	623	605	534	620	399	716	762	528	522	587
18	診療情報提供料（Ⅰ）（Ⅱ）	250～500	202	226	219	244	215	234	269	240	253	257	287	254	242
19	肺血栓塞栓症予防管理料	305	92	101	99	114	111	103	106	101	107	103	109	114	105
20	栄養サポートチーム加算	200	433	427	476	453	407	410	398	454	403	402	399	429	424
21	入退院支援加算１ イ 一般病棟	700	106	111	122	146	116	124	141	133	108	86	121	137	121
22	入退院支援加算１ ロ 療養病棟	1,300	1	3	4	4	4	1	5	10	2	8	10	10	5
23	急性期患者支援病床初期加算（地域包括・療養）	50・150・300	460	478	661	426	470	533	587	538	569	658	583	707	556
24	認知症ケア加算1	18～160	336	342	267	210	193	277	449	597	681	744	591	476	430
25	ＩＣＵ早期栄養介入管理加算	250・400	108	102	74	78	101	89	123	117	114	94	95	102	100
26	一般名処方加算1・2	5～7	5,407	5,152	5,549	5,367	5,725	5,484	5,533	5,535	6,028	5,563	5,176	6,300	5568
27	せん妄ハイリスク患者ケア加算	100	149	181	158	174	166	139	166	170	130	173	153	178	161
28	感染対策向上加算１（入院初日）	710	460	488	521	509	520	480	537	410	473	497	469	519	490

地域がん登録部位別件数

部位名	第１段階　ICD-O-2　形態コード	第２段階　ICD-O-3　形態コード	件数
口腔・咽頭		C00-14	1
食道		C15	17
胃		C16	111
小腸		C17	1
結腸		C18	79
直腸Ｓ状結腸移行部		C19	1
直腸		C20	24
肝臓		C22	22
胆嚢・胆管		C23-24	19
膵臓		C25	35
気管支・肺		C34	54
骨・軟骨		C40-41	1
皮膚		C44	3
後腹膜・腹膜		C48	1
乳房		C50	5
卵巣		C56	1
前立腺		C61	4
精巣		C62	2
腎盂		C64	1
尿管		C66	1
膀胱		C67	1
脳・中枢神経系		C700,C71C722-729,C751-753	1
悪性リンパ腫	959-972/974-975	リンパ腫	51
多発性骨髄腫	973,956	骨髄腫	21
白血病	980-994	白血病	35
他の造血器腫瘍	995-998	造血器腫瘍	2
計			491

院内・院外　研修・講演会一覧

医局（症例発表・抄読会・予演会・CPC・学術集会）

テーマ	発　表　者	場　　所	日　　付	参加人数
予演会「リンパ節限局 AL アミロイドーシスの一例」	甲斐　世理奈	筑波記念病院	2022.6.22	12
CPC「免疫不全による脳症で意識障害を起こし、死亡した一例」	臨床側：齋藤　祥愛 病理側：大和　万里子	筑波記念病院	2022.6.29	18
CPC「後腹膜腫瘍により腎後性腎不全となり死亡した症例」	臨床側：岡口　和也 病理側：大和　万里子	筑波記念病院	2022.9.28	10
CPC「副腎癌から多発性癌転移になり多臓器不全で死亡した一例」	臨床側：林　竜一郎 病理側：大和　万里子	筑波記念病院	2022.12.21	17
CPC「悪性リンパ腫疑いで死亡した１例」	臨床側：高木　亮輔 病理側：大和　万里子			
学術集会「リンパ節限局 AL アミロイドーシスの１例」	甲斐　世理奈	筑波記念病院	2023.1.11	41
学術集会「びまん性大細胞型 B 細胞性リンパ腫と CD8 陽性顆粒リンパ球増多症の合併例」	志賀　美保			
学術集会「啼泣時無呼吸・チアノーゼ発作の診断的精査と治療方針」	関本　茉莉子			
学術集会「救命困難とされた重症くも膜下出血後に生存した一例」	鶴田　沙織			
学術集会「マックリン効果により緊張性縦隔気腫をきたした間質性肺炎の１例」	並木　智宏			
学術集会「突然発症の片側性下肢痛において致死的疾患を見逃さないための診療」	塙　史帆			
学術集会「経過観察入院後に診断しえた NOMI の１例」	村山　直之			
学術集会「ベーチェット病との鑑別に難渋した 潰瘍性大腸炎の１例」	柳元　誠			
CPC「成人 T 細胞白血病（ATL）のリンパ腫型に対して化学療法施行後に死亡した１例」	臨床側：椿山　正哉 病理側：大和　万里子	筑波記念病院	2023.2.1	13
CPC「肺炎・ACSを契機とした心不全で 死亡した1例」	臨床側：小形　雄大 病理側：大和　万里子	筑波記念病院	2023.3.1	14

医局（研修医勉強会）

内　　容	発　表　者	場　　所	日　　付	参加人数
循内　処方勉強会	榎本　強志	筑波記念病院	2022.4.8	9
研修医勉強会　ガウンテクニック	戒能　多佳子	筑波記念病院	2022.4.13	10
緩和ケア　処方勉強会	長岡　広香	筑波記念病院	2022.4.14	9
採血演習	看護部	筑波記念病院	2022.4.15	9
代内　処方勉強会	片山　暁子	筑波記念病院	2022.4.15	9
抗菌　処方勉強会	佐藤　祐二	筑波記念病院	2022.4.19	9
総合　処方勉強会	佐藤　祐二	筑波記念病院	2022.4.19	9
消内　処方勉強会	佐浦　勲	筑波記念病院	2022.4.21	8
麻酔　処方勉強会	冨田　絵美	筑波記念病院	2022.4.22	9
内科症例勉強会	東田　俊彦・加藤　佑介	筑波記念病院	2022.4.25	10
研修医勉強会　カルテの書き方	児玉　泰介	筑波記念病院	2022.4.27	7
呼内　処方勉強会	坂本　透	筑波記念病院	2022.4.27	7
研修医勉強会　プレゼンテーションの方法	児玉　泰介	筑波記念病院	2022.5.11	6
内科症例勉強会	東田　俊彦・加藤　佑介	筑波記念病院	2022.5.23	11
研修医勉強会　意識障害	小森　大輝	筑波記念病院	2022.5.25	6

救急科ケースカンファレンス	群星沖縄臨床研修センター長 徳田　安春	筑波記念病院	2022.6.6	18
研修医勉強会　NIHSS　診察と評価	入山　大希	筑波記念病院	2022.6.8	7
研修医勉強会 抗菌薬と感染症のきほん―き「感染症の三角形」「発熱患者の見方」	小森　大輝	筑波記念病院	2022.6.22	5
研修医勉強会 抗菌薬と感染症のきほんーほ「ペニシリン」「セフェム」「カルバペネム」	小森　大輝	筑波記念病院	2022.7.13	7
研修医勉強会 抗菌薬と感染症のきほんーん「抗菌薬の選び方」「de-escalation、escalation」	小森　大輝	筑波記念病院	2022.7.27	6
CVC ハンズオン	田島啓一・髙瀬肇	筑波記念病院	2022.7.28	7
研修医勉強会 輸液療法「1 号液」「3 号液」「外液」「高カロリー輸液」	小森　大輝	筑波記念病院	2022.8.10	7
研修医勉強会　胸痛	入山　大希	筑波記念病院	2022..8.24	3
研修医勉強会　呼吸困難	入山　大希	筑波記念病院	2022.9.14	4
研修医勉強会 BLS ／ ACLS「CPA の対応」「5H5T」	小森　大輝	筑波記念病院	2022.9.28	9
研修医勉強会　アナフィラキシー	小森　大輝	筑波記念病院	2022.10.12	4
血液型判定・交差適合試験	臨床検査部	筑波記念病院	2022.12.21	10
研修医勉強会　頭痛	入山　大希	筑波記念病院	2023.1.11	5
研修医勉強会　腹痛	入山　大希	筑波記念病院	2023.1.18	5
超音波検査診断	鯨岡　結賀	筑波記念病院	2023.1.18	9
研修医勉強会 敗血症性ショック、糖尿病	入山　大希	筑波記念病院	2023.1.25	5
研修医勉強会 意識消失「痙攣」「失神」	入山　大希	筑波記念病院	2023.2.1	6
導尿レクチャー	上岡　克彦	筑波記念病院	2023.2.8	7
研修医勉強会　電解質異常－ Na	入山　大希	筑波記念病院	2023.2.14	7
研修医勉強会　外傷 JATEC-Primary survey	小森　大輝	筑波記念病院	2023.2.22	6
研修医勉強会　電解質異常 -K	入山　大希	筑波記念病院	2023.3.1	10
研修医勉強会　栄養の計算「必要栄養素」「BMI」「ハリスペネディクト」、めまい	戒能　多佳子	筑波記念病院	2023.3.7	7
研修医勉強会　血ガスの読み方「アシドーシス」「アルカローシス」	日浦　とき雄	筑波記念病院	2023.3.15	14
研修医勉強会　ショック「4 つのショック」	小森　大輝	筑波記念病院	2023.3.22	8

地域医療連携部（地域医療連携公開講座）

内　　容	講　　師	場　　所	年　月　日
緩和ケアチームの活動をどう浸透するか	筑波記念病院 高橋　久美子	筑波記念病院	2022.6.7
緩和ケアと地域包括ケアをどう統合するか	筑波大学医学医療系 木澤　義之		
循環器医から見た　GLP-1 受容体作動薬の有用性	森山記念病院　循環器内科 清末　有浩	筑波記念病院	2022.7.27
当院 NST の取り組み	筑波記念病院　栄養管理課 藤本　亮	筑波記念病院	2022.8.26
明日から実践！外科医が教える栄養療法	水戸済生会総合病院 消化器センター 丸山　常彦		

当院の内視鏡手術の現状	筑波記念病院　消化器外科 岩﨑　喜実	筑波記念病院	2022.9.8
ロボット手術の現状と展望	東京医科大学病院 永川　裕一		
マックリン効果により生じた間質性肺炎症例の緊急性縦隔気腫	筑波記念病院 並木　智宏	筑波記念病院	2022.10.17
COVID-19 及び懸念される新興感染症について	筑波大学附属病院　感染症科 鈴木　広道		
前立腺癌治療最前線～ロボット手術から薬物療法まで～	東京慈恵会医科大学泌尿器科 木村　高弘	筑波記念病院	2022.11.22
呼吸困難を主訴に来院した若年女性の一例	筑波記念病院 志賀　美保	筑波記念病院	2023.1.23
めまいで見つかった脳脊髄液減少症	筑波記念病院　脳神経外科 相山　仁		
あしたから活かせる！偏頭痛の最新情報	筑波大学医学医療系脳神経外科 石川　栄一		
高次脳機能障害を見逃さないために	筑波記念病院　リハビリテーション科 安岡利一	筑波記念病院	2022.11.22

医療法人社団 筑波記念会2022年度年報

発行者：医療法人社団 筑波記念会
〒 300-2622　茨城県つくば市要 1187-299
TEL 029-864-1212
FAX 029-864-8135
https://tsukuba-kinen.or.jp/

筑波記念病院
TSUKUBA MEMORIAL HOSPITAL